

東ティモール民主共和国  
道路施工技術能力向上プロジェクト  
終了時合同評価報告書

平成26年8月  
(2014年)

独立行政法人国際協力機構  
社会基盤・平和構築部

基盤
JR
13-292



東ティモール民主共和国  
道路施工技術能力向上プロジェクト  
終了時合同評価報告書

平成26年8月  
(2014年)

独立行政法人国際協力機構  
社会基盤・平和構築部



## 序 文

独立行政法人国際協力機構は、東ティモール民主共和国との討議議事録（R/D）等に基づき、「東ティモール道路施工技術能力向上プロジェクト」を2010年7月から2013年2月までの計画で実施しました。

今次終了時評価調査は、本プロジェクトの活動実績や目標達成度、成果、今後の課題等を調査、分析、確認し、評価5項目の観点から評価を行うとともに、東ティモール側と協議、共有したうえでミニッツ（M/M）に取りまとめました。本報告書は、今回の調査結果を取りまとめたものです。

ここに、本調査にあたりご協力賜りました関係各位に対しまして深甚なる謝意を表しますとともに、今後のプロジェクトの実施・運営にあたり、関係各位の更なるご協力をお願いする次第です。

平成26年8月

独立行政法人国際協力機構  
社会基盤・平和構築部長 中村 明



# 目 次

序 文  
目 次  
図表目次  
略語表

終了時評価結果要約表

第1章 終了時評価の概要	1
1-1 評価の背景と概要	1
1-2 メンバー構成	1
1-3 評価日程	2
1-4 面談者リスト	3
第2章 プロジェクト概要	4
2-1 プロジェクトの背景	4
2-2 プロジェクトの構成	6
第3章 評価手法	8
3-1 評価の枠組み	8
3-2 情報収集の方法	9
3-3 評価用 PDM	10
第4章 評価結果	12
4-1 実績と実施プロセス	12
4-1-1 投入	12
4-1-2 活動実績	14
4-1-3 成果の達成	16
4-1-4 プロジェクト目標の達成度	18
4-1-5 上位目標達成の見込み	19
4-1-6 中間評価での提言に対する活動	20
4-1-7 実施プロセス	21
4-2 5項目による評価	23
4-2-1 妥当性	23
4-2-2 有効性	23
4-2-3 効率性	24
4-2-4 インパクト	25
4-2-5 持続性	25

第5章 結 論	26
第6章 提言及び教訓	27
6-1 提 言	27
6-2 教 訓	27
付属資料	
1. PDM・PO	31
2. 評価グリッド	36
3. 質問状	45
4. 回答の総括表	59

## 図 表 目 次

表 2 - 1	東ティモールの道路総延長	4
表 2 - 2	外部機関の道路部門への支援	5
表 2 - 3	プロジェクトの構成	7
表 3 - 1	評価基準	8
表 3 - 2	プロジェクト作成資料	9
表 3 - 3	PDM の改訂前後比較	10
表 4 - 1	日本人専門家派遣	12
表 4 - 2	供与機材	12
表 4 - 3	本邦研修	13
表 4 - 4	第三国研修（インドネシア）	13
表 4 - 5	C/P 要員人数	13
表 4 - 6	活動実績 1	14
表 4 - 7	活動実績 2	15
表 4 - 8	活動実績 3	15
表 4 - 9	成果 1 の達成見込み	16
表 4 - 10	成果 2 の達成見込み	17
表 4 - 11	成果 3 の達成見込み	17
表 4 - 12	プロジェクト目標の達成見込み	18
表 4 - 13	上位目標の達成見込み	19
図 2 - 1	東ティモール 道路網	4
図 2 - 2	公共事業省（MPW）組織図（2012 年以降）	5
図 4 - 1	国道の補修優先度	22



## 略 語 表

略 語	欧 文	和 文
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
BRDB	Bridge Registry Data Base	橋梁台帳 D/B
CADEFEST	Project for Capacity Development for the Faculty of Engineering, Science and Technology, UNTL	東ティモール科学技術工科大学強化事業
CBRM	Project for the Capacity Building of Road Maintenance in the Democratic Republic of Timor-Leste	道路維持管理能力向上プロジェクト
CDRW	Project for the Capacity Development of Road Works in the Democratic Republic of Timor-Leste	道路施工技術能力向上プロジェクト
C/P	Counterpart	カウンターパート
CPV	Commitment & Payment Voucher	支払い承認票
C/S	Case Study	ケーススタディ
DAC	Development Assistance Committee of OECD	OECD 開発援助委員会
D/B	Database	データベース
DRBFC	Directorate of Road, Bridge and Flood Control	道路橋梁治水局
DRD	Directorate of Research and Development	調査開発局
EMDB	Equipment Management Database	機材管理データベース
EOJ	Embassy of Japan	日本大使館
FY	Fiscal Year	会計年度
GoTL	Government of Timor-Leste	東ティモール政府
IGE	Institute of Equipment Management	資機材管理庁
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JE	Japanese Expert	日本人専門家
JEG	Japan Engineering Group	自衛隊技術部隊
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
M/D	Minutes of Discussion	合意議事録
MM	Man Months	人月
M/M	Minutes of Meeting	ミニッツ（協議議事録）

MPW	Ministry of Public Works	公共事業省
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
OJT	On the Job Training	現場訓練
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
R/D	Record of Discussions	討議議事録
RMMDB	Road Maintenance Management Database	道路維持管理データベース
SDP	Strategic Development Plan for East Timor	東ティモール戦略的開発計画
T/C	Technical Corporation	技術協力
ToR	Term of Reference	業務規定書
TWG	Technical Working Group	技術作業グループ
UNTL	National University of Timor-Leste	東ティモール国立大学

## 終了時評価結果要約表

1. 案件の概要	
国名：東ティモール民主共和国	案件名：道路施工技術能力向上プロジェクト (CDRW)
分野：道路	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：社会基盤・平和構築部 運輸交通・情報通信グループ 第三チーム	協力金額：約 3 億 5,000 万円
協力期間	2010 年 7 月～2013 年 2 月
	先方関係機関：公共事業省 (MPW)、道路橋梁治水局 (DRBFC)、資機材管理庁 (IGE)
	日本側協力機関：－
	他の関連協力：道路維持管理能力向上プロジェクト (CBRM)
<p>1-1 協力の背景と概要</p> <p>東ティモール民主共和国（以下、「東ティ」国）においては、道路交通が移動手段の中心であり、荷役の 70%、旅客の 90%を占める。「東ティ」国は、2002 年の独立以降「国家開発計画」及び「東ティモール戦略的開発計画 (Strategic Development Plan for East Timor : SDP) 2011-2030」に従い、道路網の整備・改善を推進してきている。インフラ省〔Ministry of Infrastructure、2012 年に名称変更：現在は、公共事業省 (Ministry of Public Works : MPW)〕は、定期点検による損傷箇所の特特定や補修、自然災害による被災箇所の応急復旧工事などを行っているが、「東ティ」国はその大半を急峻な山岳地帯が占める島嶼国であり、豪雨、地すべり、洪水などの自然災害にたびたび見舞われている。この自然災害により、毎年道路は深刻な被害を受けており、「東ティ」国が道路整備を進めているにもかかわらず、道路状況は年々悪化してきている。</p> <p>このような状況から脱し適切な道路維持管理を行うため、独立行政法人国際協力機構 (JICA) は 2005 年から 2007 年にかけて、道路橋梁治水局 (DRBFC) 及び資機材管理庁 (IGE) の能力向上を目的とした技術協力プロジェクト「道路維持管理能力向上プロジェクト (CBRM)」を実施した。このプロジェクトにより、DRBFC 及び IGE では計画に基づいた一定の道路維持管理業務を行うことができるようになり、維持管理に必要な予算要求、維持管理作業が実施されるようになった。他方、維持管理対象路線の劣悪な状態に加え急峻な地形条件により頻発する自然災害 (土砂災害) への対応に追われており、さらに DRBFC 及び IGE での慢性的な人手不足、組織及び個人の能力不足等により、道路を健全な状態に保てるまでの組織的能力は依然不足している状況にある。</p> <p>かかる状況の下、「東ティ」国政府は日本政府に対して、「道路維持管理能力向上プロジェクト (CBRM)」の成果の更なる活用に向けた技術協力プロジェクトの実施を要請し、本技術協力プロジェクト (CDRW) が、2010 年の 7 月より開始された。</p> <p>1-2 協力内容</p> <p>(1) 上位目標</p> <p>いくつかの主要な国道 (幹線) の道路状況が改善される。</p>	

## (2) プロジェクト目標

DRBFC 及び IGE による道路の施工（維持管理を含む）に係る技術・マネジメント能力が強化される。

## (3) 成果

- 1) 道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる。
- 2) DRBFC により道路建設工事（維持／補修を含む）が、十分な品質で行われる。
- 3) IGE 保有の機材が適切に維持管理される。

## (4) 投入

日本側：短期専門家 4 名、機材供与 5,000 万円 総計 3 億 5,000 万円

相手側：カウンターパート（C/P）配置、プロジェクト事務所提供、ローカルコスト負担

## 2. 評価調査団の概要

調査者	団長・総括：恒岡 伸幸 JICA 国際協力専門員 評価分析：兼田 公揮 ペガサスエンジニアリング（株） 協力企画：間宮 圭 JICA 経済基盤開発部運輸交通・情報通信第三課
調査期間	2013 年 1 月 15 日～2 月 5 日

## 3. 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

#### 3-1-1 成果の達成度

【成果 1】道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる。

成果 1 は、おおむね達成されたと判断される。DRBFC 職員は道路状況の調査・点検を自立的に行うことができ、道路維持管理データベース（D/B）を更新できるようになった。維持補修や自然災害発生時の緊急対応は、プロジェクトによる技術移転をベースにほぼ実施されている。また、更新された道路維持管理 D/B を基にした道路維持管理計画の策定が可能となり、また必要な予算計画の策定ができるようになった。

【成果 2】DRBFC により道路建設工事（維持／補修を含む）が、十分な品質で行われる。

成果 2 は、おおむね達成されたと判断される。ケーススタディ（C/S）の現場においてカウンターパート（C/P）への工事管理手法の技術移転を図った。その後、C/S に従事した C/P からその他職員へセミナーや現場訓練（OJT）を通して、特に施工計画・施工監理について技術の再移転が進められた。DRBFC の関係職員の多くは、今回実施した技術移転の内容が災害時の復旧工事においても役立つものとして技術移転の価値を認めている。

【成果 3】IGE の保有機材が適切に維持管理される。

成果 3 は、達成されたと判断される。IGE の機材管理は、損傷の種類や原因毎の補修方法が体系的かつ具体的に技術移転されたほか、機材管理 D/B に運転履歴や補修履歴が記録されるなど、適切に維持管理されるようになった。

#### 3-1-2 プロジェクト目標の達成の見込み

プロジェクト目標は、「DRBFC 及び IGE による道路の施工（維持管理を含む）に係る技術・

マネジメント能力が強化される」である。3つの成果がおおむね達成される見込みであり、プロジェクト目標はおおむね達成されている。また、一部未達成の指標があるものの、プロジェクト目標を評価する指標より、道路の施工（維持管理を含む）に係る技術・マネジメント能力はプロジェクト前と比較しておおむね向上していると判断できる。特に指標1（道路維持管理 D/B）及び指標2（調査及び評価の状況）は道路維持管理サイクルの根幹を成すものであり、プロジェクト目標達成への寄与率が高い。

### 3-1-3 上位目標の達成の見込み

上位目標は、「いくつかの主要な国道（幹線）の道路状況が改善される」である。現時点で道路の劣化箇所は減少しておらず、道路維持管理予算の潤沢な確保ができていない。しかし、本プロジェクトにて向上した施工・マネジメント能力により、DRBFC 自身によって維持補修・改修工事が実施される見込みがあることに加え、プロジェクト期間内に供与される小規模補修機材による維持補修工事が各事務所において実施されることで、道路の劣化箇所は減少していくと考えられる。また予算についても必要最低限は確保されていることから、上位目標はプロジェクト終了より3～5年後に達成される見込みである。

### 3-2 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

特になし。

#### (2) 実施プロセスに関すること

道路維持管理 D/B が本プロジェクトにおいて改善されたことで、維持修繕費用の見積りに活用できるようになるとともに、定期点検の結果をベースに優先順位づけされた工事が重視されるようになった。DRBFC は、道路維持管理 D/B の実践的な手法を高く評価している。

### 3-3 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

特になし。

#### (2) 実施プロセスに関すること

プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）はプロジェクト実施上の基本でありながら、C/P による PDM の理解が不足している。JICA 専門家によるセミナーや C/S の工事における OJT の内容は高く評価されるが、その反面で C/P にとっては受動的になりやすく、C/P のコアメンバーによる DRBFC・IGE のその他職員への技術移転の機会を設けるなど、C/P 側のオーナーシップ醸成の工夫をすれば、その過程で PDM・プロジェクト自体への理解も深まるものと思料される。

### 3-4 評価結果の要約

#### (1) 妥当性

プロジェクト目標は、「東ティ」国政府の「国家開発計画」及び「東ティモール戦略的開発計画（Strategic Development Plan for East Timor : SDP）2011-2030」に合致するものであり、日本政府の対東ティモール国向け援助計画にある運輸セクターの道路網整備への支

援にも合致している。また、C/P の DRBFC 及び IGE は「東ティ」国内の道路維持管理を実施しているものの、その道路維持管理が十分に機能していなかったこと、維持管理能力の不足から人材育成の重要性が高かったことから本プロジェクトの実施機関としての選定は妥当である。以上より、プロジェクトの妥当性は高い。

## (2) 有効性

DRBFC 及び IGE 職員を対象に、道路の施工（維持管理を含む）に係る技術マネジメント能力を向上させるというプロジェクト目標がどの程度達成されたか、3 つの成果から判断する。

まず成果 1 として、道路維持管理については自立した道路状況の調査が可能となっており、道路維持管理 D/B を基にした道路維持管理計画の策定が可能となっている。次に成果 2 として、維持補修を含む道路建設工事は、自然災害の多発が道路品質を保つのに大きな障害となっているものの、C/S では工程管理から品質管理まで十分な品質を保って実施された。最後に成果 3 として、保有機材については、機材点検の指導、運行工程表・機材運行表の徹底により、適切に管理されている。

以上、3 つの成果がおおむね達成されたことに加え、一部課題は残るものの、プロジェクト目標の評価指標もおおむね達成されたことから、プロジェクトの有効性は「高い」と判断される。

## (3) 効率性

投入と活動は、成果達成のために適切に実施されている。例えば、C/S などの第 2 年次活動に伴う専門家の増員調整があり、成果を効果的に達成するために適切な対応であったと判断できる。小規模補修機材についても 2014 年 8 月に供与され、同機材を使用した OJT が実施される予定である。また、小規模補修機材はその機材の特殊性により調達が難しく、当初予定よりも供与が遅れているものの、2014 年に納品される予定であり、プロジェクトの延長により同機材を使用した OJT が実施されることにより、プロジェクトの効率性はより高まると考えられる。

以上より、プロジェクトの効率性は高い。

## (4) インパクト

上位目標は中間評価時に「東ティモール国における道路の円滑な通行が安定的・継続的に確保される」から「いくつかの主要な国道（幹線）の道路状況が改善される」へ変更された。これは、「東ティ」国の道路状況にかんがみて、道路の円滑な通行（走行性）よりも道路状況の改善（通行可能性）に重きを置いた変更である。この上位目標は、プロジェクトで向上した施工・マネジメント能力により、DRBFC 自身によって維持補修・改修工事が実施される見込みがあることに加え、プロジェクト期間内に供与される小規模補修機材による維持補修が実施されることで、道路の劣化箇所は減少していく見込みである。また、必要最小限の予算は確保されており、道路維持管理が困難になるほど交通量は増加しない見込みであることから、上位目標の阻害要因はほとんどないといえる。さらに波及効果については、他機関・他プロジェクトとの関わりが多く、プロジェクト活動を通じた「東ティ」国の道路関係者への影響は大きいといえる。よって、上位目標はプロジェクト終了より 3～5 年後に達成される可能性は高いといえる。

以上より、プロジェクトのインパクトは「やや高い」と判断される。

## (5) 持続性

維持管理能力の向上が図られ、C/P による技術の再移転の機会がつけられたものの、維持管理能力に改善の余地があることや計画どおりに予算を執行できないなどの課題も残されている。よって、プロジェクトの持続性は「中程度」と判断される。

## 3-5 結 論

本プロジェクトは、「東ティ」国政府の運輸セクター開発の基本戦略及び日本の方針と合致していることから、妥当性は非常に高い。

おおむね達成された3つの成果より、一部課題は残るものの、プロジェクト目標もおおむね達成されたことより、有効性は高い。ただし、残る一部課題に関しては、プロジェクト期間の延長により対応することが望ましい。

投入及び活動について、機材投入の遅れを除けば、本プロジェクトはほぼスケジュールどおり良好に実施されており、効率性は高い。

上位目標について、「東ティ」国の現況に合わせた目標に変更されており、他ドナーを含めた道路整備プロジェクトと継続的な道路維持管理により、上位目標は達成される見込みであることから、インパクトは比較的高い。

C/P による技術の再移転はあったものの、維持管理能力に改善の余地があることや計画どおりに予算執行できない課題があることから、持続性は中程度である。

以上より、プロジェクト全体の評価結果は、「高い」と判断した。

なお、小規模補修機材の未供与、橋梁台帳 D/B (BRDB) の機能拡張により、維持補修工事の実施状況の更なる改善やより適切な道路維持管理の達成を期待できることから、プロジェクト期間を延長し対応することを提案する。

## 3-6 提 言

### (1) 短期的提言 (プロジェクト終了までの提言)

- ・プロジェクト実施期間の延長について
  - BRDB は、当初の PDM には含まれていなかったことから、道路維持管理 D/B の補完的役割として構築されているが、その役割は限定的で損傷情報を含む基本的な橋梁情報のみが登録されているのみである。道路維持管理予算の中でも大きな部分を占める橋梁維持管理についても予算に反映できるようにするため、BRDB の機能を拡張し、道路維持管理 D/B と同様に予算計画策定にも活用したいとの意向は強く、共通した要望となっていること、BRDB の機能拡張がプロジェクト目標達成のために必要と考えられることから、本プロジェクトのスコップとして追加することを提案する。
  - 到着が遅延していた小規模補修機材が供与されることから、プロジェクト期間を延長し、小規模補修機材の取り扱い・小規模な補修工事に関する OJT を実施することを提案する。

(なお、2014 年 5 月よりプロジェクトを延長し、BRDB の機能拡張及び小規模補修機材を用いた OJT のスコップを追加している。)

### (2) 中・長期的提言 (プロジェクト終了後に対する提言)

- ・公共事業省への提言

中間評価チームの行った提言の内容の多くは対応済みであるが、やむを得ない理由があって完了していないものもある。このため、以下について継続した努力が望まれる。

- 道路維持管理 D/B の継続した更新及び活用
- 地方事務所から橋梁維持管理 D/B へ容易にアクセスできるようにすること
- IGE による地域支局での機材管理の推進
- プロジェクトで作成されたマニュアル、教材等のプロジェクトの活動結果の普及

### 3-7 教 訓

#### (1) C/P のオーナーシップ

プロジェクト成功要因のひとつとして、セミナーにおける C/P 自身による講義など、自立性を醸成する協調アプローチがあった。このアプローチは、今後も C/P の自立性の向上やセミナーを受けていない DRBFC 職員に対する水平展開などの波及効果が期待されるものである。

#### (2) 受益国の道路状況と実施能力に合わせたプロジェクト目標の設定

支援と技術移転で重要なことは、相手国の現状をどのレベルまで改善するかといった C/P のニーズと、支援する技術レベルに合わせることである。本プロジェクトで高く評価できる点は、「東ティ」国の既存道路の状態や頻発する自然災害といった状況にかんがみ、走行性よりも通行可能性に重点を置き、自国のレベルに合わせた目標設定をしたうえで、プロジェクトを実施したことである。

## 第1章 終了時評価の概要

### 1-1 評価の背景と概要

この終了時評価は、2012年6月に承認された改訂版プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）を基に、プロジェクトの達成度を明らかにするため、下表の内容を実施したものである。なお、中間評価時には、プロジェクトをとりまく環境の変化を考慮して、PDMの改訂を含めた7項目の提案（「第4章4-1-6 中間評価での提言に対する活動」参照）を行っている。終了時評価では、当該7項目についての達成度の評価も実施した。

<終了時評価の内容>

1	事業計画における成果の達成度の確認及びプロジェクト終了時における目標達成に向けた課題と対応策の明確化。
2	中間評価時での提案内容に対して行われた活動の実績評価。
3	5項目評価に基づいたプロジェクト評価。 妥当性、効率性、有効性、インパクト、持続性。
4	プロジェクト完了に向けた活動及びプロジェクトの継続あるいは後続プロジェクト、及び上位目標達成に必要な項目について、カウンターパート（C/P）との協議を通じプロジェクト目的完遂に向けた提案。

### 1-2 メンバー構成

終了時評価は、下記の合同評価チームにより実施された。

<日本側>

氏名	担当/所属	備考
恒岡 伸幸	総括 JICA 国際協力専門員	2013年1月24日～2月5日
間宮 圭	協力企画 JICA 経済基盤開発部 計画・調整課	2013年1月28日～2月5日
兼田 公揮	評価分析 ペガサスエンジニアリング(株)	2013年1月15日～2月3日

<東ティモール側>

氏名	担当/所属	備考
フレデリック・G・サントス	主任技術アドバイザー、道路網開発部門 プロジェクト アジア開発銀行（ADB）	2013年1月28日～2月4日
ヒューゴ・デ・コータ・シメネス	東ティモール国立大学（UNTL） 土木工学科講師	2013年1月28日～2月4日

### 1-3 評価日程

評価は下記の日程で実施された。

<評価日程>

月日（曜日）	午 前	午 後
1月15日（火）		評価チーム内打合せ
16日（水）	インタビュー（v）、（w）、（u） インタビュー（v）、（w）、（u）	インタビュー（q）、 JICAにてミーティング
17日（木）	インタビュー（b）、（c）、（j）、（k）、 （l）	インタビュー（u）、（w）、（r）
18日（金）	インタビュー（s）、（h）	インタビュー（x）
19日（土）	資機材管理庁（IGE）のナタルボラ支部訪問、インタビュー（t）	
20日（日）	報告書作成	ケーススタディ（C/S）対象地訪問
21日（月）	インタビュー（p）、（i）	インタビュー（p）
22日（火）	インタビュー（e）、（m）	JICA 東京とのテレビ会議
23日（水）	インタビュー（a）、（n）、（h）	インタビュー（h）
24日（木）	インタビュー（h）	
25日（金）	JICA との打合せ	（a）、（b）との打合せ
26日（土）	報告書作成	
27日（日）	報告書作成	
28日（月）	JICA との打合せ	公共事業省（MPW）とのキックオフ ミーティング 評価チームの活動内容説明
29日（火）	報告書作成	評価チーム内打合せ
30日（水）	報告書作成	報告書の完成に向けた合同評価チ ーム打合せ
31日（木）	報告書作成	MPW とのキックオフミーティング 討議議事録（R/D）の説明
2月1日（金）	MPW 大臣との面談	JICA との打合せ R/D の完成
2日（土）	報告書作成	
3日（日）	報告書作成	
4日（月）	合同調整委員会（JCC） 1. プロジェクト活動の報告 2. 終了時評価の説明	R/D への署名（MPW） JICA 及び日本大使館への報告

注：（）は、インタビューを行った専門家及び担当者を意味する（次ページの「面談者リスト」を参照）。

#### 1-4 面談者リスト

面談者のリストは、下表のとおりである。

<面談者リスト>

氏 名	担 当
道路橋梁治水局 (DRBFC)	
(a) Mr. José Gaspar R.C.Piadade	総局長 (MPW 道路・橋梁)
(b) Mr. Rui De Carvalho	局長 (DRBFC)
(c) Mr. Milton Ramanata Monteiro,	(前) 局長
(e) Mr. Abrao Vieira	橋梁技術者
(f) Mr. Helio N.Fernandes	IGE データベース (D/B) 技術者 (IT 部門)
(g) Mr. Joao Gama	施工計画主任
(h) Mr. Joao Pedro Amaral	道路施工管理・エンジニア (ディリ地区)
(i) Mr. Aniceito A .T. Andrade	主任技術者 (DRBFC マリアナ地区)
(j) Mr. Julito Perira	D/B 専門家 (マリアナ地区)
(k) Mr. Marcos Filomeno da Costa	D/B 専門家 (マリアナ地区)
(l) Mr. Antonio de Araujo	アシスタントサイトマネジャー (施工監理)
(m) Mr. Roberto B Ugalino	MPW 技術指導者
(n) Ms. Odete Genoveva V. da Costa	プロジェクトマネジャー 事業の実施機関
(o) Mr. Frederick G. Santos	主任技術指導者 道路網開発部門プロジェクト (ADB)
資機材管理庁 (IGE)	
(p) Mr. Egas Correia de Lemos	IGE 局長
(q) Mr. Luis Conseicao	IGE 資材部長
(r) Mr. Antonio Afonso Nuucs	IGE 財務部門
(s) Mr. Jose Diamantino de Oliviera	IGE 倉庫管理者
(t) Mr. Afonso M. Lui	IGE ワークショップ担当チーフ
(u) Mr. Elio Klan	IT 専門家
日本人専門家	
(v) 内藤恒治氏	専門家 (チームリーダー/道路維持)
(w) 津田龍美氏	専門家 (建設機械維持管理)
(x) 遠藤峯夫氏	専門家 (道路施工管理)

## 第2章 プロジェクト概要

### 2-1 プロジェクトの背景

東ティモール民主共和国（以下、「東ティ」国）においては、道路交通が移動手段の中心であり、荷役の70%、旅客の90%を占める。道路網の概要を、下記表2-1及び図2-1に示す。「東ティ」国は、2002年の独立以降「国家開発計画」及び「東ティモール戦略的開発計画（Strategic Development Plan for East Timor : SDP）2011-2030」に従い、道路網の整備・改善を推進してきている。

表2-1 東ティモールの道路総延長

区分	距離
国道（幹線）	1,430 km
地区道路	870 km
ディリ及び諸地域の小都市内道路	720 km
農村道路あるいは支線	3,020 km
合計	6,040 km

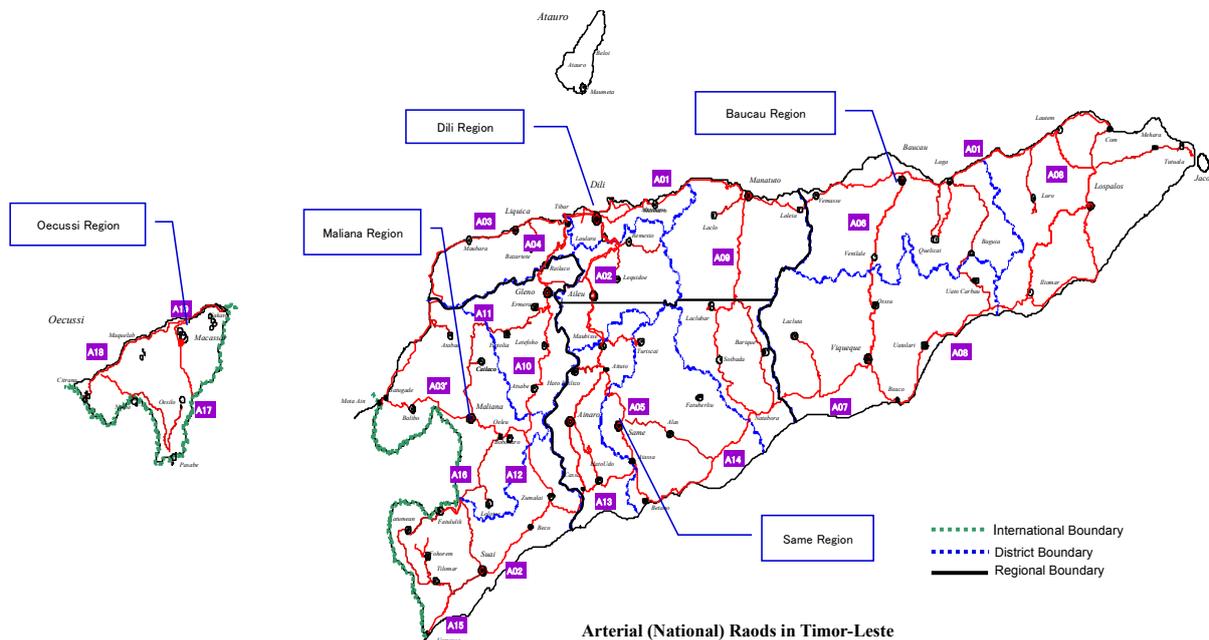
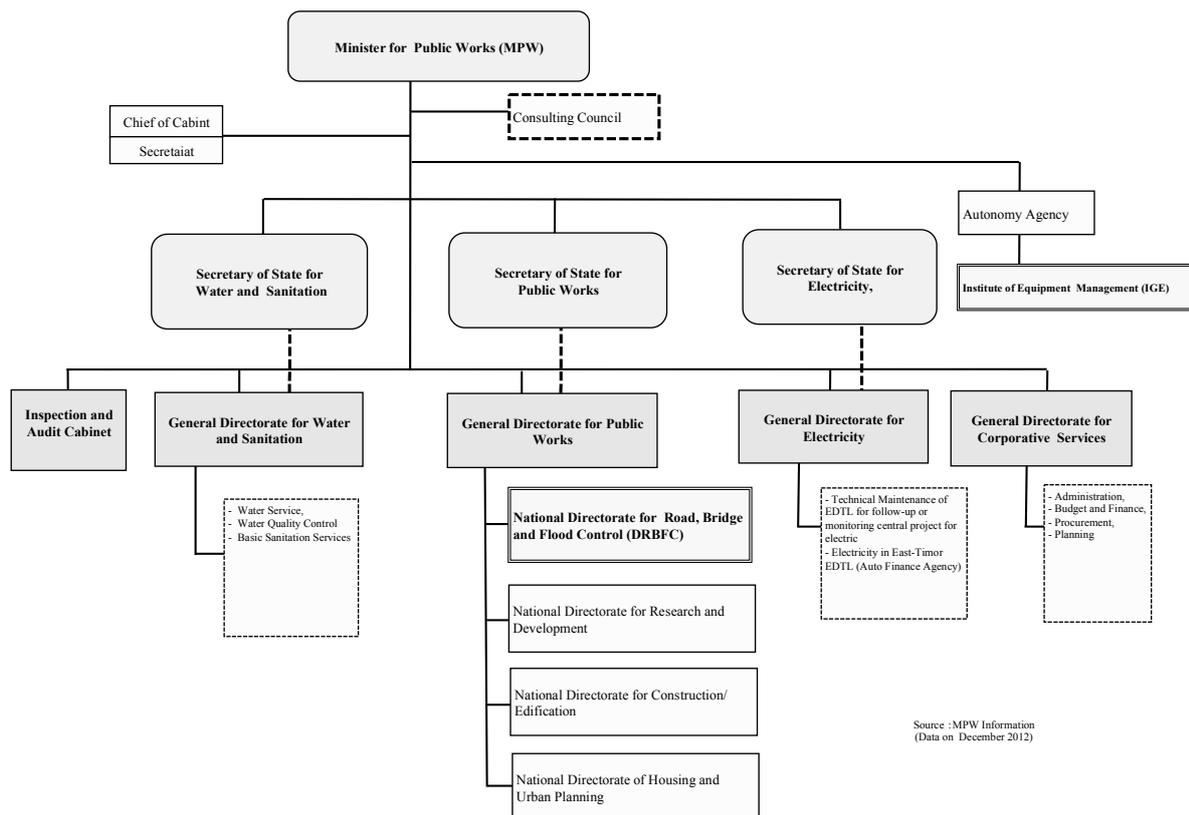


図2-1 東ティモール 道路網

インフラ省〔Ministry of Infrastructure、2012年に名称変更：現在は、公共事業省（Ministry of Public Works : MPW）〕は、日常及び定期的検査による損傷箇所の特定制や補修、自然災害による被災箇所への応急復旧工事などを行っている。



Source : MPW Information  
(Data on December 2012)

図 2 - 2 公共事業省 (MPW) 組織図 (2012 年以降)

「東ティ」国における道路整備は、表 2 - 2 に示す諸機関の支援の下に行われている。

表 2 - 2 外部機関の道路部門への支援

機 関	プロジェクト内容	承 認	完 了	合 計 (\$100 万)
技術援助				
ADB	3401-TIM : 運輸分野の修復	2000 年 2 月		1.00
	3731-TIM : 運輸分野の改善	2001 年 10 月		0.50
	7100-TIM : 道路網改善プロジェクト対応		2008 年 7 月	0.80
日 本	道路技術・管理能力に関する研修		2001 年	0.16
	緊急復旧計画に関する研究		2000 年	
	建設機器操作訓練方針		2006 年	
	社会基盤政策及び道路の専門家		2004 年～ 2006 年	
	道路施工技術能力の向上		2005 年～ 2007 年	
	道路に関するガイドライン及びマニュアル 整備の研修		2005 年～ 2007 年	0.90
無償資金協力				
ADB	0017-TIM : 道路分野の開発プロジェクト	2005 年 9 月		10.00
日 本	ディリー - アイナロー - カサ間の道路修復		2001 年	4.70
	自然災害後の緊急道路復旧プロジェクト		2002 年	0.09

	ディリ - カサ間の道路開発		2002年～ 2005年	13.13
	モラ橋の改良		2006年～ 2010年	8.96
オーストラリア	国連開発計画による地方道路開発		2000年	0.31
	Emergency Road Repairs 緊急の道路補修		2000年	0.30
ヨーロッパ連合	東部地域における市場へのアクセス改善		2004年～ 2008年	7.62
ノルウェー	道路補修		2002年	0.49

出典：ADB

「東ティ」国は、その大半を急峻な山岳地帯が占める島嶼国であり、豪雨、地すべり、洪水などの自然災害にたびたび見舞われている。この自然災害により、毎年道路は深刻な被害を受けており、「東ティ」国が道路整備を進めているにもかかわらず、道路状況は年々悪化してきている。

このような状況から脱し適切な道路維持管理を行うため、JICAは2005年から2007年にかけて、DRBFC及びIGEの能力向上を目的とした技術協力プロジェクト「道路維持管理能力向上プロジェクト（CBRM）」を実施した。このプロジェクトの結果、下記の成果が達成された。

	道路維持管理 D/B の整備
DRBFC	道路維持マニュアルの策定 道路維持連絡マニュアルの策定
IGE	機材管理 D/B の整備

これらの成果により、DRBFC及びIGEでは道路維持管理計画に基づいた一定の道路維持管理業務を行うことができるようになり、維持管理に必要な予算要求や維持管理作業が実施されるようになった。他方、維持管理対象路線の劣悪な状態に加え、急峻な地形条件により頻発する土砂災害などの自然災害への対応に追われている。また、DRBFC及びIGEでの慢性的な人手不足、組織及び個人の能力不足等により、道路を健全な状態に保てるまでの組織的能力は依然不足している状況にある。

上記のような状況のなか、「東ティ」国政府は日本政府に対して、道路維持管理能力向上プロジェクトの更なる活用に向けた、新たな技術協力プロジェクトの実施を要請した。JICAによる詳細計画調査の結果、2009年に「東ティ」国側実施機関と詳細計画調査団の間でプロジェクト概要について合意され、R/Dが2009年11月3日に署名された。このR/Dに基づき、本プロジェクト「道路施工技術能力向上プロジェクト（CDRW）」が、2010年の7月より開始された。

## 2-2 プロジェクトの構成

プロジェクトの構成は、表2-3のとおりである。

表 2-3 プロジェクトの構成

上位目標	いくつかの主要な国道（幹線）の道路状況が改善される。
プロジェクト目標	DRBFC 及び IGE による道路の施工（維持管理を含む）に係る技術・マネジメント能力が強化される。
成果 1	道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる。
成果 2	DRBFC により道路建設工事（維持／補修を含む）が、十分な品質で行われる。
成果 3	IGE 保有の機材が適切に維持管理される。
対象地域	「東ティ」国全域
対象グループ	DRBFC 及び IGE の関係職員
相手国機関名	経済社会基盤省、MPW
C/P	DRBFC
	IGE
プロジェクト期間	2010 年 7 月～2013 年 2 月
初年度	2010 年 7 月～2011 年 2 月
第 2 年度	2011 年 5 月～2012 年 2 月
第 3 年度	2012 年 5 月～2013 年 2 月

## 第3章 評価手法

### 3-1 評価の枠組み

プロジェクトの進捗と達成度の評価は、2012年6月7日に承認されたPDMに基づいて行われた。評価チームは、投入実績、活動、成果、プロジェクト目標及び進捗度合いの評価を、表3-1に示した経済協力開発機構/開発援助委員会(OECD/DAC)の5項目評価基準を用いて実施した。

表3-1 評価基準

プロジェクトの達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 投入・活動・成果の予実比較</li> <li>* 成果の達成度</li> <li>* プロジェクト目標の達成度</li> </ul>	
実施プロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>* C/Pの配置及び参加度合いの適切さ</li> <li>* オーナーシップの移転度合い</li> <li>* プロジェクトにおける、意思決定及びモニタリング手順</li> <li>* パートナーシッププログラムについての理解度</li> <li>* 役割と理解の明確度</li> <li>* プロジェクト内部及びJICAとのコミュニケーション度合い（前提条件の変更）</li> <li>* 活動実施における課題（技術移転）</li> <li>* プロジェクトモニタリングの度合い</li> </ul>	
中間評価時の提言に対する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>* MPWは道路維持管理データベース(RMMDB)の活用にあたり主導的立場をとること</li> <li>* MPWは予算の運用にあたり合理的プロセスを踏めるよう努力すること</li> <li>* IGEは老朽化した機材は廃棄すると同時に現有機材の維持管理を継続すること</li> <li>* RMMDBは地方事務所で活用されるものとする</li> <li>* 専門家は、直営工事と外注工事の運営上の違いを明確にすること</li> <li>* プロジェクトは成果とプロジェクト目標の関係を認識すること</li> </ul>	
5項目評価分類	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>* プロジェクトは、ターゲットグループのニーズ、上位目標及びプロジェクト目標は「東ティ」国の開発計画及び日本のODA方針に合致しているか。</li> <li>* ターゲットグループ及びターゲットエリアの適切さ</li> <li>* 上位目標からみた場合、プロジェクトが適切か。</li> <li>* 日本に、十分な知見・技術が蓄積されているか。</li> </ul>
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>* プロジェクト設計の適切さ（プロジェクト目標達成に対する、成果の貢献度あるいは活用度）</li> <li>* （成果達成の可能性）</li> <li>* プロジェクト目標達成へのリスク要因（外部条件を含む）</li> <li>* プロジェクト目標達成に関わる外部条件</li> </ul>

5 項目評価分類 (続き)	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 投入の効率性、管理体制、活動</li> <li>* その他支援国及びドナーとの協調</li> <li>* 実施機関の課題</li> <li>* 成果達成への貢献要因及びリスク要因</li> <li>* 成果達成に関わる外部条件</li> </ul>
	インパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 改訂版 PDM の上位目標の達成可能性</li> <li>* 波及効果の見込み</li> <li>* 上位目標とプロジェクト目標の相違</li> <li>* 上位目標達成へのリスク要因</li> <li>* 上位目標に関わる外部条件</li> </ul>
	持続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>* プロジェクト目標が、組織、財務、技術面及び特に政治的面からみて持続可能性をもつか。</li> <li>* 環境社会配慮</li> <li>* プロジェクト内容変更の必要性</li> <li>* 持続性へのリスク要因</li> <li>* 投入機材の保守管理見込み</li> </ul>

### 3-2 情報収集の方法

表3-2に示したプロジェクトにて作成した資料及び情報を収集した。

表3-2 プロジェクト作成資料

資料
道路施工技術能力向上プロジェクト開始時のインセプション・レポート
プロジェクト開始時点での、DRBFC 及びの IGE の実地調査・活動計画
道路維持 D/B のガイドライン (2・3 年度)
道路維持 D/B (初年度、2・3 年度)
道路 D/B 更新 (2・3 年度)
年間道路維持計画 (初年度、2・3 年度)
道路維持・補修計画 (初年度、2・3 年度)
橋梁台帳 D/B (BRDB) のガイドライン
BRDB の報告 (2・3 年度)
BRDB (3 年度)
機材管理 D/B (初年度、2・3 年度)
機材補充計画報告書 (初年度)
C/S 計画 (初年度)
現場管理手引き (2 年度)
2 年度の C/S 報告書

若手技術者向け、現場管理手引き（3年度）
道路施工作業能力強化のC/S報告書（3年次）
進捗報告書（初年度、2・3年度）
年次報告書（初年度、2・3年度）

また、質問状を作成し、「東ティ」国へ調査に入る前に現地へ送付した（付属資料3を参照）。質問状の大半は、5項目評価により統計的にプロジェクトのC/Pの実態把握を行うものである（付属資料4は、回答の要約である）。

### 3-3 評価用PDM

プロジェクトの周辺環境の変化を考慮し、中間評価時に下記表3-3に示した内容のPDM改訂が提案された。終了時評価では、2012年6月7日承認の本改訂版PDMに従って評価を行った（付属資料1）。

表3-3 PDMの改訂前後比較

変更箇所	変更前 PDM 2009年10月13日	改訂版 PDM 2012年6月7日	要点/理由
スーパーゴール	-	「東ティ」国における道路の円滑な通行が安定的・継続的に確保される。	上位目標はスーパーゴールへ変更。
上位目標	「東ティ」国における道路の円滑な通行が安定的・継続的に確保される。	いくつかの主要な国道（幹線）の道路状況が改善される。	当初の上位目標は3年での達成は困難と判断されたため、新しい上位目標を設定した。
上位目標の指標	1. DRBFCの道路維持D/B更新 2. 道路維持・補修工事実施 3. 道路回復工事 4. 予算執行	1. 路面の損傷箇所が減少する。 2. 道路維持及びサービスへの国家予算が増加し、単当たり道路補修費用が減少する。	指標は、上位目標の変更に合わせて変更した。
プロジェクト目標	「東ティ」国の人材（DRBFC、IGE）による道路の施工（維持管理を含む）に係る技術・マネジメント能力が強化される。	同左	変更なし。
プロジェクト目標の指標	1. 道路台帳・維持管理D/Bの活用状況 2. 維持補修工事の品質 3. 応急復旧工事の品質 4. 道路維持管理関係予算の執行状況	1. 道路台帳・維持管理D/Bの活用状況 2. 調査及び評価の実施状況 3. 維持補修工事の実施状況 4. 応急復旧工事の実施状況 5. 補修道路の品質 6. 機材の整備状況	予算に関する指標4は削除し、新たに2・5・6の内容を追加した。

成 果	1. 道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる (DRBFC 職員対象)。	1. 同左	変更なし。
	2. インフラ省の施工に係る C/S の実施を通じ、小規模工事について質の高い工事ができるようになる (DRBFC 及び IGE 職員対象)。	2. 道路建設 (維持/補修を含む) が、DRBFC により十分な品質を保って実施される。	「小規模」の記載は削除した。理由として、施工監理は相対的に大規模工事を対象とするためである。
	3. IGE 保有の機材が適切に維持管理される。	3. 同左	変更なし。
指 標	1-1~1-5	1-1~1-4 は同一。 1-5 は削除済み。	予算及び管理状況の確認は困難。

## 第4章 評価結果

### 4-1 実績と実施プロセス

#### 4-1-1 投入

R/Dの投入計画に従い、日本側、「東ティ」国側の双方は下記のとおり投入を行った。

#### (1) 専門家の派遣

日本人専門家の派遣状況を表4-1に示す。

表4-1 日本人専門家派遣

(単位：MM)

担 当	当 初	変 更	現 在
1. 道路維持管理／総括	27.10	27.20	26.70
2. 道路施工管理	25.10	17.80	17.30
3. 建設機械維持管理	25.10	22.00	22.00
4. 業務調整／D/B／維持管理	11.50	24.07	24.07
合 計	88.80	91.07	90.07

日本人専門家の派遣状況はほぼ当初の計画通りであるが、C/Sの施工監理を強化するため、2年度の専門家派遣期間が2.20人月（MM）追加された。

#### (2) 供与機材

下記の小規模補修機材及び測量機材を2年次に供与する予定であったが、機材仕様の再検討及び機材調達方法の変更に伴い、現時点では未供与となっている。

表4-2 供与機材

機 材	備 考
1 移動型溶解窯付きアスファルト散布器	機材リスト（9のトラックを除く）は、R/Dに、数量抜きで記載がある。また、“プロジェクトをより効果的に実施するために必要な機材については、プロジェクトの中で議論する必要がある”と付記されている。技術作業グループは、2010年に必要な機材について調査を行っており、同年末にDRBFC及びJICAへ“機材補充計画”（トラックを含む）を提出している。当該計画は、2011年2月のJCCで承認されている。
2 アスファルトカッター	
3 アスファルト破碎機用空気圧縮機	
4 プレートコンパクター	
5 突き固め器	
6 水準測量器、箱尺付き	
7 GPS測定器	
8 トータルステーション測量器	
9 トラック（平床型）	
合 計	

出典：CDRW Report 2011年度 IV-35

(3) 本邦研修／第三国研修（インドネシア）

本邦研修を実施し、表4-3のとおり9名が参加した。

表4-3 本邦研修

	場 所	期 間	参加名数
JICA 研修コース（初年度）	日 本		2名
JICA 研修コース（2年度）	日 本		2名（IGE）+1名（DRBFC）
JICA 研修コース（3年度）	日 本		1名（IGE）+3名（DRBFC）
合 計			9名

出典：CDRW Report II-4

また、上記の研修のほかに、表4-4に示すように、「インドネシア－東ティモール南南協力による道路分野能力向上プロジェクト」を通して、20名が第三国（インドネシア）において研修を受けた。

表4-4 第三国研修（インドネシア）

	場 所	期 間	参加者
第三国研修	インドネシア	2週間	10名×2回
合 計			20名

出典：CDRW Report II-4

(4) 「東ティ」国側の人材配置

C/Pは、プロジェクトの要請に基づき適時アサインされている。道路維持管理D/B、C/Sの施工監理などのDRBFCの技術業務及びIGEの機材管理業務へのアサインメントは表4-5のとおりである。

表4-5 C/P 要員人数

Working Group	初年度	2年度	3年度
1) DRBFCの技術業務	27	39	27
2) IGEの機材管理業務	44	44	44
合 計	71	83	71

出典：CDRW Report II-8

1人当たりの従事平均日数は年間2～3カ月である。これは、本業務に支障を来さない程度の許容範囲内の従事日数である。しかしながら、プロジェクトの効果を更に発現させるために、C/P側のより積極的な参加が望まれる。

(5) 現地経費

C/Sとして実施する修繕工事等の費用には、DRBFCの予算から約75万米ドルが支出されている。

#### 4-1-2 活動実績

技術移転はワークショップ、セミナー、ミーティング、OJTなどの機会を通して、状況と必要性に合わせて行われている。活動実績の要約を、表4-6～表4-8に記載する。

表4-6 活動実績1

成果1：道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる。	
活動内容	活動の概要
1-1 CBRMの成果をレビューし、「道路維持管理計画書」を更新する。	CBRMの成果をレビューし、データベースの運用状況を調査したうえで、データ入力により簡便になるよう道路維持管理D/Bを改良した。また、更新された道路維持管理D/Bを基に、各年にDRBFC本部及び地方事務所において「道路維持管理計画書」を作成した。
1-2 維持管理業務に係る年間作業計画を作成する。	道路維持管理D/Bの内容を基に年間作業計画を作成した。また、この年間作業計画を現地語（テトゥン語）へ翻訳し、セミナーにおいて活動結果を広めるために用いた。
1-3 平常時の「連絡マニュアル」を活用し、県道（district roads）を含めた幹線道路の点検・評価を行う。	CBRMで作成した維持管理作業の役割と手順などが記載された「連絡マニュアル」を活用し、道路維持管理D/Bの更新のために、現場訓練（OJT）を通して国道（1,400 km）の点検・評価を実施した。 県道（district roads）は地方道（rural roads）を含めると、道路延長は約4,000 kmとなり、その点検・評価には至っていない。
1-4 上記点検・評価の結果に基づき道路維持管理D/Bを更新する。	道路状況の調査により収集される情報は、地方事務所職員により道路維持管理D/Bに入力・更新されている。
1-5 更新された道路維持管理D/Bに基づき維持・補修計画を作成する。	道路維持管理D/Bを活用し、5段階のカテゴリーのうちDまたはE（緊急修復作業を必要とする箇所。Eが最も悪い）と分類された国道を優先して補修する維持・補修計画を「道路維持管理計画書」として作成した。本計画書は、復旧費の見込みを含んでいる。また、本計画書の内容や策定プロセスについてのセミナーが開催され、技術移転が図られた。
1-6 必要があれば、緊急点検・復旧工事を行う。	更新した道路維持管理D/Bに基づいて、緊急点検・復旧工事が必要な箇所が選定された。また、2011年1月に橋脚の傾きにより通行不能となった国道A03線上のロエス橋の緊急補修工事が行われた。
1-7 適切な予算の立案・管理を行う。	更新した道路維持管理D/Bを基に予算計画の策定を行った。策定された予算計画は国家の予算策定会議において説明され、この予算計画に基づき予算が配賦された。

出典：付属資料4「回答の総括表」より大項目12

表 4-7 活動実績 2

成果 2 : 道路建設 (維持/補修を含む) が、DRBFC により十分な品質を保って実施される。	
活動内容	活動の概要
2-1 DRBFC と IGE の密な協力の下に、C/S 工事 (主要道路の改良・補修工事等) を特定する。	C/S の対象地には、ルート A01 上のディリから東へ 6.7 km 地点の地すべりが頻繁に発生する地域が特定された。この対象地は、ディリに比較的近接しているため現地調査及び OJT 実施が容易であった。
2-2 DRBFC と IGE の密な協力の下に、対象工事に係る設計・積算・予算措置を行う。	DRBFC の職員は、部分的ではあるが、自ら地形測量、初期設計、予算見積もり、詳細設計及び C/S で行う工事の入札書類作成を行った。
2-3 施工計画を策定する (IGE 所有機材の調達を含む)。	施工手順・品質管理・進捗管理などを含めた施工計画が「工事管理計画書」にて策定された。
2-4 工事に係る要員を特定し、各人の責務内容を明確にする。	ディリ地方事務所が、C/S の施工監理グループとして任命された。施工管理者及び補助管理者には、現場における日々の工事管理を要求し、責務内容を明確にするとともに、実際の工事現場において構造物の出来高管理などの施工管理に係る技術移転を図った。
2-5 実際の工事現場において施工管理を行う (IGE による直接施工も含む)。	
2-6 完工検査を実施する。	「工事管理計画書」を基に、OJT を通して完工検査を実施した。さらに、完工検査を実施した職員からその他 DRBFC 職員に向けて、その検査結果がセミナーにて発表・共有された。
2-7 工事に係る安全訓練を行う。	「安全管理計画書」が工事作業向けに作成された。安全訓練として、安全セミナー及び現場ミーティングが開催され、安全上の注意事項の助言が行われた。

出典：付属資料 4 「回答の総括表」より大項目 12

表 4-8 活動実績 3

成果 3 : IGE の保有機材が適切に維持管理される	
活動内容	活動の概要
3-1 前プロジェクトの成果をレビューする。	前プロジェクトである「道路維持管理能力向上プロジェクト (CBRM)」の機材管理 D/B を再調査し、パソコンのトラブルにより使用されていないことが確認されたため、トラブルを解消し復旧させた。
3-2 電子化を含め機材台帳を更新する。	2011 年に新たな機材が 113 台購入され、あわせて機材台帳である機材管理 D/B は更新された。
3-3 貸出後・貸出前の機材点検を行う。	機材点検の指導、運行工程表・機材運行状況表の徹底により、貸出状況と貸出後の機材の状態を把握、機材の点検が実施された。

3-4 機材台帳・機材点検結果に基づき必要な修理を行う。	機材台帳・機材点検結果に基づき必要に応じて補修が行われており、補修の結果はインプットシートを通して機材管理 D/B に反映されている。
3-5 補充すべきスペアパーツの特定・発注・調達を行う。	在庫リストは機材管理 D/B に更新・登録されている。必要なスペアパーツの特定・実施・調達は実施されており、その管理状況は良好である。
3-6 メカニックを対象とした技術指導（点検・補習技術等）を実施し、習得度評価を行う。	複数の C/P がディリ工科大学での職業訓練に参加した。また、習得度評価を行い、プロジェクト前後の習得度の平均点が 48 から 57 に上昇した。
3-7 自立的な予算の立案・管理を行う。	予算編成作業並びに予算管理の能力向上を支援し、過去 5 年間の機材購入実績を考慮のうえ、向こう 5 年間についての予算計画が策定された。

出典：付属資料 4 「回答の総括表」より大項目 12

#### 4-1-3 成果の達成

成果の達成状況は、PDM に示された指標で評価する。

(1) 成果 1：道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる。

成果 1 は、以下の指標のとおり、おおむね達成されたと判断される。プロジェクト期間内の達成は一部難しい点も含まれるものの、C/S やセミナー、OJT を通じ、道路維持管理業務はプロジェクト前と比べて確実に進歩している。

表 4-9 成果 1 の達成見込み

指標 1-1 日常点検・定期点検の実施状況 「一部未達成」	定期点検は年に 1 度行われており、その結果は道路維持管理 D/B に更新されている。ただ、日常点検は地方事務所の予算の制約上実施されておらず、プロジェクト期間内に日常点検を実施することは難しい見込みである。
指標 1-2 維持補修の実施状況 「おおむね達成」	維持補修は、プロジェクトによる技術移転をベースに、維持補修の計画から補修までのプロセスはほぼ実施されているといえる。しかし、現在の維持補修は職員数や予算の不足が原因で、損傷した道路数に対する補修の実施状況は十分とはいえない。しかしながら、プロジェクト期間の延長により小規模補修機材が供与されれば、地方事務所で小規模な維持補修が実施されることが可能となる見込みである。
指標 1-3 緊急時の対応状況 「おおむね達成」	頻繁に発生する自然災害発生箇所すべてに対して適切な対応をするには、職員数や予算、技術力が不十分であるが、緊急時対応は発生した災害などに対しておおむね実施されている。
指標 1-4 予算の立案・管理業務の定着度 「おおむね達成」	DRBFC は、道路維持管理 D/B により、道路維持管理に係る予算立案を行うことができるようになってきている。予算管理業務の定着については、C/P へのアンケート結果から「技術移転済」との評価がなされており、プロジェクト前より向上したといえる。

出典：付属資料 4 「回答の総括表」より大項目 13-131

(2) 成果2：道路建設（維持／補修を含む）が、DRBFCにより十分な品質を保って実施される。

成果2は、以下の指標のとおり、おおむね達成された。プロジェクト期間内では、一部未達成の項目が残る見込みであるものの、C/Sの現場においてC/Pへの道路維持管理手法の技術移転を図られた。その後、現場に従事したC/Pからその他職員へのセミナーやOJTを通して、特に施工計画・管理について技術の再移転が進められた。DRBFCのプロジェクト関係職員の多くは、今回実施した技術移転の内容が災害時の復旧工事においても役立つものと技術移転の価値を認めている。

表4-10 成果2の達成見込み

指標 2-1 施工計画の策定状況 「達成」	施工手順・品質管理・進捗管理などを含めた施工計画が「工事管理計画書」にて策定された。
指標 2-2 下記施工管理項目の実施状況 工程管理、品質管理、安全管理、原価管理 「達成」	技術移転は下記工程で実施された。 初年度：主に工程管理と監理計画 2年度：品質管理及び安全管理に関する管理計画の適切性の確認 3年度：進捗及び原価管理、品質管理 C/Pの技術水準と考える道路維持管理の理解度は、36%から54%に向上しており、技術移転は達成された。
指標 2-3 施工済み道路の品質 「一部未達成」	品質管理手法は、C/PへOJT及びセミナーを通して技術移転された。C/Pも施工済み道路の品質は改善したと評価しており、C/Pの評価は良好であるといえる。 一方、C/Sにて施工された道路の品質は確保されたものの、自然災害の多発により、施工済みの道路は増えておらず、施工済み道路の品質の向上は確認できない。

出典：付属資料4「回答の総括表」より大項目 13-132

(3) 成果3：IGE保有の機材が適切に維持管理される。

成果3は、以下の指標のとおり、達成された。IGEの機材管理は、損傷の種類や原因ごとの補修方法が体系的かつ具体的に技術移転されたほか、機材管理D/Bに運転履歴や補修履歴が記録されるなど、適切に維持管理されるようになった。しかし、特に油圧及び電気システムの維持管理手法の更なる向上が期待される。

表4-11 成果3の達成見込み

指標 3-1 機材台帳・機材管理記録簿の更新状況 「達成」	機材台帳・機材管理記録簿としての機材管理D/Bは、年に2回更新されている。
-------------------------------------	---------------------------------------

指標 3-2 機材メンテナンスの実施状況 「達成」	機材メンテナンスは、機材管理 D/B を基に必要に応じて実施されており、プロジェクトにおいて修理 268 件、整備 325 件が行われた。
指標 3-3 スペアパーツの調達補充状況 「達成」	調達したスペアパーツは主に、日本が過去に供与した古い機材のパーツ取り換え用及び新規調達機材の定期修繕用に行われている。
指標 3-4 所定機材メンテナンス技術を習得した職員数と技術習得度 「達成」	所定機材メンテナンス技術を習得した職員は、合計 110 名である。これは IGE 職員数（メカ 70 名、オペ 50 名）とほぼ同数であり、本プロジェクトに積極的に多く参加した結果といえる。習得度は、2010 年と 2012 年の比較で 10% 上昇している（48 点から 57 点へ上昇）。
指標 3-5 機材維持管理に係る予算の立案・管理業務の定着度 「達成」	IGE の 2013 年度予算はおよそ 420 万ドルであり、IGE が要求した額の 3 分の 1 程度にすぎないが、必要予算額は補修実績に基づき算出されるなど、予算立案能力の向上はみられた。また、アンケート結果から定着度については「支援の下に実施可能」と C/P が評価している。

出典：付属資料 4 「回答の総括表」より大項目 13-133

#### 4-1-4 プロジェクト目標の達成度

プロジェクト目標は「DRBFC 及び IGE による道路の施工（維持管理を含む）に係る技術・マネジメント能力が強化される」である。一部未達成の指標があるものの、以下の指標より「東ティ」国における道路の施工に係る技術・マネジメント能力はプロジェクト前と比較しておおむね向上しており、プロジェクト目標はおおむね達成されている。6 つの指標のうち、特に指標 1（道路維持管理 D/B）及び指標 2（調査及び評価の状況）は道路維持管理サイクルの根幹を成すものでありプロジェクト目標達成への寄与率が高い。また質問状においてすべての専門家及び C/P は、いずれもプロジェクト目標の達成見込みが高いと回答している。プロジェクト期間の延長により、小規模補修工事の OJT が実施されれば、一部未達成である補修道路の品質は向上し、プロジェクト目標は達成される見込みである。

表 4-12 プロジェクト目標の達成見込み

指標 1 DRBFC における道路維持管理 D/B の活用状況 「達成」	道路状況の調査・評価に基づき、道路維持管理 D/B は更新されている。DRBFC 職員は、道路維持管理予算作成時のバックアップデータとして、道路維持管理 D/B の活用を高く評価している。
指標 2 調査及び評価の実施状況 「達成」	CBRM にて設定された国道の 5 km ごとの距離標を用いて、D/B 上の位置情報と現場位置をリンクさせながら、道路状況を状態に応じて 5 つに分類し調査及び評価を行っている。

指標 3 維持補修工事の実施状況 「おおむね達成」	定期的な維持補修工事が実施されているが、日常の小規模補修工事は、予算の制約から行われていない。
指標 4 応急復旧工事の実施状況 「おおむね達成」	DRBFC は自然災害による地すべり箇所への応急復旧工事を実施している。自然災害が頻発しているため年間を通じた交通を確保するにはその技術が十分でないものの、本プロジェクトにより初歩的・対処的な応急復旧の方法は技術移転がなされ基本的な工法は実施できるようになった。
指標 5 補修道路の品質 「一部未達成」	C/S 対象箇所における補修道路の品質は確保された。しかし、品質管理についての知識に改善の余地があるため、その他の補修された道路の品質は確保されていない。また、限られた予算で道路を維持管理しなければならない一方で、その道路密度は 0.43 km/km <sup>2</sup> であり、他の開発途上国（インドネシア 0.19、タイ 0.11）と比較して高く、補修すべき道路が多いため品質管理がいき届いていないことも、品質が不十分である原因の 1 つであり、プロジェクト期間内での達成は難しい。
指標 6 機材の整備状況 「達成」	日本の自衛隊技術部隊は、「東ティ」国災害復旧支援後 2004 年に使用したおよそ 100 台の機材を供与しており、これらの機材が IGE 保有機材の主要なものとなっている。加えて、IGE は 16 種 113 台の新たな機材を 2011 年度 IGE の自己予算で調達しており、機材の整備状況は良好である。

出典：付属資料 4 「回答の総括表」より大項目 14-141

#### 4-1-5 上位目標達成の見込み

上位目標は、「いくつかの主要な国道（幹線）の道路状況が改善される」である。表 4-13 のとおり、現時点で道路の劣化箇所は減少しておらず、道路維持管理予算を潤沢に確保できているわけではない。しかし、本プロジェクトにて向上した施工・マネジメント能力により、DRBFC 自身によって維持補修・改修工事が実施される見込みがあることに加え、プロジェクト期間内に供与される小規模補修機材による維持補修工事が各事務所において実施されることで、道路の劣化箇所は減少していくと考えられる。また予算についても必要最低限は確保されていることから、上位目標はプロジェクト終了より 3～5 年後に達成される見込みである。

表 4-13 上位目標の達成見込み

指標 1 道路の劣化箇所数が減少する。	下表のとおり、道路の劣化箇所は増加している。理由は、道路の補修工事の量と比較して、自然災害の発生頻度が高く損傷した道路が多かったことが挙げられる。			
	状 況	2010	2011	2012
	修繕／完了	0	66	64
	修繕／仕掛中、仮作業	0	92	111
	未着手	0	240	334

	新たに発生	358	139	221		
	合計（劣化箇所）	358	537	730		
出典・Final Report（案）Chap 4.1.4（2）						
指標 2 道路維持管理関係の全体予算が増加し、同時に単位距離当たりの維持管理費用が減少する。	DRBFC の道路維持管理予算は、最低限確保はされている。					
	DRBFC の道路維持管理予算					
	Budget	2008	2009	2010	2011	2012
	USM\$	34.6	19.2	73.4*	26.4	26.6
*：2010年、全土で多くの災害が発生した。 出典：Progress Report 添付 2.6						

出典：付属資料 4 「回答の総括表」より大項目 61-611

#### 4-1-6 中間評価での提言に対する活動

中間評価では、7つの提言と活動を示し、プロジェクト関係者によって実行されることが期待された。インタビューを通じて現在の状況を整理し、結果は下記のようにまとめられた。

提言（1）：DRBFC の職員は、C/S 及び機材維持管理を行いながら、道路維持管理 D/B の利用及び更新業務を更に推進することが望まれる。

道路維持管理 D/B の活用は徐々に浸透している。道路維持管理 D/B のカテゴリ D、E 箇所（緊急修復作業を必要とする箇所。E が最も悪い）を中心に修復する計画を道路維持管理計画として作成した。DRBFC は道路維持管理 D/B の利用が予算作成時のみならず、現在の修繕、復旧工事の際にも参照し活用されることが期待される。

提言（2）：道路維持管理 D/B については、地方事務所からのアクセスをよりしやすくするとともに、同 D/B を将来的にもっと活用できるようにするための互換性の改善が望まれる。

現在の道路維持管理 D/B は、道路を損傷の程度により 5 つに分類している。それぞれの地方事務所において 2 人ずつ職員を雇用しデータの収集を行い、かつディリ地方事務所にてコンピュータへの入力を行っている。中間評価報告書では、各地方事務所においても、データ入力と参照が可能となるよう改善を提言していた。しかし、各地方事務所では、日中の電力供給が十分でなく、インターネット利用が満足にできない状況であり、この提言は難しい課題といわざるを得ない。現時点では、各地方事務所からディリ地方事務所へのインターネットでのアクセスは現実のものにはなっていない。

提言（3）：DRBFC は、降雨後の応急復旧工事に対する予算計上手順を構築するよう努力が求められる。

予算執行に関する法規制について、特段の変更は認められない。

DRBFC の財務部門からの説明では、「プロジェクトは支払い承認票（CPV）を作成し、実際の活動実施前に MPW より事前承認を得ている。CPV の承認（およそひと月を要する）を受けて、プロジェクトは予算を執行できるようになる。緊急時、MPW は必要な予算を対象の応急復旧工事向けに配分することができる」とされており、DRBFC は今の手順で十分と考えてい

るように見受けられた。

提言 (4) : 専門家は、機材維持についての継続的な支援を、プロジェクトにおけるセミナーや OJT を通じて行うことが期待される。

DRBFC は、小規模補修機材の到着を待っている状況にあり、到着後にこれら機材の維持管理方法についても専門家による技術移転が望まれている。プロジェクト期間延長により小規模補修機材の取扱いについて、OJT が実施される予定であり、技術移転は行われる見込みである。

提言 (5) : IGE は、地方事務所に、地方事務所所有の機材を配置する必要がある。

IGE は、地域のニーズに即座に対応できるように、機材の地方分散化を進めている。ナタルボラ支局はその先鞭のひとつである。プロジェクト期間内に、5 つの地方事務所に小規模補修機材が供与され配置される予定であり、提言は達成される。

提言 (6) : 小規模な補修工事については迅速に実施できる仕組みづくりが期待される。

現在、小規模補修を含むほぼすべての工事は、工事契約を締結し民間企業が実施しているが、JICA から小規模補修機材がプロジェクト期間内に供与される予定であり、小規模な舗装補修は道路管理者である DRBFC 自身が直営で実施することで迅速な対応が可能となると考えられる。

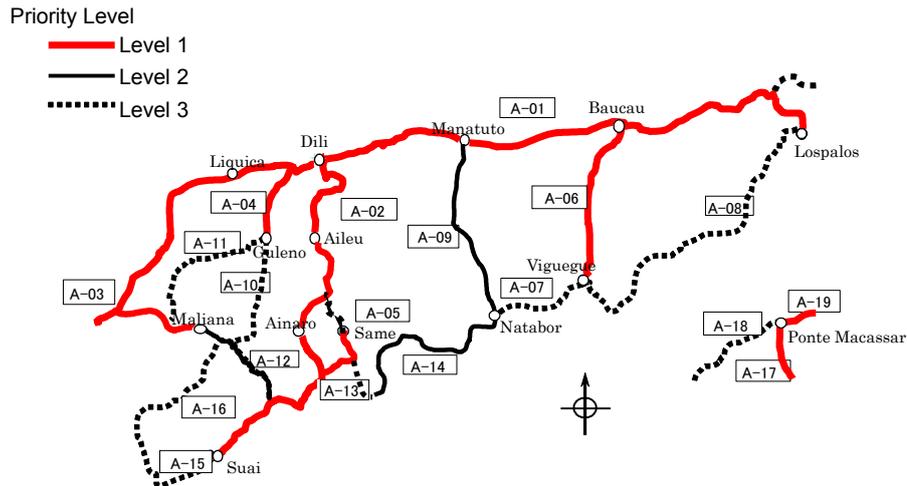
提言 (7) : プロジェクトに対しては、残りの作業として、道路維持管理 D/B の更新及び C/S と いった活動の完了が望まれる。またプロジェクトには、上記活動の結果を広めていくための更なる努力も期待される。

道路維持管理 D/B の更新及び BRDB の更新を続けている。更新の結果はセミナー及び OJT の場で関連する職員の基礎能力向上のために使われており、期待に沿う努力が進められていると判断される。

#### 4-1-7 実施プロセス

##### (1) プロジェクト実施

道路維持管理 D/B が本プロジェクトにおいて改善されたことで、維持補修費用の見積もりに活用できるようになるとともに、年次調査の結果をベースとした工事が重視されるようになった。DRBFC は、道路維持管理 D/B の実践的な手法を高く評価している。



Source: Data of

図 4 - 1 国道の補修優先度

国道約 1,400 km には、およそ 430 の橋梁が設置されている。BRDB は、主に台帳として開発され、橋梁の諸元データに加えて、特に橋台部分の損傷を中心に橋梁の損状況が記録されている。PDM には BRDB に関する明記はないものの、DRBFC は BRDB の意義を評価するとともに、道路維持管理 D/B と同様に予算計画に活用できるようになることを期待している。また、「道路維持管理計画書」等を作成し、DRBFC 職員が道路維持管理を行ううえでの参考資料とした。MPW 大臣はこの教材を高く評価し、DRBFC の局長に対し、全事務所に配布するよう指示した。

C/S は、地すべりが多く発生している地域（ディリから東へ 6.7 km 地点）で行われた。同様の地すべりは「東ティ」国で非常に多く発生しており、C/S において対策工の設計及び施工計画が作成された。C/S の結果は、C/P から、セミナーの場でその他関連機関の職員にも報告された。C/S の実施により、大規模な損傷箇所は点検・予算化・工事発注・施工監理の道路維持管理サイクルに基づき実施できるようになったが、「東ティ」国では、清掃や小規模な舗装補修工事等の日常的維持管理の必要性も高い。本プロジェクトでは、DRBFC が日常的な道路補修工事ができるようにするため、2014 年 8 月に 5 つの地方事務所に小規模補修機材が供与される予定である。

## (2) その他プロジェクトとの協調

本プロジェクトでは、下記に示すように他プロジェクトとの多くの協調があった。

- ・モラ橋建設現場における実務研修（日本 無償資金協力プロジェクト）
- ・モラにおける堤防建設デザインチームとの意見交換
- ・JICA プロジェクトとの地すべりに関する協議「道路網構築分野プロジェクトの予備調査」
- ・JICA ミッションチームとの協議「南南協力」、「生活道路プロジェクト」、「道路網構築分野プロジェクトの予備調査」
- ・インフラ基金へのアドバイザーに向けた、2010 年の道路維持管理 D/B 更新
- ・「東ティモール国立大学工学部能力向上プロジェクト」及び東ティモール国立大学への C/S に関する技術移転

- ・ ADB との道路維持管理 D/B 情報の交換及び技術移転セミナーへの参加
  - ・ ADB の職員をセミナーに招き、プロジェクト活動を周知
  - ・ 国連職員と、将来的に国連による GIS を導入する件について意見交換
  - ・ 国家経済開発庁の専門家との意見交換
  - ・ UNTL 教授及び学生の、技術移転セミナーへの参加
  - ・ ディリ工科大学教授及び学生の、OJT 及び C/S への参加
- これらの協調は、プロジェクトの波及効果を高めるものとして高く評価できる。

## 4-2 5項目による評価

### 4-2-1 妥当性

プロジェクトの妥当性は、以下の理由から「高い」と判断される。

#### (1) 東ティモール政府国家政策との整合性

「東ティ」国は、2002年の独立以降「国家開発計画」及び「東ティモール戦略的開発計画（SDP）2011-2030」に従い、道路網の整備・改善を推進してきている。しかし、慢性的な人手不足、組織及び個人の能力不足等により、道路を健全な状態に保てるまでの組織的能力は依然不足しており、本課題を解決することは同国において優先度が高い課題である。よって、本プロジェクトはこの方向性と合致している。

#### (2) 日本の援助政策との整合性

わが国政府は2000年より「東ティ」国の復興・開発への協力を開始し、2012年4月にわが国は対東ティモール国別援助方針を策定し、復興から経済成長への基盤づくり支援を大目標に、「経済活動活性化のための基盤づくり」、「農業・農村開発」及び「政府・公共セクターの能力向上」を重点3分野として、現在まで支援を行ってきている。具体的には、独立時期当初から無償資金協力事業を実施しており、2012年に「東ティ」国初の有償資金協力事業（道路整備）の実施が決定されるなど、本プロジェクトはこの方向性と合致している。

#### (3) 実施機関選定の妥当性

DRBFC は、道路維持管理と国道建設事業を実施している機関であり、前フェーズである CBRM が実施されたものの、DRBFC による道路維持管理並びに国道建設事業は十分に機能していないことが確認されている。また、IGE は主に重機が必要な応急復旧工事を行う機関であり、機材管理能力の不足が指摘されている。したがって、実施機関の選定は妥当である。

### 4-2-2 有効性

DRBFC 及び IGE 職員を対象に、道路の施工（維持管理を含む）に係る技術マネジメント能力を向上させるというプロジェクト目標がどの程度達成されたか、3つの成果から判断する。

まず成果1として、道路維持管理については自立した道路状況の調査が可能となっており、道路維持管理 D/B を基にした道路維持管理計画の策定が可能となっている。次に成果2として、

維持補修を含む道路建設工事は、自然災害の多発が道路品質を保つのに大きな障害となっているものの、C/S では工程管理から品質管理まで十分な品質を保って実施された。最後に成果3として、保有機材については、機材点検の指導、運行工程表・機材運行表の徹底により、適切に管理されている。

以上、3つの成果がおおむね達成されたことに加え、一部課題は残るものの、プロジェクト目標の評価指標もおおむね達成されたことより、プロジェクトの有効性は「高い」と判断される。プロジェクト期間の延長により、上述の一部課題は解消され、プロジェクト目標は達成される見込みである。

成果1：道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる。	
コメント 「おおむね達成」	DRBFC 職員は、自立した道路状況の調査を行うことができ、道路維持管理 D/B を更新できるようになった。維持補修や自然災害発生時の緊急対応は、プロジェクトによる技術移転をベースにほぼ実施されているが、職員数・予算不足が原因で十分ではない。また、更新された道路維持管理 D/B を基にした道路維持管理計画策定が可能となり、また必要な予算計画策定ができるようになった。
成果2：道路建設（維持／補修を含む）が、DRBFC により十分な品質を保って実施される。	
コメント 「おおむね達成」	頻繁な自然災害が道路品質を保つにあたっての大きな障害となっており、DRBFC の活動にもかかわらず、道路の品質は年々悪くなっているが、C/S 対象箇所では、DRBFC により工事管理計画書（施工計画書）が策定され、工程管理から品質管理まで十分な品質を保って実施された。
成果3：IGE 保有の機材が適切に維持管理される。	
コメント 「達成」	IGE は、重機を扱う MPW の下部組織であり、重機による大規模な土木作業が必要な地方道路の改善を行う一方、IGE が所有する機材は、要請があれば建設会社などの外部機関に貸し出される。 機材点検の指導、運行工程表・機材運行状況表の徹底により、機材の点検、貸出状況と貸出後の機材の状態を把握できている。また必要に応じた機材の補修や2011年には113台の機材調達が行われるなど、適切に維持管理されていると判断できる。また、技術を習得した職員の数も110名と多く、習得度も10%上昇するなど技術の移転が行われた。しかし、水及び電気系統のパーツ関連の維持管理には高度な専門知識が必要であり、課題が残る。

#### 4-2-3 効率性

プロジェクトの効率性は、以下の理由から「高い」と判断された。

投入と活動は、成果達成のために適切に実施されており、プロジェクトの効率性は高いと判断される。例えば、C/S などの第2次活動に伴う専門家の増員調整があり、成果を効果的に達成するために適切な対応であったと判断できる。また、小規模補修機材はその機材の特殊性により調達が難しく、当初予定よりも供与が遅れているものの、2014年納品される予定であり、プロジェクトの延長により同機材を使用したOJTが実施されることにより、プロジェクトの効率性はより高まると考えられる。

#### 4-2-4 インパクト

プロジェクトのインパクトは、以下の理由から「やや高い」と判断される。

上位目標は、中間評価時に「東ティモール国における道路の円滑な通行が安定的・継続的に確保される」から「いくつかの主要な国道（幹線）の道路状況が改善される」へ変更された。当初の上位目標である道路の円滑な通行（走行性）よりも、道路状況の改善（通行可能性）に重きを置いた「東ティ」国の現況に合わせた現実的な変更である。今後、本プロジェクトで向上した施工・マネジメント能力により、DRBFC 自身によって維持補修・改修工事が実施される見込みがあることに加え、プロジェクト期間内に供与される小規模補修機材による維持補修が実施されることで、道路の劣化箇所は減少していく見込みである。つまり上位目標はプロジェクト終了より3~5年後に達成される可能性は高いといえる。

上位目標への外部条件は「道路施工・維持管理に係る政府財源が安定して確保される」、「車両交通量が予測を超えるほどに激増しない」の2つである。前者については、必要最小限の予算は確保されているといえる。後者の交通量は地方部ではほとんど変化がない一方、ディリ周辺の交通量は急速に増加しているが、道路維持管理が困難になるほどの増加ではない。よって、上位目標の阻害する要因はほとんどないといえる。

波及効果については、本報告書の「第4章4-1-7（2）」に示したように、他機関・他プロジェクトとの関わりが多く、プロジェクト活動を通じた「東ティ」国の道路関係者への影響は大きいといえる。例えば、日本の無償資金協力プロジェクトであるモラ橋建設現場における実務研修や他ドナー職員をセミナーに招聘し意見交換するなど、それぞれのプロジェクトを相互に高めようとする取り組みであり、道路関係機関に対して波及効果があったといえる。

#### 4-2-5 持続性

プロジェクトの持続性は、以下の理由から「中程度」と判断される。

C/S は DRBFC 職員の技術及びプロジェクト管理知識を高めるのに良い機会であり、計画・設計・調達・監理及び検査に関する知識が、OJT 及びセミナーを通して DRBFC に移転された。さらに C/P 自身からセミナーを通してその他の職員に知識の共有が図られるなど、技術の再移転が図られた。しかし、頻繁に発生する自然災害に対して復旧工事を DRBFC 職員が自ら実施する能力は、改善の余地があるため引き続き C/P 自身による自己研鑽が求められる。

また、予算については、道路維持管理予算が最低限確保される見込みではある。しかし、現地調査用の車両燃料費、調査職員の調査手当など、事務的な手続きが滞るなどの問題や、政治案件の対応のために維持管理費用が流用され本来の維持管理のために予算が執行されない問題が発生している。したがって、円滑で持続的な活動遂行のため、中央及び地方事務所からの事務的支援活動に加え、維持管理予算が計画どおりに執行できるよう上層部への働きかけることが求められており、常駐する道路政策アドバイザーと連携が考えられる。

以上、施工技術・維持マネジメント能力の向上が図られ、C/P による技術の再移転の機会がつけられたものの、その能力に改善の余地があることや計画どおりに予算を執行できないなどの課題も残されていることから、プロジェクトの持続性は「中程度」と判断される。

## 第5章 結 論

本プロジェクトは、「東ティ」国政府の運輸セクター開発の基本戦略及び日本の方針と合致していることから、妥当性は非常に高い。

おおむね達成された3つの成果より、一部課題は残るものの、プロジェクト目標もおおむね達成されたことより、有効性は高い。ただし、残る一部課題に関しては、プロジェクト期間の延長により対応することが望ましい。

投入及び活動について、機材投入の遅れを除けば、本プロジェクトはほぼスケジュールどおり良好に実施されており、効率性は高い。

上位目標について、「東ティ」国の現況に合わせた目標に変更されており、他ドナーを含めた道路整備プロジェクトと継続的な道路維持管理により、上位目標は達成される見込みであることから、インパクトは比較的高い。

道路維持管理のための予算は増加していく傾向があるものの、頻発する災害に対して人材不足により対応しきれていないことから、道路維持管理を行ううえで持続性は中程度である。以上より、プロジェクト全体の評価結果は「高い」と判断した。

なお、小規模補修機材の供与に合わせた小規模補修工事のOJTの実施、BRDBの機能拡張により、維持補修工事の実施状況の更なる改善やより適切な道路維持管理の達成を期待でき、プロジェクト目標の達成に貢献することから、プロジェクト期間を延長し対応することを提案する。

## 第6章 提言及び教訓

### 6-1 提言

#### (1) 短期的な提言（プロジェクト）

プロジェクト期間を以下のとおり延長する必要があると提言する。

- BRDB は、道路維持管理 D/B の補完的役割として構築されているが、その役割は限定的で損傷情報を含む基本的な橋梁情報が登録されているのみである。道路維持管理予算のなかでも大きな部分を占める橋梁維持管理についても予算計画策定に反映できるようにするため、BRDB の機能を拡張することは、プロジェクトの更なる効果発現に寄与すると考えられる。また、道路維持管理 D/B と同様に予算計画策定にも活用したいとの「東ティ」国側の意向も強い。よって、本プロジェクトのスコープとして BRDB の拡張を追加することを提案する。
- 到着が遅延していた小規模補修機材が 2014 年に供与される予定であることから、プロジェクト期間を延長し、小規模補修機材の取り扱い・小規模な補修工事に関する OJT を実施することを提案する。小規模な補修工事に関する OJT の実施により、現時点で一部未達成となっている指標 5 「補修道路の品質」が向上するものと考えられ、プロジェクト目標の達成に貢献することが見込まれる。

#### (2) 長期的な提言（公共事業省）

中間評価時の提言の内容の多くは対応済みであるが、やむを得ない理由があつて完了していないものもある。「東ティ」国側には、以下のような主体的な参画と継続した努力が望まれる。

- 道路維持管理 D/B の継続した更新及び活用
- 地方事務所から橋梁維持管理 D/B へ容易にアクセスできるようにすること
- IGE による地域支局での機材管理の推進
- プロジェクトで作成されたマニュアル、教材等のプロジェクトの活動結果の普及

### 6-2 教訓

#### (1) C/P のオーナーシップ

プロジェクト成功要因のひとつとして、セミナーにおける C/P 自身による講義など、自立性を醸成する協調アプローチがあつた。このアプローチは、今後も C/P の自立性の向上やセミナーを受けていない DRBFC 職員に対する水平展開などの波及効果が期待されるものである。他方で十分な数の、明確に選抜・配置された C/P が必要となる。

#### (2) 受益国の道路状況と実施能力に合わせたプロジェクト目標の設定

支援と技術移転で重要なことは、相手国の現状をどのレベルまで改善するかといった C/P のニーズと、支援する技術レベルに合わせることである。本プロジェクトで高く評価できる点は、「東ティ」国の既存道路の状態や頻発する自然災害といった状況にかんがみ、走行性よりも通行可能性に重点を置き、自国のレベルに合わせた目標設定をしたうえで、プロジェクトを実施したことである。



## 付 属 資 料

1. PDM・PO
2. 評価グリッド
3. 質問状
4. 回答の総括表



PDM（改訂版）（2012年6月7日）

作成日：2012年6月7日

案件名	(和文) 道路施工技術能力向上プロジェクト	対象地域：東ティモール全土
	(英名) The Project for the Capacity Development of Road Works (CDRW) in Timor-Leste	期間：2009年7月～2012年7月（3年間）
T/G	経済社会基盤省（MOI）道路橋梁治水局（DRBFC）及び資機材管理庁（IGE）の要員	最終裨益者：「東ティモール国民」

	指標	入手先	外部条件（リスク要因）
【スーパーゴール】 東ティモール国における道路の円滑な通行が安定的・継続的に確保される	1 道路不通箇所の減少度 2 道路不通期間の短縮度		
【上位目標】 東ティモール国における主要な幹線道路区間の道路状況が改善される	1 道路の劣化箇所数が減少する 2 道路維持管理関係の全体予算が増加し、同時に単位距離あたりの維持管理費用が減少する	1&2 道路維持管理データベース、道路点検・評価記録	
【プロジェクト目標】 東ティモール人材(DRBFC, IGE)による道路の施工・維持管理に係る技術・マネジメント能力が向上する	1 道路台帳・維持管理データベースの活用状況 2 点検・評価の実施状況（実績） 3 道路維持管理・補修工事の実施状況（実績） 4 応急・復旧工事の実施状況（実施） 5 維持補修工事/応急復旧工事の品質 6 機材の整備状況	各種記録・実績 各種評価結果	1.道路施工・維持管理に係る政府財源が安定して確保される 2.車両交通量が予測を超える程に激増しない
【成果(アウトプット)】 1.道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(DRBFC職員対象) 2.道路建設（維持／補修を含む）が、DRBFCにより十分な品質を保って実施される。	1-1 道路維持管理データベースの更新状況（実績） 1-2 維持補修の実施状況（実績） 1-3 緊急時の対応状況 1-4 予算の立案・管理業務の定着度 2-1 施工計画の策定状況 2-2 施工管理（工程管理、品質管理、安全管理、原価管理）の実施状況 2-3 施工済み道路の品質	各種記録・実績 各種評価結果  各種記録・実績 各種評価結果	1.技術指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける（活動途中で離職しない） 2.IGEの現在の役割・機能が維持される。（政治的な判断等により、IGEの大幅な組織改変もしくは解体等IGEの組織運営に係る方針が大きく変更されない） 3.IGE所有機材の借方が借用機材を使用後に契約どおりにIGEに返却する 4.IGE所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用する（不適切な活用による修復不可能な破損、破壊などが煩雑におこらない） 5. ケーススタディ道路エリアを活動途中で破壊するような予測不可能な自然災害が発生しない。
3 保有する道路の建設・補修機材が適切に維持管理されるようになる（IGE職員対象）	3-1 機材台帳・機材管理記録簿の更新状況（実績） 3-2 機材メンテナンスの実施状況（実績） 3-3 スペアパーツの調達・補充状況（実績） 3-4 所定の機材メンテナンス技術を習得した職員数と技術習得度 3-5 機材維持管理に係る予算の立案・管理業務の定着度	各種記録・実績 各種評価結果	

【活動】	【投入（インプット）】		【外部条件】
<p>【活動】</p> <p>1-1 CBRMの成果をレビューし、「道路維持管理計画書」を更新する</p> <p>1-2 維持管理業務に係る年間作業計画を立てる</p> <p>1-3 平常時の「連絡マニュアル」を活用し、県道(district roads)を含めた幹線道路の点検・評価を行う</p> <p>1-4 上記点検・評価の結果に基づき道路維持管理データベースを更新する</p> <p>1-5 更新された道路維持管理データベースに基づき維持・補修計画を作成する</p> <p>1-6 災害時、緊急時において必要な緊急点検・復旧工事を行う</p> <p>1-7 適切な予算の立案・管理を行う</p>	<p>【日本側】</p> <p>1.人材 以下分野の JICA 専門家： 道路維持管理/総括 道路施工管理 建設機械維持管理 その他必要な分野</p>	<p>【東ティモール国側】</p> <p>1.人材 1-1 運営管理人材： ・プロジェクトダイレクター ・プロジェクトダイレクター補佐 ・プロジェクトマネージャー ・プロジェクトマネージャー補佐 1-2C/P 人材： ・道路橋梁治水局(DRBFC)職員(地方事務所職員を含む)、 ・資機材管理庁(IGE)職員 1-3 訓練生の配置： ・必要に応じた訓練生。</p>	<p>同上 及び</p> <p>活動の進捗を妨げるような、社会不安・治安の悪化が起こらない</p>
<p>2-1 DRBFC と IGE の密な協力の下に、ケーススタディ工事（主要道路の改良・補修工事等）を特定する。</p> <p>2-2 DRBFC と IGE の密な協力の下に、対象工事に係る設計・積算・予算措置を行う</p> <p>2-3 施工計画を策定する。(IGE 所有機材の調達を含む)</p> <p>2-4 工事に係る要員を特定し、各人の責務内容を明確にする</p> <p>2-5 実際の工事現場において施工管理を行う</p> <p>2-6 完工検査を実施する</p> <p>2-7 工事に係る安全訓練を行う</p>	<p>2.施設・機材 DRBFC-ディリ地方事務所への道路維持管理・補修用機材（移動型簡易機材）</p>	<p>2.施設・機材の提供 ・プロジェクト事務室(DRBFC 及び IGE)、 ・JICA 専門家の執務室(DRBFC, IGE 内)、 ・DRBFC 及び IGE 所有の機材、 ・その他必要に応じた資機材。</p>	
<p>3-1 前プロジェクトの成果をレビューする</p> <p>3-2 電子化を含め機材台帳を更新する</p> <p>3-3 貸出後・貸出前の機材点検を行う</p> <p>3-4 機材台帳・機材点検結果に基づき必要な修理を行う</p> <p>3-5 補充すべきスペアパーツの特定・発注・調達を行う</p> <p>3-6 メカニックを対象とした技術指導（点検・補習技術等）を実施し、習得度評価を行う</p> <p>3-7 自立的な予算の立案・管理を行う</p>	<p>3.C/P 国外研修 必要に応じた分野・人数</p> <p>4.事業費(現地業務費・運営管理費) JICA 専門家活動の技術指導・研修経費。</p>	<p>3.事業費 ・機材維持管理経費、部品調達経費 ・C/P と訓練生の交通費、旅費 ・外部委託調査費 ・C/P 人件費・日当。</p>	<p>【前提条件】</p> <p>プロジェクト活用で用いる DRBFC 及び IGE の機材が使えるようになっている</p> <p>DRBFC 及び IGE が負担する本プロジェクト活動経費が政府より承認されている</p>

PDM (当初)

作成日：2009年1月20日

案件名	(和文) 道路施工技術能力向上プロジェクト	対象地域：東ティモール全土
	(英名) The Project for the Capacity Development of Road Works (CDRW) in Timor-Leste	期間：2009年7月～2012年7月 (3年間)
T/G	経済社会基盤省 (MOI) 道路橋梁治水局 (DRBFC) 及び資機材管理庁 (IGE) の要員	最終裨益者：「東ティモール国民」

	指標	入手先	外部条件 (リスク要因)
上位目標 東ティモール国における道路の円滑な通行が安定的・継続的に確保される	1 道路不通箇所の減少度 2 道路不通期間の短縮度 3 道路の品質 (劣化箇所数の減少)	1&2.道路維持管理データベース 3.道路点検・評価記録 道路維持管理データベース 4.機械・資機材維持管理修理記録	
プロジェクト目標 東ティモール人材(DRBFC, IGE)による道路の施工・維持管理に係る技術・マネジメント能力が向上する	1 道路台帳・維持管理データベースの活用状況 2 維持補修工事の品質 3 応急復旧工事の品質 4 道路維持管理関係予算の執行状況	各種記録・実績 各種評価結果	1.道路施工・維持管理に係る政府財源が安定して確保される 2.車輛交通量が予測を超える程に激増しない
成果(アウトプット) 1.道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(道路橋梁治水局 DRBFC 職員対象)	1-1 日常点検・定期点検の実施状況(実績) 1-2 道路維持管理データベースの更新状況 (実績) 1-3 維持補修の実施状況 (実績) 1-4 緊急時の対応状況 1-5 予算の立案・管理業務の定着度	各種記録・実績 各種評価結果	1.技術指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける (活動途中で離職しない)。 2.ケーススタディ道路エリアを活動途中で破壊するような予測不可能な自然災害が発生しない。
2.MOI の施工に係るケーススタディの実施を通じ、小規模工事について質の高い工事ができるようになる (DRBFC 及び IGE 職員対象)	2-1 施工計画の策定状況 2-2 施工管理 (工程管理、品質管理、安全管理、原価管理) の実施状況 2-3 施工済み道路の品質	各種記録・実績 各種評価結果	3.IGEの現在の役割・機能が維持される。(政治的な判断等により、IGEの大幅な組織変更もしくは解体等 IGEの組織運営に係る方針が大きく変更されない。)
3.IGE の保有機械が適切に維持管理されるようになる (資機材管理庁 IGE 職員対象)	3-1 機材台帳・機材管理記録簿の更新状況 (実績) 3-2 機材メンテナンスの実施状況 (実績) 3-3.スペアパーツの調達補充状況 (実績) 3-4.所定機材メンテナンス技術を習得した職員数と技術習得度 3-5.機材維持管理に係る予算の立案・管理業務の定着度	各種記録・実績 各種評価結果	4.IGE所有機材の借方が借用機材を使用後に契約どおりにIGEに返却する。 5.IGE所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用する。

【活動】	【投入（インプット）】	【外部条件】
<p>1-1 前プロジェクトの成果をレビューし、「道路維持管理計画書」を更新する</p> <p>1-2 維持管理業務に係る年間作業計画を立てる</p> <p>1-3 平常時の「連絡マニュアル」を活用し、県道(district roads)を含めた幹線道路の点検・評価を行い、道路台帳を作成・更新する</p> <p>1-4 上記点検・評価の結果に基づき道路維持管理データベースを更新する</p> <p>1-5 更新された道路維持管理データベースに基づき維持・補修計画を作成する</p> <p>1-6 災害時、緊急時において必要な緊急点検・復旧工事を行う</p> <p>1-7 適切な予算の立案・管理を行う</p>	<p>【日本側】</p> <p>1.人材 以下分野の JICA 専門家： 道路維持管理/総括(1)、 道路施工管理(1)、 建設機械維持管理(1)、 その他必要な分野（プロジェクト開始後に必要性・分野等を決定）</p>	<p>【東ティモール国側】</p> <p>1.人材 1-1 運営管理人材： プロジェクトダイレクター、 プロジェクトダイレクター補佐、 プロジェクトマネージャー、 プロジェクトマネージャー補佐</p> <p>1-2C/P 人材： 道路・橋梁・治水管理部(DRBFC)職員(地方事務所職員を含む)、 資機材庁(IGE)職員</p> <p>1-3 訓練生の配置： 必要に応じた訓練生。</p>
<p>2-1 DRBFC と IGE の密な協力の下に、ケーススタディ工事（主要道路の改良・補修工事等）を特定する。</p> <p>2-2 DRBFC と IGE の密な協力の下に、対象工事に係る設計・積算・予算措置を行う</p> <p>2-3 施工計画を策定する。(IGE 所有機材の調達を含む)</p> <p>2-4 工事に係る要員を特定し、各人の責務内容を明確にする</p> <p>2-5 実際の工事現場において施工管理を行う (IGE による直接施工も含む)</p> <p>2-6 完工検査を実施する</p> <p>2-7 工事に係る安全訓練を行う</p>	<p>2.施設・機材 DRBFC-ディリ地方事務所への道路維持管理・補修用機材（移動型簡易機材）</p>	<p>2.施設・機材の提供 プロジェクト事務室(DRBFC 及び IGE)、 JICA 専門家の執務室(DRBFC, IGE 内)、 DRBFC 及び IGE 所有の機材、 その他必要に応じた資機材。</p>
<p>3-1 前プロジェクトの成果をレビューする</p> <p>3-2 電子化を含め機材台帳を更新する</p> <p>3-3 貸出後・貸出前の機材点検を行う</p> <p>3-4 機材台帳にもとづき機材点検を行う</p> <p>3-5 補充すべきスペアパーツの特定・発注・調達を行う</p> <p>3-6 メカニックを対象とした技術指導（点検・補習技術等）を実施し、習得度評価を行う</p> <p>3-7（可能な限り）自立的な予算の立案・管理を行う</p>	<p>3.C/P 国外研修 必要に応じた分野・人数（必要性和分野等はプロジェクト開始後に決定）。</p> <p>4.事業費(現地業務費・運営管理費) JICA 専門家活動の技術指導・研修経費。</p>	<p>3.事業費 機材維持管理経費、部品調達経費 C/P と訓練生の交通費、旅費 外部委託調査費（県道 km ポスト設置費含む）、 ケーススタディ経費、 C/P 人件費・日当。</p> <p>【前提条件】 プロジェクト活用で用いる DRBFC 及び IGE の機材が使えるようになっている</p> <p>DRBFC 及び IGE が負担する本プロジェクト活動経費が政府より承認されている</p>

同上 及び

活動の進捗を妨げるような、社会不安・治安の悪化が起こらない

Work Item	FY 2010												FY 2011												FY 2012											
	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar			
	1st Field Work												2nd Field Work												3rd Field Work											
<b>I. Common Item</b>																																				
I.1 Explanation and Discussion for Field Work																																				
<b>II. T/A for Technology and Management on Road Works (DRBFC)</b>																																				
2.1 Review of outcomes of 1st Field Work																																				
2.2 Review of annual maintenance working schdl																																				
2.3 Inspection and evaluation of national roads																																				
2.4 Update of "Data Base for Road Maintenance"																																				
2.5 Maintenance/repair plan and proper budget plan																																				
2.6 Emergency inspection and recovery (when necessary)																																				
<b>III. Case Study for Road Maintenance &amp; Repair Works</b>																																				
3.1 Identification of case studies																																				
3.2 Pre-construction arrangement for Construction																																				
3.3 Construction plan (incl. arrangement of IGE equipment)																																				
3.4 Assign persons in charge and identify their TOR																																				
3.5 Conduct of the case study, supervision, inspection, safety training																																				
3.6 Training, publicity and notice for construction works																																				
<b>IV. Management of IGE Equipment</b>																																				
4.1 Review of outcomes of 1st Field Work																																				
4.2 Update of "Machinery Inventory"																																				
4.3 Inspection of equipment after/before use																																				
4.4 Repair works based on the "Machinery Inventory"																																				
4.5 Necessary spare parts and procure them																																				
4.6 Conduct mechanics trainings and evaluation																																				
4.7 Proper budget planning/ management																																				
4.8 Planning of road maintenance equipment (supply), inspection & register																																				
<b>V. Reports</b>																																				
5.1 Inception Report (E-5 sets ;J-3 sets)																																				
5.2 Equipment Supply Plan (E-5 sets ;J-3 sets)																																				
5.3 Progress Report (E-5 sets ;J-3 sets)																																				
5.4 Annual Report (E-5 sets ;J-3 sets)																																				
<b>VI. Technical Transfer Seminar/ Workshops/ Etc.</b>																																				
<b>VII. Building and update of Website</b>																																				
5.4 Annual Report (E-5 sets ;J-3 sets)																																				
<b>VI. Technical Transfer Seminar/ Workshops/ Etc.</b>																																				
<b>VII. Building and update of Website</b>																																				

評価グリッド (VI.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

大項目	小項目設問	判断基準・方法	確認事項または必要なデータ	情報源	調査方法
実績	111 日本側からの投入は計画通りであったか。		当初の計画投入量、変更投入量、現時点での投入量を見る	JET 投入実績表 プロジェクト進捗 報告書	資料レビュー、 インタビュー
	人員 以下分野の JICA 専門家 (JET) : 道路維持管理/総括(1)、 道路施工管理(1)、 建設機械維持管理(1)、 その他必要な分野	計画実績比較	● JET 投入実績表 ● JET(日本人専門家)の数 (長期??MM、短期??MM)		
	研修員受け入れ: 必要に応じた分野・人数	計画実績比較	● 研修の回数、目的、人数(人)、期間、タイミング		
	供与機材: DRBFC-ディリ地方事務所への道路維持管理・補修用 機材(移動型簡易機材)	計画実績比較	● 種類、仕様、量、タイミング、コスト(US\$)		
	在外事業強化費 JICA 専門家活動の技術指導・研修経費	計画実績比較	● JET 活動の技術指導・研修経費の総額(千円)		
	112 受入国側からの投入は計画通りであったか		当初の計画投入量、変更投入量、現時点での投入量を見る		
	カウンターパート配置 1-1 運営管理人材: プロジェクトダイレクター、 プロジェクトダイレクター補佐、 プロジェクトマネージャー、 プロジェクトマネージャー補佐 1-2C/P 人材: 道路橋梁治水局(DRBFC)職員(地方事務所職員を含む)、 資機材管理庁(IGE)職員 1-3 訓練生の配置: 必要に応じた訓練生。	計画実績比較	● 投入実績グラフ ● 運営管理人材の従事進捗記録グラフ		
	専門家執務室 プロジェクト事務室(DRBFC 及び IGE)、 JICA 専門家の執務室(DRBFC, IGE 内)		● プロジェクト事務室の提供、JET の執務室		
	機材設備・資機材 DRBFC 及び IGE 所有の機材、 その他必要に応じた資機材。	計画実績比較	● 資機材の種類、量、タイミング、		
	プロジェクト実施に必要な経常経費 機材維持管理経費、部品調達経費 C/P と訓練生の交通費、旅費 外部委託調査費(県道 km ポスト設置費含む)、	計画実績比較	● 機材維持管理経費、部品調達経費、 ● C/P と訓練生の交通費、旅費 ● 外部委託調査費、 ● C/P 人件費・日当の総額、タイミング		

評価グリッド (V1.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

大項目	小項目設問	判断基準・方法	確認事項案または必要なデータ	情報源	調査方法
	ケーススタディ経費、 C/P 人件費・日当				
12 活動の進捗 状況	<p>121</p> <p>活動 1-1: CBRM の成果をレビューし、「道路維持管理計画書」を更新する</p> <p>活動 1-2: 維持管理業務に係る年間作業計画を立てる</p> <p>活動 1-3: 平常時の「連絡マニュアル」を活用し、県道 (district roads)を含めた幹線道路の点検・評価を行い、道路台帳を作成・更新する</p> <p>活動 1-4: 上記点検・評価の結果に基づき道路維持管理データベースを更新する</p> <p>活動 1-5: 更新された道路維持管理データベースに基づき維持・補修計画を作成する</p> <p>活動 1-6: 災害時、緊急時において必要な緊急点検・復旧工事を行う</p> <p>活動 1-7: 適切な予算の立案・管理を行う</p> <p>活動 2-1: DRBFC と IGE の密な協力の下に、ケーススタディ工事 (主要道路の改良・補修工事等) を特定する。</p> <p>活動 2-2: DRBFC と IGE の密な協力の下に、対象工事に係る設計・積算・予算措置を行う</p> <p>活動 2-3: 施工計画を策定する。(IGE 所有機材の調達を含む)</p> <p>活動 2-4: 工事に係る要員を特定し、各人の責務内容を明確にする</p> <p>活動 2-5: 実際の工事現場において施工管理を行う (IGE による直接施工も含む)</p> <p>活動 2-6 完工検査を実施する</p> <p>活動 2-7 工事に係る安全訓練を行う</p> <p>活動 3-1: 前プロジェクトの成果をレビューする</p> <p>活動 3-2: 電子化を含め機材台帳を更新する</p> <p>活動 3-3 貸出後・貸出前の機材点検を行う</p> <p>活動 3-4 機材台帳にもとづき機材点検を行う</p> <p>活動 3-5 補充すべきスペアパーツの特定・発注・調達を行う</p> <p>活動 3-6 メカニックを対象とした技術指導 (点検・補習技術等) を実施し、習得度評価を行う</p> <p>活動 3-7 (可能な限り) 自立的な予算の立案・管理を行う</p>	<p>活動報告書から達成度を判定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問状の回答から達成状況を調査する</li> <li>● 各活動の進捗記録グラフがあればわかりやすい</li> </ul>	<p>プロジェクト資料、JET 関係機関</p>	<p>関係資料レビュー - 質問票 インタビュー</p>

評価グリッド (V1.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

13 成果の 達成度合	131 成果1:【道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(道路橋梁治水局DRBFC職員対象)】 指標1—1-1 日常点検・定期点検の実施状況(実績) 1-1 道路維持管理データベースの更新状況 (実績) 1-2 維持補修の実施状況 (実績) 1-3 緊急時の対応状況 1-4 予算の立案・管理業務の定着度	指標 1 から判定する	指標に具体的な数字がないため、プロジェクト開始前との比較を実施チームに求める  この結果を踏まえ、ヒアリング等で 411、441 に関連しプロジェクト目標との関連を確認する。また、551、552 で問う成果達成のための貢献要因・阻害要因も合わせて問う。	プロジェクト資料、JET 関係機関	関係資料レビュー 質問票 インタビュー
	132 成果 2:【MOI の施工に係るケーススタディの実施を通じ、小規模工事について質の高い工事ができるようになる】 指標 2 2-1 施工計画の策定状況 2-2 施工管理 (工程管理、品質管理、安全管理、原価管理) の実施状況 2-3 施工済み道路の品質	指標 2 から成果 2 の達成度を判定する			
	133 成果 3:【保有する道路の建設・補修機材が適切に維持管理されるようになる (資機材管理庁 IGE 職員対象)】 指標 3 3-1 機材台帳・機材管理記録簿の更新状況 (実績) 3-2 機材メンテナンスの実施状況 (実績) 3-3.スベアパーツの調達補充状況 (実績) 3-4.所定機材メンテナンス技術を習得した職員数と技術習得度 3-5.機材維持管理に係る予算の立案・管理業務の定着度	指標 3 から成果 3 の達成度を判定する			
14 プロジェクト目標の達成度合	141 プロジェクト目標 【東ティモール人材(DRBFC, IGE)による道路の施工・維持管理に係る技術・マネジメント能力が向上する】 【指標】 1 道路台帳・維持管理データベースの活用状況 2 点検・評価の実施状況 (実績) 3 道路維持管理・補修工事の実施状況 (実績) 4 応急・復旧工事の実施状況 (実施) 5 維持補修工事/応急復旧工事の品質 6 機材の状況	指標から達成度を判定する	● プロジェクト実績の進捗状況をプロジェクト目標の指標の推移からみる		
	142 プロジェクト目標の達成の見込みはあるか。	過去のプロジェクト達成度推移グラフから 5 段階自己評価により判断する			

評価グリッド (VI.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

実施プロセス	21 プロジェクト関係者の役割の理解	211 適切な C/P が配置されているか	5段階自己評価により現在の配置状況を当初計画と比較し判定する	● 受け入れ国のリソースと経験者の活用を含めた C/P の配置状況を調査する	プロジェクト資料、JET、C/P	関係資料レビュー、質問票、インタビュー、現地調査
		212 C/P のプロジェクトへの参加割合は高いか。	5段階自己評価から判定する	● C/P の活動・参加状況を調査する		
		213 関係者のプロジェクト目標に対する認識は高いか。	5段階自己評価により共通認識の有無を判断する	● 指標の理解度を、下記に分けて調査する ● (上位目標、プロジェクト目標)		
		214 各々の役割は明確であったか、	5段階自己評価から判定する	● C/P の役割表、担当者の職掌規定の有無を確認する。 ● ない場合、役割の明確度を質問票で調査する		
		215 また役割は各々に理解されていたか。	5段階自己評価から理解度を判定する	● 役割の理解度を質問票で役割を調査する		
	22 主体性	221 プロジェクト開始時には JET 主導で行われていた活動が、C/P 主体に切り替わっているか。	5段階自己評価により主導性・オーナーシップの移行状況を判定する	● 活動実施の具体的主導者名を調査する ● また C/P 主導で活動を実施することにおいての問題の有無を調査する		
	23 モニタリング	231 定期的なモニタリングが行われて (いるか) いたか。またどのような方法で行われたか。	モニタリングの頻度の5段階自己評価により判定する。	● 報告書もしくは質問状によりモニタリング体制、モニタリング実績 (実施回数)、を調査する		
		232 モニタリングの結果はどのようにプロジェクトの活動に反映されたか。	5段階自己評価により反映実績の有無で判定する	● 質問状により、モニタリング結果の活用状況、プロジェクト関係者との結果の共有方法を調査する		
		233 モニタリング結果により PO、PDM に軌道修正が適切に行われたか。	5段階自己評価により PO、PDM に対する軌道修正の有無で判定する	● 質問状により PO、PDM 修正の履歴 (変更プロセス、変更理由) を調査する		
	24 プロジェクトのマネジメント体制	241 プロジェクト内のコミュニケーションに問題はないか。情報は共有されたか。	5段階自己評価によりマネジメントに係る情報伝達の実態を判定する	● JET とのコミュニケーション状況 (活動報告等) コミュニケーション頻度 (打合せ回数)、方法、内容、反映度		
		242=222 JICA 本部・在外事務所、の軌道修正への対応は迅速であったか?	5段階自己評価により迅速性を判断する	● 軌道修正の有無、その迅速性を調査する		
	25 意思決定過程	251 プロジェクト方針での意思決定の過程における問題点	意思決定のための JCC、その他のミーティングの開催回数とその問題点の有無で判定する	● 下記のような意思決定のプロセスを調査する ● JCC (回数、参加者、問題点)、その他のミーティング (回数、参加者、問題点)		
	26 活動実施のための前提条件の変化	261 前提条件に変化があったか。 262 変化による影響はあったか。 263 また、それに対する対応は適切であったか。	前提条件の状況から判定する	● 中間評価の結果から DRBFC のプロジェクト活動用に IGE の機材を使用する可能性はないことが判明している ● その影響を質問票で確認する		

評価グリッド (VI.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

		前提条件 1:プロジェクト活動で用いる DRBFC 及び IGE の機材が使えるようになっている 2: DRBFC 及び IGE が負担する本プロジェクト活動経費が政府より承認されている				
27 活動進捗上の問題点	271 プロジェクトの実施過程で生じている問題はあるか その原因はなにか	実施過程での問題点の有無で判定する	● 質問状により実行体制の問題点の有無とその原因を調査する			
	272 活動の進捗に影響を与えた正・負の要因はあるか。	活動の進捗に影響を与えた要因の有無で判定する	● 質問状により活動の進捗に影響を与えた正の要因・負の要因を調査する			
	273 問題発生時(負の要因含)にどんな対応がとられたか。	問題発生時の対応の有無で判定する	● 質問状により問題発生時の対応策、問題解決の方法を調査する			
31 対象地域・社会のニーズと合致しているか	311 上位目標及びプロジェクト目標は受入国社会開発経済政策に合致しているか。	5段階外部評価で社会開発経済政策との整合性から判定する	● 社会開発経済計画案(??年?月原案) ● その他関連法令を調査する	五か年計画		資料レビュー、インタビュー、現地調査
	312 プロジェクト目標は関係機関のニーズに合致しているか。	5段階外部評価で関係機関のニーズから判定する	● 質問状により関係機関のニーズを調査する	その他資料		
	32 対象Gの選定は妥当であったか	321 対象グループの選定は適切であったか。	5段階外部評価で関係者分析結果の内容から判定する	● プロジェクト実施中のターゲットグループの適切性を調査する	関係者分析結果、JET、C/P	
	33 対象地域	331 対象地域は適切に選択されたか。	5段階外部評価から判定する	● プロジェクト対象地域の適切性を調査する	プロジェクト資料、JET、C/P	
	34 日本の援助政策との整合性はあるか。	341 援助重点政策との関連は? 国別事業実施計画との関連性は?	5段階外部評価により日本の援助重点政策との関連から判定する	● ODA 大綱 ● JICA 国別援助計画(平成??年?月)	ODA 大綱 国別援助計画	資料レビュー
	35 日本の技術の優位性	351 JICA は同様の支援を他で実施したことがあるのか。	5段階外部評価により他国での同様の支援の有無から判定する	● 過去の我が国支援の記録		
352 十分な知見・経験が日本に蓄積されているか。		プロジェクトの経験の蓄積の有無を5段階外部評価により判定する	● 参照可能報告書の有無を調査する	JICA 在外事務所、JICA 図書館等 JET、C/P	資料レビュー、インタビュー、質問票	
353 過去のプロジェクト(あれば)の経験やリソースは有効に使われたか。		5段階自己評価から本プロジェクトにおける過去の類似プロジェクトの経験やリソースの活用実績の有無を判定する	● 過去の経験やリソースの本プロジェクトでの活用例			
36 手段の適切性	361 戦略としてプロジェクトは適切か。	5段階外部評価から現地状況にあった協力形態や方法の選択の適切性か	● 受入国の国情に合わせた修正・活用方法の方向性 ● パイロット事業としての箇所あるいは数の適切性	プロジェクト資料、JET	資料レビュー、インタビュー、現地調査	

評価グリッド (V1.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

		362 プロジェクトローは適切であったか。	ら判定する 5段階外部評価から計画された【活動】→【成果】→【プロジェクト目標】→【上位目標達成】の論理の適切性から判定する	● 論理性をみる			
有効性	41 プロジェクト目標と成果の関係	411 成果1~3はプロジェクト目標を達成するのに適切か 成果1:【道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(道路橋梁治水局 DRBFC 職員対象)】 成果2:【MOIの施工に係るケーススタディの実施を通じて、小規模工事について質の高い工事ができるようになる(DRBFC及びIGE職員対象)】 成果3:【IGEの保有機械が適切に維持管理されるようになる(資機材管理庁 IGE 職員対象)】	5段階自己評価と外部評価から各成果のP目標との関係の深さを判定する	● プロジェクト目標達成に係る外部条件との因果関係の論理性 ● 各成果の達成状況	プロジェクト資料 JET、 C/P、 関係機関	インタビュー、 資料レビュー、 質問票	
	42 プロジェクト目標達成のための外部条件	421 プロジェクト目標を達成するための外部条件においても正しいか 外部条件 1.技術指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける(活動途中で離職しない)。 2.IGEの現在の役割・機能が維持される。(政治的な判断等により、IGEの大幅な組織変更もしくは解体等IGEの組織運営に係る方針が大きく変更されない。) 3.IGE所有機材の借方が借用機材を使用後に契約どおりにIGEに返却する。 4.IGE所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用する。(不適切な活用による修復不可能な破損、破壊などが煩雑におこらない) 5.ケーススタディ道路エリアを活動途中で破壊するような予測不可能な自然災害が発生しない。	5段階自己評価と外部評価から外部条件の妥当性を判定する	● 外部条件の現状	プロジェクト資料、 JET、 C/P	インタビュー、 質問票、 資料レビュー、 現地調査	
		422 外部条件によるプロジェクト目標達成への影響はあるか	5段階自己評価と外部評価の双方から影響の有無を判定する				
	43 阻害要因	431 その他プロジェクト目標達成の遅れを招いている阻害要因はあるか	阻害要因の有無・量を5段階自己評価から判定する	● 報告書・質問状・ヒアリングから判断する			
	44 プロジェクト環境の	441 プロジェクト環境(ドナーの援助傾向も含む)に変化はあったか。	5段階自己評価から本プロジェクトの関係する他ドナーの援助動向の変化の	● 政策・経済・社会的変化に関連する情報	他ドナー、 プロジェクト資料、	インタビュー、 資料レビュー	

評価グリッド (V1.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

	変化		有無で判定する			
効率性	51 投入、活動の、成果 相関関係	511 活動は成果算出のため適切であったか 投入の量・質は適切であったか。 またタイミングは適切であったか	計画値と実績との比較や 類似案件との比較から判 定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活用されなかった投入の有無</li> <li>● JET (人数、指導分野、タイミング)</li> <li>● 日本側から供与した資機材 (種類、機種、数、 タイミング)</li> <li>● 日本側からの経費 (ローコスト)</li> <li>● 受け入れ側から提供した資機材 (種類、機種、 数、タイミング)</li> <li>● 本邦研修 (研修の目的、回数、内容、人数、 期間、タイミング)</li> </ul>	プロジェクト資料、 JET、 C/P	資料レビュー、 質問票、 インタビュー 現地調査
	52 費用の 効率性	521 投入に見合ったアウトプットやプロジェクト目標の達 成が見込めるか	5段階自己評価から判定 する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 投入コストと成果・プロジェクト目標との関係</li> </ul>		
	53 他ドナーやス キームとの 調整・協力	531 プロジェクト効果を高めるために他ドナー・スキームとの援 助協調・協力はあったか。	5段階自己評価から他ド ナー・スキームとの援助協 調・協力の有無で判定す る	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協力機関名・スキーム名、援助協調・協力の内 容 (各機関別に)コミュニケーション頻度、方法</li> <li>●</li> </ul>		
	54 外部条件	541 成果達成のための外部条件は現時点においても正しい か 1. 技術指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける (活動途中で離職しない)。 2. IGEの現在の役割・機能が維持される。(政治的な判 断等により、IGEの大幅な組織改変もしくは解体等IGE の組織運営に係る方針が大きく変更されない。) 3. IGE所有機材の借方が借用機材を使用後に契約どおり にIGEに返却する。 4. IGE 所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用す る。(不適切な活用による修復不可能な破損、破壊など が煩雑におこらない) 5. ケーススタディ道路エリアを活動途中で破壊するよ うな予測不可能な自然災害が発生しない。 6. 活動の進捗を妨げるような、社会不安・治安の悪化 が起こらない	5段階自己評価と外部評 価から判定する	外部条件の現状からみた妥当性		
		542 外部条件による影響はないか。	5段階自己評価から判定 する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部条件による影響内容</li> </ul>		
	55 関係する要 素	551 成果の達成状況に対する貢献要因はあるか。	5段階自己評価と外部評 価から判定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貢献要因の有無</li> </ul>		
		552 成果の達成状況に対する阻害要因はあるか。	5段階自己評価と外部評 価から判定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 阻害要因の有無とその対処方法</li> </ul>		

評価グリッド (VI.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

インパクト	61 上位目標達成度合	611 上位目標【東ティモール国の道路状況が改善される】 指標： 1 道路の劣化箇所数が減少する 2 道路維持管理関係の全体予算が増加し、 3 同時に単位距離あたりの維持管理費用が減少する	5段階自己評価と外部評価から判定する	● 指標の達成度	プロジェクト資料、 JET、 C/P、 関係機関	インタビュー、 資料レビュー、 質問票 現地調査
	62 上位目標達成の可能性	621 プロジェクト終了後、3年後に上位目標が達成される可能性があるか。	5段階外部評価から判定する	● 実施前、実施後の比較 ● ターゲット外の組織との比較 ● 上位目標を達成するための方策		
		622 上位目標達成の阻害要因はあるか。	5段階自己評価と外部評価から判定する	● 外部要因に影響をした阻害要因の有無 ● 阻害要因とその軽減策		
	63 プロジェクト目標と上位目標の相関関係	631 プロジェクト目標と上位目標は乖離していないか。	5段階自己評価と外部評価から判定する	● プロジェクト目標と上位目標の因果関係 ● プロジェクトの論理性		
		632 上位目標達成のための外部条件は現時点でも正しいか。 外部条件： 1.道路施工・維持管理に係る政府財源が安定して確保される 2.車両交通量が予測を超える程に激増しない	5段階自己評価と外部評価から判定する	● 上位目標達成のための外部条件の現状 ● 上位目標の外部条件の影響 ● 上位目標の外部条件が将来満たされる可能性		
64 波及効果	641 上位目標以外の効果・影響が想定されるか？	5段階自己評価から判定する	● 質問状により受入国側の予期していなかった影響 ● プロジェクト関係者への予期していなかった正・負の影響 ● 住民への影響（生計等） ● 特にマイナスの影響について軽減するための対策			
持続性	71 政策・制度面	711 日本の支援終了後に、受入国政府がプロジェクトの実施を支援するか。	5段階自己評価から判定する	● 質問状により持続的技術能力向上に対する受入国政府の現在の方針・計画及び決定 ● 今後の関連規制、法制度の整備予定	JET、 C/P プロジェクト資料、	インタビュー、 質問票 現地調査 資料レビュー、
	72 財政面	721 プロジェクト活動を継続するために、今後受入国政府より予算が確保できるか。	5段階自己評価から判定する	● 質問状により将来プロジェクトの成果を持続させていくための予算確保の可能性		
	73 組織面	731 プロジェクト実施体制は、プロジェクト終了後も活動を実施・普及する組織的能力があるか。	5段階自己評価から判定する	● プロジェクト活動を継続的に実施するための人員配置 ● プロジェクト実施機関の組織能力 ● 実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップの有無 ● 各プロジェクト関係者の機能・役割の明確化 ● 各プロジェクト関係者の役割の理解		
	74 能力・	741 C/Pは、効果的に活動を実施する能力を携えているか。	5段階自己評価から判定する	● 質問状によりC/Pのオーナーシップ・イニシアティブ ● 活動の継続に必要な条件		

評価グリッド (V1.1)

東ティモール道路工事能力強化プロジェクト(終了時評価)

技術面	742 トレーニングを受けた C/P がプロジェクトに残る可能性があるか。	5 段階自己評価から判定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● C/P の運営管理能力の有無</li> <li>● 質問状により平均的な人事異動の期間</li> <li>● 人事異動の際の引き継ぎシステムの有無</li> </ul>			
	743 プロジェクトで用いられる技術移転の手法は受容されつつあるか？ C/P に技術の定着はしているか。	5 段階自己評価と外部評価から判定する 受容の程度： 定着の程度：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問状により受入国側に技術移転した技術の定着度（人に教えられるのか、独立してできるのか等）</li> <li>● 移転された技術を普及するプロジェクトでのメカニズム</li> <li>● 実施機関が普及のメカニズムを維持できる可能性</li> <li>● 本プロジェクトのもとで育成された C/P が独自に研修を行う能力の有無</li> <li>● 環境への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性</li> </ul>			
	75 技術移転	751 技術移転の方法に問題はないか。	5 段階自己評価と外部評価から判定する			<ul style="list-style-type: none"> <li>● JET から C/P への技術移転内容・状況</li> <li>● C/P の理解度</li> <li>● 改善すべき事項の有無</li> </ul>
	76 機材面	761 供与された機材は適切に維持管理できるか。	5 段階自己評価と外部評価から判定する			<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問状により機材の維持管理/修理・活用状況</li> <li>● 機材の維持管理のための予算</li> </ul>
77 軌道修正の必要性 (中間のみ)	771 プロジェクトに影響を与える新たな外部条件の有無 事前評価時に指摘された問題・課題・リスク等の変化等の有無	5 段階自己評価と外部評価から判定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 投入、活動、アウトプットの内容、指標を軌道修正の必要性</li> <li>● プロジェクトに影響を与える新たな外部条件の有無</li> <li>● 事前評価時に指摘された問題・課題・リスク等の変化</li> <li>● 今後、留意していかなければならない事項</li> </ul>			

## 道路維持管理能力向上プロジェクト

## 終了時評価用質問状

## 前略

終了時評価は、プロジェクト終了時での達成状況、運営効果、将来の持続性等を総合的に評価するため実施されるものです。道路維持管理能力向上プロジェクトは、2013年3月終了予定とされていますが、今回本プロジェクトの終了時評価の実施にあたり、以下について各位のご協力をお願いする次第です。

本質問状は、PDM および評価チームが準備した JICA 標準に基づく評価グリッド表をもとに作成されており、2部構成となっています。いずれも英語が正文で日本語は参考用とし、回答も英語でお願いします。

- 1) 第1部(9ページ)が主要部分であり、プロジェクト担当のどなたか代表者の方に評価チームの到着までに準備をお願いするものです。大部分の回答は、質問状に示すような表形式で別紙にお答えいただくものとなっています。お答えはハードコピーを提出いただくと同時にソフトコピー(英和文)の提出もお願いします。送付先“kaneda614@gmail.com”準備には期間が必要と考えられるため、プロジェクト全体で支援いただくことが望ましいと考えておりますのでよろしくをお願いします。
- 2) 第2部(3ページ)はプロジェクトに関係する日本人専門家、受入国側カウンターパート全員にインタビュー実施前に記入をお願いします。質問はすべて5段階評価となっており、該当する箇所に丸印を付けてください。

頂いたお答えをもとに、評価チームはできるだけ多くのスタッフに個別にインタビューを実施するつもりです。

ご理解とご協力をお願い申し上げます。

草々

評価チーム

質問項目は以下7種類から成り立ちます

項目	A. 主な質問内容	B. 補足質問	C. その他	回答方法
1.実績	*投入・活動の計画との比較 *指標からみたアウトプットの達成度合い	*プロジェクト目標の達成度合い	*プロジェクト目標の達成の可能性	*主としてプロジェクト担当の方に記入いただきます。 *表もしくはグラフは、別紙として記入いただければ幸いです。
2.実施プロセス	*C/Pの配置の適切性と参画程度 *主体性の移転状況 *実施上の意思決定システム	*関係者のプロジェクト目標にたいする理解度 *各カウンターパートの役割の明確度、理解度 *プロジェクト内およびJICAとのコミュニケーション状況	*前提条件の変化 *活動実施上(技術移転上)の問題点 *プロジェクトモニタリングの状況	*簡単な文章記入(別紙として記入)と5段階評価で、プロジェクト担当の方に記入いただきます。 *プロジェクト関係者全員にお願いする部分は、5段階評価です。
3.妥当性	*被益者のニーズとの整合性 *上位計画・我が国の援助計画との整合性	*ターゲットグループ・対象地域の適切性 *(手段としての適切性)	*日本の技術の優位性、有効活用	*主として評価チームの担当部分ですが、「過去のプロジェクトの活用」部分のみ全員に5段階評価で記入いただきます。
4.有効性	*プロジェクト目標の達成見込みを成果の貢献度・活用度からみる	*プロジェクト目標達成に係る阻害要因	*プロジェクト目標達成のための外部条件	*プロジェクト代表の方に記入いただき、これを参考に評価チームが検討させていただきます。「プロジェクト目標達成に係る阻害要因の有無」のみ全員に5段階評価で記入いただきます。
5.効率性	*投入・活動内容・運営管理体制の効率性 *連携：他政府・ドナーとの効果的連携	*実施体制上の問題点 *成果達成のための貢献要因と阻害要因	*成果達成のための外部条件	*プロジェクト代表の方に記入いただき、これを参考に評価チームが検討させていただきます。
6.インパクト	*上位目標達成の見込み *波及効果予測、社会的影響	*プロジェクト目標と上位目標との乖離 *上位目標達成上の阻害要因	*上位目標達成のための外部条件	
7.持続性	*政策面、財政面、組織面、技術面に係る持続可能性 *(社会的配慮) *プロジェクト内容変更の必要性	*持続効果の発現のための阻害要因	*供与機材の維持管理の可能性	*全項目についてプロジェクト担当の方に5段階評価で記入いただきます。これを参考に評価チームが検討させていただきます。

評価基準については評価内容で基準が異なるため各欄に採点要領表を記載してあります。数字の高いほど良いという解釈です。

第一部 プロジェクトの代表者をお願いする部分

評価設問	判断基準・方法	具体的質問																																
投入は計画通りか？																																		
111 日本側からの投入は計画通りであったか。		記述 111：下記のような表で示してください。																																
人員：（合計3名） 以下分野の JICA 専門家（JET）： 道路維持管理/総括(1)、 道路施工管理(1)、 建設機械維持管理(1)、 その他必要な分野	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当職名</th> <th>当初の計画 MM</th> <th>変更計画投入 MM</th> <th>現時点迄の投入 MM</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路維持管理/総括(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>道路施工管理(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建設機械維持管理(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	担当職名	当初の計画 MM	変更計画投入 MM	現時点迄の投入 MM	道路維持管理/総括(1)				道路施工管理(1)				建設機械維持管理(1)				他															
		担当職名	当初の計画 MM	変更計画投入 MM	現時点迄の投入 MM																													
		道路維持管理/総括(1)																																
		道路施工管理(1)																																
建設機械維持管理(1)																																		
他																																		
研修員受け入れ：（合計 MM 程度を想定） 必要に応じた分野・人数	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名・目的</th> <th>年月</th> <th>期間</th> <th>研修の回数</th> <th>実際参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本国内研修</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第三国研修</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	研修名・目的	年月	期間	研修の回数	実際参加人数	日本国内研修					第三国研修																					
研修名・目的	年月	期間	研修の回数	実際参加人数																														
日本国内研修																																		
第三国研修																																		
機材プロジェクト実施に必要な機材類 DRBFC-ディリ地方事務所への道路維持管理・補修用機材（移動型簡易機材）	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機材名・目的</th> <th>仕様</th> <th>量</th> <th>納入年月</th> <th>コスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト																											
機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト																														
在外事業強化費 JICA 専門家活動の技術指導・研修経費	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>経費名</th> <th>目的</th> <th>当初予定額 （千円）</th> <th>現在迄支払額</th> <th>問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	経費名	目的	当初予定額 （千円）	現在迄支払額	問題点																											
経費名	目的	当初予定額 （千円）	現在迄支払額	問題点																														
112 受入国側からの投入は計画通りであったか																																		
C/P 配置： 計？名 1-1 運営管理人材： プロジェクトダイレクター、 プロジェクトダイレクター補佐、 プロジェクトマネージャー、 プロジェクトマネージャー補佐 1-2C/P 人材： 道路橋梁治水局(DRBFC)職員(地方事務所職員を含む)、 資機材管理庁(IGE)職員 1-3 訓練生の配置： 必要に応じた訓練生。		記述 112：下記のような表で示してください。																																
専門家執務室および プロジェクト事務室(DRBFC 及び IGE)、 JICA 専門家の執務室(DRBFC, IGE 内)、	投入員数の計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当職名</th> <th>当初の計画 MM</th> <th>現時点迄の投入 MM</th> <th>問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクトダイレクター</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトダイレクター補佐</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトマネージャー</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトマネージャー補佐</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DRBFC 職員</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGE 職員</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>訓練生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	担当職名	当初の計画 MM	現時点迄の投入 MM	問題点	プロジェクトダイレクター				プロジェクトダイレクター補佐				プロジェクトマネージャー				プロジェクトマネージャー補佐				DRBFC 職員				IGE 職員				訓練生			
		担当職名	当初の計画 MM	現時点迄の投入 MM	問題点																													
プロジェクトダイレクター																																		
プロジェクトダイレクター補佐																																		
プロジェクトマネージャー																																		
プロジェクトマネージャー補佐																																		
DRBFC 職員																																		
IGE 職員																																		
訓練生																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>提供された施設名</th> <th>提供された年月</th> <th>満足度</th> <th>問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクト事務室(DRBFC)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクト事務室(IGE)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>会議室</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>セミナー会場</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 満足度は下記の5段階で記入ください <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足度</td> <td>十分</td> <td>まあ良し</td> <td>どちらともいえない</td> <td>やや不満足</td> <td>不満足</td> </tr> </tbody> </table>	提供された施設名	提供された年月	満足度	問題点	プロジェクト事務室(DRBFC)				プロジェクト事務室(IGE)				会議室				セミナー会場					5	4	3	2	1	満足度	十分	まあ良し	どちらともいえない	やや不満足	不満足		
提供された施設名	提供された年月	満足度	問題点																															
プロジェクト事務室(DRBFC)																																		
プロジェクト事務室(IGE)																																		
会議室																																		
セミナー会場																																		
	5	4	3	2	1																													
満足度	十分	まあ良し	どちらともいえない	やや不満足	不満足																													

<p>機材設備・資機材 DRBFC 及び IGE 所有の機材、 その他必要に応じた資機材</p>	<p>計画実績比較</p>	<table border="1"> <tr> <th>機材名・目的</th> <th>仕様</th> <th>量</th> <th>納入年月</th> <th>コスト</th> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト																																																																																																																																																																			
機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト																																																																																																																																																																						
<p>プロジェクト実施に必要な経常経費 機材維持管理経費、部品調達経費 C/P と訓練生の交通費、旅費 外部委託調査費（県道 km ポスト設置費含む）、 ケーススタディ経費、 C/P 人件費・日当</p>	<p>計画実績比較</p>	<table border="1"> <tr> <th>経費名</th> <th>当初予定額:千円</th> <th>現在迄支払額</th> <th>問題点(あれば)</th> </tr> <tr> <td>C/P 人件費・日当</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>C/P と訓練生の交通費、旅費</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>ケーススタディ経費</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>機材維持管理経費</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>部品調達経費</td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	経費名	当初予定額:千円	現在迄支払額	問題点(あれば)	C/P 人件費・日当				C/P と訓練生の交通費、旅費				ケーススタディ経費				外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)				機材維持管理経費				部品調達経費																																																																																																																																															
経費名	当初予定額:千円	現在迄支払額	問題点(あれば)																																																																																																																																																																							
C/P 人件費・日当																																																																																																																																																																										
C/P と訓練生の交通費、旅費																																																																																																																																																																										
ケーススタディ経費																																																																																																																																																																										
外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)																																																																																																																																																																										
機材維持管理経費																																																																																																																																																																										
部品調達経費																																																																																																																																																																										
<p>1/2活動は、計画通り実施されているか 活動 1-1: 前プロジェクトの成果をレビューし、「道路維持管理計画書」 を更新する 活動 1-2: 維持管理業務に係る年間作業計画を立てる 活動 1-3: 平常時の「連絡マニュアル」を活用し、県道(district roads) を含めた幹線道路の点検・評価を行い、道路台帳を作成・更新する 活動 1-4: 上記点検・評価の結果に基づき道路維持管理データベース を更新する 活動 1-5: 更新された道路維持管理データベースに基づき維持・補修 計画を作成する 活動 1-6: 災害時、緊急時において必要な緊急点検・復旧工事を行う 活動 1-7: 適切な予算の立案・管理を行う 活動 2-1: DRBFC と IGE の密な協力の下に、ケーススタディ工事（主 要道路の改良・補修工事等）を特定する。 活動 2-2: DRBFC と IGE の密な協力の下に、対象工事に係る設計・積 算・予算措置を行う 活動 2-3: 施工計画を策定する。(IGE 所有機材の調達を含む) 活動 2-4: 工事に係る要員を特定し、各人の責務内容を明確にする 活動 2-5: 実際の工事現場において施工管理を行う (IGE による直接 施工も含む) 活動 2-6 完工検査を実施する 活動 2-7 工事に係る安全訓練を行う 活動 3-1: 前プロジェクトの成果をレビューする 活動 3-2: 電子化を含め機材台帳を更新する 活動3-3 貸出後・貸出前の機材点検を行う 活動3-4 機材台帳にもとづき機材点検を行う 活動3-5 補充すべきスペアパーツの特定・発注・調達を行う 活動3-6 メカニックを対象とした技術指導（点検・補習技術等）を実 施し、習得度評価を行う 活動 3-7 (可能な限り) 自立的な予算の立案・管理を行う</p>	<p>活動報告書から進 捗状況が計画通り かどうかを判定し ます</p>	<p>下記の 5 段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">DRBFC</td> </tr> <tr> <td>1-1 前成果のレビュー</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-1 道路維持管理計画書の更 新</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-2 年間作業計画</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-3 幹線道路の点検評価</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-4 データベースの更新</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-5 維持・補修計画の作成</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-6 緊急点検・復旧工事の実 施</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>1-7 予算の立案・管理</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">ケーススタディ</td> </tr> <tr> <td>2-1 工事の特定</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-2 上記の設計・積算・予算 措置</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-3 施工計画の策定</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-4 工事に係る要員の特定</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-4 各人の責務内容の明確化</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-5 現場施工管理</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-6 完工検査の実施</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>2-7 安全訓練の実施</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">IGE</td> </tr> <tr> <td>3-1 前成果のレビュー</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-2 機材台帳の更新</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-3 貸出前後の機材点検補修</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-4 台帳にもとづく機材点検</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-5 パーツの特定・発注・調 達</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-6 技術指導の実施</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-7 習得度評価の実施</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> <tr> <td>3-7 自立的な予算の立案・管 理</td> <td>計画以上</td> <td>計画通り</td> <td>ほぼ計画通り</td> <td>やや遅れ</td> <td>遅れている</td> </tr> </tbody> </table>	活動	5	4	3	2	1	DRBFC						1-1 前成果のレビュー	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-1 道路維持管理計画書の更 新	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-2 年間作業計画	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-3 幹線道路の点検評価	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-4 データベースの更新	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-5 維持・補修計画の作成	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-6 緊急点検・復旧工事の実 施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	1-7 予算の立案・管理	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	ケーススタディ						2-1 工事の特定	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-2 上記の設計・積算・予算 措置	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-3 施工計画の策定	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-4 工事に係る要員の特定	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-4 各人の責務内容の明確化	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-5 現場施工管理	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-6 完工検査の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	2-7 安全訓練の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	IGE						3-1 前成果のレビュー	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-2 機材台帳の更新	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-3 貸出前後の機材点検補修	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-4 台帳にもとづく機材点検	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-5 パーツの特定・発注・調 達	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-6 技術指導の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-7 習得度評価の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている	3-7 自立的な予算の立案・管 理	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている
活動	5	4	3	2	1																																																																																																																																																																					
DRBFC																																																																																																																																																																										
1-1 前成果のレビュー	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-1 道路維持管理計画書の更 新	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-2 年間作業計画	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-3 幹線道路の点検評価	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-4 データベースの更新	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-5 維持・補修計画の作成	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-6 緊急点検・復旧工事の実 施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
1-7 予算の立案・管理	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
ケーススタディ																																																																																																																																																																										
2-1 工事の特定	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-2 上記の設計・積算・予算 措置	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-3 施工計画の策定	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-4 工事に係る要員の特定	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-4 各人の責務内容の明確化	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-5 現場施工管理	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-6 完工検査の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
2-7 安全訓練の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
IGE																																																																																																																																																																										
3-1 前成果のレビュー	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-2 機材台帳の更新	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-3 貸出前後の機材点検補修	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-4 台帳にもとづく機材点検	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-5 パーツの特定・発注・調 達	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-6 技術指導の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-7 習得度評価の実施	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					
3-7 自立的な予算の立案・管 理	計画以上	計画通り	ほぼ計画通り	やや遅れ	遅れている																																																																																																																																																																					

<p>成果は計画通り達成されてきているか</p> <p>131 成果 1：【道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(道路橋梁治水局 DRBFC 職員対象)】</p>	<p>指標 1：から達成度を判定する</p> <p>1-1 道路維持管理データベースの更新状況 (実績)</p> <p>1-2 維持補修の実施状況 (実績)</p> <p>1-3 緊急時の対応状況</p> <p>1-4 予算の立案・管理業務の定着度</p>	<p>各指標の現在の状況について下記の5段階評価表の該当箇所を丸をつけてください。</p>					
<p>132 成果 2：【MOI の施工に係るケーススタディの実施を通じ、小規模工事について質の高い工事ができるようになる (DRBFC 及び IGE 職員対象)】</p>	<p>指標 2：から達成度を判定する</p> <p>2-1 施工計画の策定状況</p> <p>2-2 施工管理 (工程管理、品質管理、安全管理、原価管理) の実施状況</p> <p>2-3 施工済み道路の品質</p>	<p>指標</p>	<p>5</p>	<p>4</p>	<p>3</p>	<p>2</p>	<p>1</p>
<p>133 成果 3：【保有する道路の建設・補修機材が適切に維持管理されるようになる (資機材局 IGE 職員対象)】</p>	<p>指標 3：から達成度を判定する</p> <p>3-1 機材台帳・機材管理記録簿の更新状況 (実績)</p> <p>3-2 機材メンテナンスの実施状況 (実績)</p> <p>3-3.スペアパーツの調達補充状況 (実績)</p> <p>3-4.所定機材メンテナンス技術を習得した職員数と技術習得度</p> <p>3-5.機材維持管理に係る予算の立案・管理業務の定着度</p>	<p>1-2 DRBFC 職員によるデータベースの更新</p>	<p>随時更新中</p>	<p>年 1 回程度</p>	<p>非定期的</p>	<p>準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>1-3 維持補修の実施</p>	<p>随時自主的に実施中</p>	<p>随時指示に従って実施</p>	<p>時々実施</p>	<p>あまり実施されていない</p>	<p>未着手</p>
		<p>1-4 緊急時の対応</p>	<p>随時自主的に対応中</p>	<p>随時指示に従って実施</p>	<p>時々実施</p>	<p>あまり実施されていない</p>	<p>未着手</p>
		<p>1-5 予算の立案・管理業務</p>	<p>定着済</p>	<p>技術移転済</p>	<p>技術移転中</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>2-1 小規模工事について施工計画の策定</p>	<p>自主的に策定可能</p>	<p>支援のもとに策定可能</p>	<p>技術移転中</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>2-2 小規模工事について施工管理の実施</p>	<p>自主的に満足できる状態</p>	<p>内容的に向上</p>	<p>技術移転中</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>2-3 施工済み道路の品質</p>	<p>満足できる状態</p>	<p>改善がみられるようになった</p>	<p>技術移転中</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>3-1 IGE 軒材の台帳・記録簿の更新</p>	<p>随時更新中</p>	<p>年 1 回程度</p>	<p>非定期的</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>3-2 メンテナンス実施</p>	<p>随時実施中</p>	<p>定期的に実施</p>	<p>時々</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>3-3 パーツの調達補充</p>	<p>自主的に実施中</p>	<p>支援のもとに実施可能</p>	<p>技術移転中</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>3-4 技術習得度</p>	<p>向上した</p>	<p>やや向上した</p>	<p>何とも言えない</p>	<p>余り向上なし</p>	<p>向上なし</p>
		<p>3-5 予算の立案・管理</p>	<p>定着済</p>	<p>支援のもとに実施可能</p>	<p>技術移転中</p>	<p>技術移転準備中</p>	<p>未着手</p>
		<p>記述 131：指標ごとに下記のような表の提出をお願いします</p>					
<p>項目</p>	<p>プロジェクト開始前の有技能者数</p>	<p>現時点での有技能者数</p>	<p>最終時の有技能者数予測</p>				
<p>3-4 技術習得職員数</p>							

<p>141 プロジェクト目標の達成度 【東ティモール人材(DRBFC, IGE)による道路の施工・維持管理に係る技術・マネジメント能力が向上する】</p>	<p>指標からプロジェクト目標の達成度を判定します 【指標】 1 道路台帳・維持管理データベースの活用状況 2 点検・評価の実施状況（実績） 3 道路維持管理・補修工事の実施状況（実績） 4 応急・復旧工事の実施状況（実施） 5 維持補修工事/応急復旧工事の品質 6 機材の状況</p>	<p>下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データベースの活用</td> <td>更新されている</td> <td>まあ更新されているといえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>ほとんど更新されていない</td> <td>更新されていない</td> </tr> <tr> <td>点検・評価の実施</td> <td>実施されている</td> <td>部分的に実施されている</td> <td>どちらともいえない</td> <td>ほとんど実施されていない</td> <td>実施されていない</td> </tr> <tr> <td>補修工事の実施状況</td> <td>実施されている</td> <td>部分的に実施されている</td> <td>どちらともいえない</td> <td>ほとんど実施されていない</td> <td>実施されていない</td> </tr> <tr> <td>応急・復旧工事の実施状況</td> <td>迅速に実施されている</td> <td>遅れはあるが実施されている</td> <td>どちらともいえない</td> <td>ほとんど実施されていない</td> <td>実施されていない</td> </tr> <tr> <td>維持補修工事/応急復旧工事の品質</td> <td>向上した</td> <td>多少向上した</td> <td>どちらともいえない</td> <td>ほとんど向上していない</td> <td>向上していない</td> </tr> <tr> <td>機材の状況</td> <td>管理されている</td> <td>まあ管理されているといえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>ほとんど管理されていない</td> <td>管理されていない</td> </tr> </tbody> </table>		5	4	3	2	1	データベースの活用	更新されている	まあ更新されているといえる	どちらともいえない	ほとんど更新されていない	更新されていない	点検・評価の実施	実施されている	部分的に実施されている	どちらともいえない	ほとんど実施されていない	実施されていない	補修工事の実施状況	実施されている	部分的に実施されている	どちらともいえない	ほとんど実施されていない	実施されていない	応急・復旧工事の実施状況	迅速に実施されている	遅れはあるが実施されている	どちらともいえない	ほとんど実施されていない	実施されていない	維持補修工事/応急復旧工事の品質	向上した	多少向上した	どちらともいえない	ほとんど向上していない	向上していない	機材の状況	管理されている	まあ管理されているといえる	どちらともいえない	ほとんど管理されていない	管理されていない
	5	4	3	2	1																																							
データベースの活用	更新されている	まあ更新されているといえる	どちらともいえない	ほとんど更新されていない	更新されていない																																							
点検・評価の実施	実施されている	部分的に実施されている	どちらともいえない	ほとんど実施されていない	実施されていない																																							
補修工事の実施状況	実施されている	部分的に実施されている	どちらともいえない	ほとんど実施されていない	実施されていない																																							
応急・復旧工事の実施状況	迅速に実施されている	遅れはあるが実施されている	どちらともいえない	ほとんど実施されていない	実施されていない																																							
維持補修工事/応急復旧工事の品質	向上した	多少向上した	どちらともいえない	ほとんど向上していない	向上していない																																							
機材の状況	管理されている	まあ管理されているといえる	どちらともいえない	ほとんど管理されていない	管理されていない																																							
<p>142 プロジェクト目標の達成の見込みはあるか。</p>	<p>過去のプロジェクト達成度推移グラフから判断する</p>	<p>記述 142：過去のプロジェクト達成度を示す推移グラフ(進捗度グラフ)を示してください</p>																																										
<p>214 各々の役割は明確であったか、</p>	<p>C/Pの役割表、担当者の職掌規定の有無を確認します。 各々の役割の明確度は5段階自己評価から判定します</p>	<p>記述 214：C/Pの役割表、担当者の職掌規定が準備されている場合、その提出をお願いします。各々の役割の明確度については下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C/Pの役割の明確度</td> <td>明確である</td> <td>まあ明確である</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り明確でない</td> <td>明確ではない</td> </tr> </tbody> </table>		5	4	3	2	1	C/Pの役割の明確度	明確である	まあ明確である	どちらともいえない	余り明確でない	明確ではない																														
	5	4	3	2	1																																							
C/Pの役割の明確度	明確である	まあ明確である	どちらともいえない	余り明確でない	明確ではない																																							
<p>221 プロジェクト開始時にはJET主導で行われていた活動が、C/P主導に切り替わっているか。</p>	<p>5段階自己評価により主導性・オーナーシップの移行状況を判定します</p>	<p>下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主導性の移管状況</td> <td>移管完了</td> <td>部分的に完了</td> <td>移管を開始しはじめた</td> <td>準備中</td> <td>未着手</td> </tr> </tbody> </table> <p>記述 221：各活動の中で主導性の移行に関して問題点があれば下表のようにまとめてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動名</th> <th>問題点（あれば）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		5	4	3	2	1	主導性の移管状況	移管完了	部分的に完了	移管を開始しはじめた	準備中	未着手	活動名	問題点（あれば）																												
	5	4	3	2	1																																							
主導性の移管状況	移管完了	部分的に完了	移管を開始しはじめた	準備中	未着手																																							
活動名	問題点（あれば）																																											
<p>231 定期的なモニタリングが行われて（いるか）いたか。またどのような方法で行われたか。</p>	<p>モニタリングの頻度の5段階自己評価により判定します。</p>	<p>下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期的なモニタリングの実施状況</td> <td>毎月</td> <td>4 半期毎</td> <td>半年毎</td> <td>1年毎</td> <td>なし</td> </tr> </tbody> </table> <p>記述 231：モニタリング体制、モニタリング実績（実施回数）について記述された報告書を提出ください。</p>		5	4	3	2	1	定期的なモニタリングの実施状況	毎月	4 半期毎	半年毎	1年毎	なし																														
	5	4	3	2	1																																							
定期的なモニタリングの実施状況	毎月	4 半期毎	半年毎	1年毎	なし																																							
<p>232 モニタリングの結果はどのようにプロジェクトの活動に反映されたか。</p>	<p>5段階自己評価により反映実績の有無で判定します</p>	<p>モニタリングの反映状況について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モニタリングの活動への反映状況</td> <td>良い</td> <td>まあ良いといえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>改善の必要がある</td> <td>悪い</td> </tr> </tbody> </table>		5	4	3	2	1	モニタリングの活動への反映状況	良い	まあ良いといえる	どちらともいえない	改善の必要がある	悪い																														
	5	4	3	2	1																																							
モニタリングの活動への反映状況	良い	まあ良いといえる	どちらともいえない	改善の必要がある	悪い																																							

<p>233 モニタリング結果により PO、PDM に軌道修正が適切に行われたか。</p>	<p>5段階自己評価により PO、PDM に対する軌道修正の有無で判定します（方式 A）</p>	<p>モニタリング結果により軌道修正が適切に行われたかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 225 2013 300"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>PO、PDM の軌道修正状況</td> <td>適切である</td> <td>まあ適切である</td> <td>良くも悪くもない</td> <td>改善の必要がある</td> <td>適切でない</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	PO、PDM の軌道修正状況	適切である	まあ適切である	良くも悪くもない	改善の必要がある	適切でない						
	5	4	3	2	1															
PO、PDM の軌道修正状況	適切である	まあ適切である	良くも悪くもない	改善の必要がある	適切でない															
<p>251 プロジェクトでの意思決定の過程における問題点</p>	<p>意思決定のための JCC、その他のミーティングの開催回数とその問題点の有無で判定します</p>	<p>記述 25：下記のような意思決定のプロセスを記入してください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 328 2013 405"> <tr> <td>意思決定に係る会議名</td> <td>回数</td> <td>参加者</td> <td>問題点</td> </tr> <tr> <td>JCC</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(その他のミーティング)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	意思決定に係る会議名	回数	参加者	問題点	JCC				(その他のミーティング)									
意思決定に係る会議名	回数	参加者	問題点																	
JCC																				
(その他のミーティング)																				
<p>261 前提条件に変化があったか。</p>	<p>前提条件の状況から判定する 1.プロジェクト活用で用いる DRBFC 及び IGE の機材が使えるようになっている 2.DRBFC 及び IGE が負担する本プロジェクト活動経費が政府より承認されている</p>	<p>記述 261：前提条件 2、DRBFC 及び IGE が負担する本プロジェクト活動経費について、DRBFC 及び IGE それぞれの年次変化を記入ください。</p> <div data-bbox="1128 480 2013 533" style="border: 1px solid black; height: 33px;"></div>																		
<p>262 変化による影響はあったか。</p>		<p>記述 262：前提条件 2 について変化があれば その変化内容・その影響・プロジェクトとしての対応内容を記入ください。</p> <div data-bbox="1128 608 2013 660" style="border: 1px solid black; height: 33px;"></div>																		
<p>263 また、それに対する対応は適切であったか。</p>		<p>記述 263：変化に対する対応は適切であったか、考えを記入ください。</p> <div data-bbox="1128 687 2013 740" style="border: 1px solid black; height: 33px;"></div>																		
<p>271 プロジェクトの実施過程で生じている問題はあるか その原因はなにか</p>	<p>実施過程での問題点の有無で判定します</p>	<p>記述 271：プロジェクトの実施過程で生じている問題があれば記入ください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 767 2013 852"> <tr> <td>問題点</td> <td>その原因</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	問題点	その原因																
問題点	その原因																			
<p>272 活動の進捗に影響を与えた正・負の要因はあるか。</p>	<p>活動の進捗に影響を与えた要因の有無で判定します</p>	<p>記述 272：活動の進捗に影響を与えた正・負の要因があれば記入ください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 879 2013 963"> <tr> <td>要因</td> <td>負の要因の場合とられた対応</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	要因	負の要因の場合とられた対応	結果															
要因	負の要因の場合とられた対応	結果																		
<p>273 問題発生時（負の要因含）にどんな対応がとられたか。</p>	<p>問題発生時の対応の善し悪しで判定します</p>	<p>記述 273：活動の進捗中に問題があった場合下記に記入ください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 991 2013 1059"> <tr> <td>問題</td> <td>とられた対応</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	問題	とられた対応	結果															
問題	とられた対応	結果																		
<p>311 上位目標及びプロジェクト目標は受入国社会開発経済政策に合致しているか。</p>	<p>受入国社会開発経済計画(案)(??年?月) その他関連法令との関連を5段階外部評価で検討する</p>	<p>記述 311：関連する社会開発経済計画(案)、その他法令名を記入ください</p> <div data-bbox="1128 1086 2013 1139" style="border: 1px solid black; height: 33px;"></div> <p>プロジェクト目標は各政策と合致するかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください</p> <table border="1" data-bbox="1128 1198 2013 1318"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>開発計画との関連</td> <td>合致している</td> <td>まあ合致映している</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り合致していない</td> <td>合致していない</td> </tr> <tr> <td>関係法令との関連</td> <td>合致している</td> <td>まあ合致映している</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り合致していない</td> <td>合致していない</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	開発計画との関連	合致している	まあ合致映している	どちらともいえない	余り合致していない	合致していない	関係法令との関連	合致している	まあ合致映している	どちらともいえない	余り合致していない	合致していない
	5	4	3	2	1															
開発計画との関連	合致している	まあ合致映している	どちらともいえない	余り合致していない	合致していない															
関係法令との関連	合致している	まあ合致映している	どちらともいえない	余り合致していない	合致していない															

<p>411 プロジェクト目標を達成するため成果 1~3 は適切か 成果 1:【道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(道路橋梁治水局 DRBFC 職員対象)】 成果 2:【MOI の施工に係るケーススタディの実施を通じ、小規模工事について質の高い工事ができるようになる (DRBFC 及び IGE 職員対象)】 成果 3:【IGE の保有機械が適切に維持管理されるようになる (資機材管理庁 IGE 職員対象)】</p>	<p>5 段階自己評価と外部評価から各成果の P 目標との関係の深さを判定します</p>	<p>各成果はプロジェクト目標を達成するのに適切かについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果は適切かどうか</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適切な道路の維持管理</td> <td>適切</td> <td>まあ適切といえる</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少不適切</td> <td>不適切</td> </tr> <tr> <td>質の高い工事の実施能力</td> <td>適切</td> <td>まあ適切といえる</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少不適切</td> <td>不適切</td> </tr> <tr> <td>適切な機材維持管理能力</td> <td>適切</td> <td>まあ適切といえる</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少不適切</td> <td>不適切</td> </tr> </tbody> </table>	成果は適切かどうか	5	4	3	2	1	適切な道路の維持管理	適切	まあ適切といえる	なんともいえない	多少不適切	不適切	質の高い工事の実施能力	適切	まあ適切といえる	なんともいえない	多少不適切	不適切	適切な機材維持管理能力	適切	まあ適切といえる	なんともいえない	多少不適切	不適切												
成果は適切かどうか	5	4	3	2	1																																	
適切な道路の維持管理	適切	まあ適切といえる	なんともいえない	多少不適切	不適切																																	
質の高い工事の実施能力	適切	まあ適切といえる	なんともいえない	多少不適切	不適切																																	
適切な機材維持管理能力	適切	まあ適切といえる	なんともいえない	多少不適切	不適切																																	
<p>421 プロジェクト目標を達成するための外部条件は現時点においても正しいか 外部条件 1.技術指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける (活動途中で離職しない)。 3.IGEの現在の役割・機能が維持される。(政治的な判断等により、IGEの大幅な組織変更もしくは解体等IGEの組織運営に係る方針が大きく変更されない。) 4.IGE所有機材の借方が借用機材を使用後に契約どおりにIGEに返却する。 5.IGE 所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用する。 2.ケーススタディ道路エリアを活動途中で破壊するような予測不可能な自然災害が発生しない。</p>	<p>5 段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>外部条件の現在における妥当性について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>外部条件の妥当性</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>離職者はほとんどない</td> <td>離職者は少ない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>離職者があり問題である</td> <td>離職者が多く問題となっている</td> </tr> <tr> <td>IGE の機能組織変更</td> <td>ない</td> <td>まあないといえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>将来あると聞いている</td> <td>変更があった</td> </tr> <tr> <td>IGE 機材の返却時の問題</td> <td>ない</td> <td>少ない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少ある</td> <td>多い</td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>管理している</td> <td>まあ良い方といえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り良くない</td> <td>管理状況は悪い</td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>ほとんどない</td> <td>少ない</td> <td>例年と同じといえる</td> <td>例年に比べ少し多い</td> <td>多い</td> </tr> </tbody> </table>	外部条件の妥当性	5	4	3	2	1	職員の継続的な勤務	離職者はほとんどない	離職者は少ない	どちらともいえない	離職者があり問題である	離職者が多く問題となっている	IGE の機能組織変更	ない	まあないといえる	どちらともいえない	将来あると聞いている	変更があった	IGE 機材の返却時の問題	ない	少ない	どちらともいえない	多少ある	多い	機材借用者の使用方法	管理している	まあ良い方といえる	どちらともいえない	余り良くない	管理状況は悪い	大きな自然災害の発生	ほとんどない	少ない	例年と同じといえる	例年に比べ少し多い	多い
外部条件の妥当性	5	4	3	2	1																																	
職員の継続的な勤務	離職者はほとんどない	離職者は少ない	どちらともいえない	離職者があり問題である	離職者が多く問題となっている																																	
IGE の機能組織変更	ない	まあないといえる	どちらともいえない	将来あると聞いている	変更があった																																	
IGE 機材の返却時の問題	ない	少ない	どちらともいえない	多少ある	多い																																	
機材借用者の使用方法	管理している	まあ良い方といえる	どちらともいえない	余り良くない	管理状況は悪い																																	
大きな自然災害の発生	ほとんどない	少ない	例年と同じといえる	例年に比べ少し多い	多い																																	
<p>422 外部条件によるプロジェクト目標達成への影響はあるか</p>	<p>5 段階自己評価と外部評価の双方から影響の有無を判定します</p>	<p>外部条件による影響の有無について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>外部条件による影響</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>影響はない</td> <td>ほとんど影響はない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少影響がある</td> <td>影響は多々ある</td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>影響はない</td> <td>ほとんど影響はない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少影響がある</td> <td>影響は多々ある</td> </tr> <tr> <td>IGE の機能組織変更</td> <td>影響はない</td> <td>ほとんど影響はない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少影響がある</td> <td>影響は多々ある</td> </tr> <tr> <td>IGE 機材の返却時の問題</td> <td>影響はない</td> <td>ほとんど影響はない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少影響がある</td> <td>影響は多々ある</td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>影響はない</td> <td>ほとんど影響はない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少影響がある</td> <td>影響は多々ある</td> </tr> </tbody> </table>	外部条件による影響	5	4	3	2	1	職員の継続的な勤務	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある	大きな自然災害の発生	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある	IGE の機能組織変更	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある	IGE 機材の返却時の問題	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある	機材借用者の使用方法	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある
外部条件による影響	5	4	3	2	1																																	
職員の継続的な勤務	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある																																	
大きな自然災害の発生	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある																																	
IGE の機能組織変更	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある																																	
IGE 機材の返却時の問題	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある																																	
機材借用者の使用方法	影響はない	ほとんど影響はない	どちらともいえない	多少影響がある	影響は多々ある																																	

<p>511 投入の量・質は十分であったか。 また「タイミング」はよかったか</p>	<p>当初計画と比較し活用されなかった投入の有無を調査し、その結果に基づき質、量、タイミングについてヒアリングします</p>	<p>投入された量・質は十分であったか否かについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1126 225 2009 448"> <thead> <tr> <th>量・質は十分かどうか</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本人専門家</td> <td>十分である</td> <td>まあ十分である</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不十分</td> </tr> <tr> <td>供与資機材</td> <td>十分である</td> <td>まあ十分である</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不十分</td> </tr> <tr> <td>本邦研修</td> <td>十分である</td> <td>まあ十分である</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不十分</td> </tr> <tr> <td>在外事業強化費</td> <td>十分である</td> <td>まあ十分である</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不十分</td> </tr> </tbody> </table> <p>投入のタイミングはよかったか否かについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1126 523 2009 740"> <thead> <tr> <th>タイミングの適否</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本人専門家</td> <td>適切であった</td> <td>まあ適切</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不適切</td> </tr> <tr> <td>供与資機材</td> <td>適切であった</td> <td>まあ適切</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不適切</td> </tr> <tr> <td>本邦研修</td> <td>適切であった</td> <td>まあ適切</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不適切</td> </tr> <tr> <td>在外事業強化費</td> <td>適切であった</td> <td>まあ適切</td> <td>なんともいえない</td> <td>多少問題がある</td> <td>不適切</td> </tr> </tbody> </table>	量・質は十分かどうか	5	4	3	2	1	日本人専門家	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分	供与資機材	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分	本邦研修	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分	在外事業強化費	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分	タイミングの適否	5	4	3	2	1	日本人専門家	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切	供与資機材	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切	本邦研修	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切	在外事業強化費	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切
量・質は十分かどうか	5	4	3	2	1																																																									
日本人専門家	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分																																																									
供与資機材	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分																																																									
本邦研修	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分																																																									
在外事業強化費	十分である	まあ十分である	なんともいえない	多少問題がある	不十分																																																									
タイミングの適否	5	4	3	2	1																																																									
日本人専門家	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切																																																									
供与資機材	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切																																																									
本邦研修	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切																																																									
在外事業強化費	適切であった	まあ適切	なんともいえない	多少問題がある	不適切																																																									
<p>521 投入に見合ったアウトプットやプロジェクト目標の達成が見込めるか</p>	<p>5段階自己評価から判定します</p>	<p>各投入に見合った、成果およびプロジェクト目標の達成が見込めるかどうかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1126 802 2009 1021"> <thead> <tr> <th>各投入からの期待度</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本人専門家</td> <td>見合ったものが期待できる</td> <td>まあ期待できる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り期待できない</td> <td>期待できない</td> </tr> <tr> <td>供与資機材</td> <td>見合ったものが期待できる</td> <td>まあ期待できる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り期待できない</td> <td>期待できない</td> </tr> <tr> <td>本邦研修</td> <td>見合ったものが期待できる</td> <td>まあ期待できる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り期待できない</td> <td>期待できない</td> </tr> <tr> <td>在外事業強化費</td> <td>見合ったものが期待できる</td> <td>まあ期待できる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り期待できない</td> <td>期待できない</td> </tr> </tbody> </table>	各投入からの期待度	5	4	3	2	1	日本人専門家	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない	供与資機材	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない	本邦研修	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない	在外事業強化費	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない																														
各投入からの期待度	5	4	3	2	1																																																									
日本人専門家	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない																																																									
供与資機材	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない																																																									
本邦研修	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない																																																									
在外事業強化費	見合ったものが期待できる	まあ期待できる	どちらともいえない	余り期待できない	期待できない																																																									
<p>531 プロジェクト効果を高めるために他ドナー・スキムとの援助協調・協力はあったか。</p>	<p>5段階自己評価から他ドナー・スキムとの援助協調・協力の有無で判定します</p>	<p>記述 531：プロジェクト効果を高めるために他ドナー・スキムとの援助協調・協力について記述ください</p> <table border="1" data-bbox="1126 1082 2009 1161"> <thead> <tr> <th>協力機関名・</th> <th>スキム名</th> <th>協調・協力の内容</th> <th>方法</th> <th>コミュニケーション頻度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1126 1214 2009 1278"> <thead> <tr> <th></th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>他ドナー・スキムとの援助協調・協力</td> <td>良い</td> <td>まあ良いといえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>改善の必要がある</td> <td>悪い</td> </tr> </tbody> </table>	協力機関名・	スキム名	協調・協力の内容	方法	コミュニケーション頻度							5	4	3	2	1	他ドナー・スキムとの援助協調・協力	良い	まあ良いといえる	どちらともいえない	改善の必要がある	悪い																																						
協力機関名・	スキム名	協調・協力の内容	方法	コミュニケーション頻度																																																										
	5	4	3	2	1																																																									
他ドナー・スキムとの援助協調・協力	良い	まあ良いといえる	どちらともいえない	改善の必要がある	悪い																																																									

<p>541          成果達成のための外部条件は現時点においても正しいか          1.技術指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける（活動途中で離職しない）。          3.IGEの現在の役割・機能が維持される。（政治的な判断等により、IGEの大幅な組織改変もしくは解体等IGEの組織運営に係る方針が大きく変更されない。）          4.IGE所有機材の借方が借用機材を使用後に契約どおりにIGEに返却する。          5.IGE 所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用する。（不適切な活用による修復不可能な破損、破壊などが煩雑におこらない）          2.ケーススタディ道路エリアを活動途中で破壊するような予測不可能な自然災害が発生しない。          6. 活動の進捗を妨げるような、社会不安・治安の悪化が起こらない</p>	<p>5段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>成果を達成するための外部条件は現状からみて妥当かどうかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>外部条件の現況</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>離職者はほとんどない</td> <td>離職者は少ない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>離職者があり問題である</td> <td>離職者が多く問題となっている</td> </tr> <tr> <td>IGE の機能組織変更</td> <td>ない</td> <td>まあないと聞いている</td> <td>どちらともいえない</td> <td>将来あると聞いている</td> <td>変更があった</td> </tr> <tr> <td>IGE 機材の返却時の問題</td> <td>ない</td> <td>少ない</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少ある</td> <td>多い</td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>管理している</td> <td>まあ良い方といえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>余り良くない</td> <td>管理状況は悪い</td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>ほとんどない</td> <td>少ない</td> <td>例年と同じといえる</td> <td>例年に比べ少し多い</td> <td>多い</td> </tr> <tr> <td>社会不安・治安の悪化</td> <td>ない</td> <td>少ない</td> <td>以前と同様</td> <td>多少ある</td> <td>多い</td> </tr> </tbody> </table>	外部条件の現況	5	4	3	2	1	職員の継続的な勤務	離職者はほとんどない	離職者は少ない	どちらともいえない	離職者があり問題である	離職者が多く問題となっている	IGE の機能組織変更	ない	まあないと聞いている	どちらともいえない	将来あると聞いている	変更があった	IGE 機材の返却時の問題	ない	少ない	どちらともいえない	多少ある	多い	機材借用者の使用方法	管理している	まあ良い方といえる	どちらともいえない	余り良くない	管理状況は悪い	大きな自然災害の発生	ほとんどない	少ない	例年と同じといえる	例年に比べ少し多い	多い	社会不安・治安の悪化	ない	少ない	以前と同様	多少ある	多い
外部条件の現況	5	4	3	2	1																																							
職員の継続的な勤務	離職者はほとんどない	離職者は少ない	どちらともいえない	離職者があり問題である	離職者が多く問題となっている																																							
IGE の機能組織変更	ない	まあないと聞いている	どちらともいえない	将来あると聞いている	変更があった																																							
IGE 機材の返却時の問題	ない	少ない	どちらともいえない	多少ある	多い																																							
機材借用者の使用方法	管理している	まあ良い方といえる	どちらともいえない	余り良くない	管理状況は悪い																																							
大きな自然災害の発生	ほとんどない	少ない	例年と同じといえる	例年に比べ少し多い	多い																																							
社会不安・治安の悪化	ない	少ない	以前と同様	多少ある	多い																																							
<p>542          外部条件による影響はないか。</p>	<p>5段階自己評価から判定します</p>	<p>外部条件による影響の有無について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>外部条件による影響の有無</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>ない</td> <td>1つ2つはある</td> <td>数個以内</td> <td>5個程度</td> <td>多々ある</td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>IGE の機能組織変更</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>IGE 機材の返却時の問題</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> <tr> <td>社会不安・治安の悪化</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> <td>同上</td> </tr> </tbody> </table>	外部条件による影響の有無	5	4	3	2	1	職員の継続的な勤務	ない	1つ2つはある	数個以内	5個程度	多々ある	大きな自然災害の発生	同上	同上	同上	同上	同上	IGE の機能組織変更	同上	同上	同上	同上	同上	IGE 機材の返却時の問題	同上	同上	同上	同上	同上	機材借用者の使用方法	同上	同上	同上	同上	同上	社会不安・治安の悪化	同上	同上	同上	同上	同上
外部条件による影響の有無	5	4	3	2	1																																							
職員の継続的な勤務	ない	1つ2つはある	数個以内	5個程度	多々ある																																							
大きな自然災害の発生	同上	同上	同上	同上	同上																																							
IGE の機能組織変更	同上	同上	同上	同上	同上																																							
IGE 機材の返却時の問題	同上	同上	同上	同上	同上																																							
機材借用者の使用方法	同上	同上	同上	同上	同上																																							
社会不安・治安の悪化	同上	同上	同上	同上	同上																																							
<p>551          成果の達成状況に対する貢献要因はあるか。</p>	<p>5段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果達成に対する</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貢献要因の有無</td> <td>多々ある</td> <td>5個程度</td> <td>数個以内</td> <td>1つ2つはある</td> <td>ない</td> </tr> </tbody> </table>	成果達成に対する	5	4	3	2	1	貢献要因の有無	多々ある	5個程度	数個以内	1つ2つはある	ない																														
成果達成に対する	5	4	3	2	1																																							
貢献要因の有無	多々ある	5個程度	数個以内	1つ2つはある	ない																																							
<p>552          成果の達成状況に対する阻害要因はあるか。</p>	<p>5段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>成果の達成状況に対する阻害要因について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果達成に対する</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阻害要因の有無</td> <td>ない</td> <td>1つ2つはある</td> <td>数個以内</td> <td>5個程度</td> <td>多々ある</td> </tr> </tbody> </table>	成果達成に対する	5	4	3	2	1	阻害要因の有無	ない	1つ2つはある	数個以内	5個程度	多々ある																														
成果達成に対する	5	4	3	2	1																																							
阻害要因の有無	ない	1つ2つはある	数個以内	5個程度	多々ある																																							
<p>611          上位目標【東ティモール国の道路状況が改善される】の達成見込み</p>	<p>5段階外部評価から判定します          指標：          1.道路の劣化箇所数が減少する          2.道路維持管理関係の全体予算が増加する          3 単位距離あたりの維持管理費用が減少する</p>	<p>上位目標の達成度合いについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路の劣化箇所数</td> <td>減少した</td> <td>少し減少した</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少増加した</td> <td>増加した</td> </tr> <tr> <td>道路維持管理関係の全体予算</td> <td>増加しつつある</td> <td>少し増加しつつある</td> <td>どちらともいえない</td> <td>あまり増加していない</td> <td>増加していない</td> </tr> <tr> <td>単位距離あたりの維持管理費用</td> <td>減少した</td> <td>少し減少した</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少増加した</td> <td>増加した</td> </tr> </tbody> </table>	指標	5	4	3	2	1	道路の劣化箇所数	減少した	少し減少した	どちらともいえない	多少増加した	増加した	道路維持管理関係の全体予算	増加しつつある	少し増加しつつある	どちらともいえない	あまり増加していない	増加していない	単位距離あたりの維持管理費用	減少した	少し減少した	どちらともいえない	多少増加した	増加した																		
指標	5	4	3	2	1																																							
道路の劣化箇所数	減少した	少し減少した	どちらともいえない	多少増加した	増加した																																							
道路維持管理関係の全体予算	増加しつつある	少し増加しつつある	どちらともいえない	あまり増加していない	増加していない																																							
単位距離あたりの維持管理費用	減少した	少し減少した	どちらともいえない	多少増加した	増加した																																							

<p>622 上位目標達成の阻害要因はあるか。</p>	<p>5段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>上位目標達成の阻害要因について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 197 2007 268"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>阻害要因の有無</td> <td>ない</td> <td>1つ2つは ある</td> <td>数個以内</td> <td>5個程度</td> <td>多々ある</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	阻害要因の有無	ない	1つ2つは ある	数個以内	5個程度	多々ある												
	5	4	3	2	1																					
阻害要因の有無	ない	1つ2つは ある	数個以内	5個程度	多々ある																					
<p>623 C/Pは上位目標を理解しているか。</p>	<p>5段階自己評価から判定します</p>	<p>上位目標の理解度について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 301 2007 371"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>上位目標の理解度</td> <td>高い</td> <td>まあ高い といえる</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>多少問題 がある</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	上位目標の理解度	高い	まあ高い といえる	どちらとも いえない	多少問題 がある	低い												
	5	4	3	2	1																					
上位目標の理解度	高い	まあ高い といえる	どちらとも いえない	多少問題 がある	低い																					
<p>631 プロジェクト目標と上位目標は乖離していないか。</p>	<p>プロジェクト目標と上位目標の因果関係およびプロジェクトの論理性から考え、5段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>プロジェクト目標と上位目標の間の乖離について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 437 2007 507"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>目標間の乖離</td> <td>乖離は ない</td> <td>まあ乖離は ないといえる</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>やや 乖離している</td> <td>乖離している</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	目標間の乖離	乖離は ない	まあ乖離は ないといえる	どちらとも いえない	やや 乖離している	乖離している												
	5	4	3	2	1																					
目標間の乖離	乖離は ない	まあ乖離は ないといえる	どちらとも いえない	やや 乖離している	乖離している																					
<p>632 上位目標達成のための外部条件は現時点でも正しいか。 外部条件： 1.道路施工・維持管理に係る政府財源が安定して確保される 2.車両交通量が予測を超える程に激増しない</p>	<p>5段階自己評価と外部評価から判定します</p>	<p>上位目標の外部条件の影響や将来満たされる可能性を考え上位目標達成のための外部条件は現時点でも妥当かどうか下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 568 2007 681"> <tr> <td>外部条件</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>政府財源の安定確保</td> <td>確保されている</td> <td>確保される 予定である</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>疑問がある</td> <td>確保されていない</td> </tr> <tr> <td>車両交通量の大幅増加</td> <td>予想通り である</td> <td>予想とは 多少異なる</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>予想を超え 増加している</td> <td>激増している</td> </tr> </table>	外部条件	5	4	3	2	1	政府財源の安定確保	確保されている	確保される 予定である	どちらとも いえない	疑問がある	確保されていない	車両交通量の大幅増加	予想通り である	予想とは 多少異なる	どちらとも いえない	予想を超え 増加している	激増している						
外部条件	5	4	3	2	1																					
政府財源の安定確保	確保されている	確保される 予定である	どちらとも いえない	疑問がある	確保されていない																					
車両交通量の大幅増加	予想通り である	予想とは 多少異なる	どちらとも いえない	予想を超え 増加している	激増している																					
<p>641 上位目標以外の効果・影響が想定されるか？</p>	<p>プロジェクト関係者の予期していなかった正・負の影響、住民への影響（生計等）について5段階自己評価から判定します</p>	<p>プラス・マイナス両方の波及効果について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1" data-bbox="1128 719 2007 836"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>プラス効果</td> <td>多々ある</td> <td>多少ある</td> <td>数個以内</td> <td>1つ2つ はある</td> <td>ない</td> </tr> <tr> <td>マイナス効果</td> <td>ない</td> <td>1つ2つ はある</td> <td>数個以内</td> <td>多少ある</td> <td>多々ある</td> </tr> </table> <p>記述 641：特にマイナスの影響があった場合、軽減するためにとった対策について記述ください</p> <table border="1" data-bbox="1128 919 2007 999"> <tr> <td>軽減するためにとった対策</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	プラス効果	多々ある	多少ある	数個以内	1つ2つ はある	ない	マイナス効果	ない	1つ2つ はある	数個以内	多少ある	多々ある	軽減するためにとった対策	結果				
	5	4	3	2	1																					
プラス効果	多々ある	多少ある	数個以内	1つ2つ はある	ない																					
マイナス効果	ない	1つ2つ はある	数個以内	多少ある	多々ある																					
軽減するためにとった対策	結果																									

第2部 日本人専門家 および カウンターパート全員が記入いただくもの

評価設問	判断基準・方法	具体的質問					
142 プロジェクト目標の達成の見込みはあるか。	プロジェクト関係者の感触（と過去のプロジェクト達成度推移グラフ）から判断する	プロジェクト目標の達成見込みについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		目標の達成見込み	高い	まあ高いといえる	どちらともいえない	やや低い	低い
211 適切なC/Pが配置されているか	5段階自己評価により現在の配置状況を当初計画と比較し判定します	C/Pの配置について当初計画に比較し実際の配置が十分改善されたものかどうかを下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		C/Pの配置の適切性	適切といえる	まあ適切といえる	どちらともいえない	どちらかといえば適切でない	適切な配置ではない
212 C/Pのプロジェクトへの参加度合は高いか。	5段階自己評価から判定します	C/Pの活動・参加状況について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		C/Pの活動・参加状況	良い	まあ良い	どちらともいえない	まあ悪い	悪い
213 関係者のプロジェクト目標に対する認識は高いか。	5段階自己評価により共通認識の有無を判断する	関係者のプロジェクト目標に対する認識の程度についてプロジェクト目標、上位目標別に下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		プロジェクト目標に対する認識	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い
		上位目標に対する認識	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い
214 各々の役割は明確であったか、	5段階自己評価から判定します	各々の役割の明確度について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		C/Pの役割の明確度	明確である	まあ明確である	どちらともいえない	余り明確でない	明確ではない
215 また役割は各々に理解されていたか。	5段階自己評価から理解度を判定します	役割の理解度について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		各々の役割の理解度	高い	まあ高いといえる	どちらともいえない	やや低い	低い
241 プロジェクト内のコミュニケーションに問題はないか。情報は共有されたか。	5段階自己評価によりプロジェクトマネジメントに係る情報伝達の実態を判定します	プロジェクトマネジメントに係る情報伝達の実態を下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		プロジェクトマネジメントに係る情報伝達の実態	共有されている	多少は共有されている	どちらともいえない	あまり共有されていない	共有されていない
242 JICA本部・在外事務所、の軌道修正への対応は迅速であったか	5段階自己評価により迅速性を判断する	軌道修正があった場合、その対応の迅速性について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。					
		5	4	3	2	1	
		軌道修正への対応の迅速性	迅速である	まあ迅速である	どちらともいえない	どちらかといえば迅速性は低い	迅速性はない

評価設問	判断基準・方法	具体的質問												
353 過去のプロジェクト（あれば）の経験やリソースは有効に使われたか。	5段階自己評価から本プロジェクトにおける過去の類似プロジェクトの経験やリソースの活用実績の有無を判定します	過去のプロジェクト（あれば）の経験やリソースは有効に使われたかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>過去のプロジェクトの経験やリソース</td> <td>活用されている</td> <td>まあ活用されているといえる</td> <td>どちらともいえない</td> <td>あまり活用されていない</td> <td>活用されていない</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	過去のプロジェクトの経験やリソース	活用されている	まあ活用されているといえる	どちらともいえない	あまり活用されていない	活用されていない
	5	4	3	2	1									
過去のプロジェクトの経験やリソース	活用されている	まあ活用されているといえる	どちらともいえない	あまり活用されていない	活用されていない									
431 プロジェクト目標達成の遅れを招いている阻害要因はあるか	阻害要因の有無・量を5段階自己評価から判定します	遅れを招いている阻害要因の有無・量について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>阻害要因の有無・量</td> <td>ない</td> <td>ほとんどないと感じている</td> <td>どちらともいえない</td> <td>多少はある</td> <td>ある</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	阻害要因の有無・量	ない	ほとんどないと感じている	どちらともいえない	多少はある	ある
	5	4	3	2	1									
阻害要因の有無・量	ない	ほとんどないと感じている	どちらともいえない	多少はある	ある									
441 プロジェクト環境（ドナーの援助傾向も含む）に変化はあったか。	5段階自己評価から本プロジェクトの関係する他ドナーの援助動向の変化の有無を政策・経済・社会的変化との関連で判定します	下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>プロジェクト環境の変化状況</td> <td>好転した</td> <td>多少好転した</td> <td>変化なし</td> <td>多少悪化した</td> <td>悪化した</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	プロジェクト環境の変化状況	好転した	多少好転した	変化なし	多少悪化した	悪化した
	5	4	3	2	1									
プロジェクト環境の変化状況	好転した	多少好転した	変化なし	多少悪化した	悪化した									
711 日本の支援終了後に、受入国政府がプロジェクトの実施を支援するか。	現在の方針・計画及び決定や今後の関連規制、法制度の整備予定から考え受入国政府の持続的支援について5段階自己評価から判定します	現在の方針・計画及び決定や今後の関連規制、法制度の整備予定から考え、日本の支援終了後に受入国政府がプロジェクトの実施を支援する可能性について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>政府の持続的支援の可能性</td> <td>高い</td> <td>やや高い</td> <td>どちらともいえない</td> <td>やや低い</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	政府の持続的支援の可能性	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い
	5	4	3	2	1									
政府の持続的支援の可能性	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い									
721 プロジェクト活動を継続するために、今後受入国政府より予算が確保できるか。	5段階自己評価から判定します	将来プロジェクトの成果を持続させていくための予算確保の可能性について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>予算確保の可能性</td> <td>高い</td> <td>やや高い</td> <td>どちらともいえない</td> <td>やや低い</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	予算確保の可能性	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い
	5	4	3	2	1									
予算確保の可能性	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い									
731 プロジェクト実施体制は、プロジェクト終了後も活動を実施・普及する組織的能力があるか。	5段階自己評価から判定します	プロジェクト活動を継続的に実施するための人員配置、プロジェクト実施機関の組織能力、実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップの有無、各プロジェクト関係者の機能・役割の明確化、各プロジェクト関係者の役割の理解を考え、プロジェクト終了後も活動を実施・普及する組織的能力があるかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>組織的能力</td> <td>高い</td> <td>やや高い</td> <td>どちらともいえない</td> <td>やや低い</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	組織的能力	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い
	5	4	3	2	1									
組織的能力	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い									
741 C/Pは、効果的に活動を実施する能力を携えているか。モチベーションを有しているか。	5段階自己評価から判定します	C/Pのオーナーシップ・インシアティブ、C/Pの運営管理能力の有無を考え、C/Pは、効果的に活動を実施する能力を携えているか。モチベーションを有しているかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>C/Pの活動実施能力</td> <td>高い</td> <td>やや高い</td> <td>どちらともいえない</td> <td>やや低い</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	C/Pの活動実施能力	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い
	5	4	3	2	1									
C/Pの活動実施能力	高い	やや高い	どちらともいえない	やや低い	低い									

評価設問	判断基準・方法	具体的質問																								
742 トレーニングを受けた C/P がプロジェクトに残る可能性があるか。	5段階自己評価から判定します	<p>平均的な人事異動の期間、人事異動の際の引き継ぎシステムの有無を考え、トレーニングを受けた C/P がプロジェクトに残る可能性があるかについて下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>C/P の継続勤務の可能性</td> <td>高い</td> <td>やや高い</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>やや低い</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	C/P の継続勤務の可能性	高い	やや高い	どちらとも いえない	やや低い	低い												
	5	4	3	2	1																					
C/P の継続勤務の可能性	高い	やや高い	どちらとも いえない	やや低い	低い																					
743 プロジェクトで用いられる技術移転の手法は受容されつつあるか？ C/P に技術の定着はしているか。	5段階自己評価と外部評価から判定します	<p>本プロジェクトのもとで育成された C/P が独自に研修を行い、他の人に教えられるのか、技術移転されたものを普及する仕組みがあるか、ある場合、その仕組みを維持できる可能性があるかというような観点から見て、移転した技術の定着度について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>移転した技術の定着度</td> <td>定着している</td> <td>まあ定着しているといえる</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>まあないと感じている</td> <td>定着していない</td> </tr> </table> <p>環境への配慮不足により持続的効果を妨げる可能性について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>持続的効果を妨げる可能性</td> <td>低い</td> <td>やや低い</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>少し高い</td> <td>高い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	移転した技術の定着度	定着している	まあ定着しているといえる	どちらとも いえない	まあないと感じている	定着していない		5	4	3	2	1	持続的効果を妨げる可能性	低い	やや低い	どちらとも いえない	少し高い	高い
	5	4	3	2	1																					
移転した技術の定着度	定着している	まあ定着しているといえる	どちらとも いえない	まあないと感じている	定着していない																					
	5	4	3	2	1																					
持続的効果を妨げる可能性	低い	やや低い	どちらとも いえない	少し高い	高い																					
751 技術移転方法に問題はなかったか。	5段階自己評価と外部評価から判定します	<p>JET から C/P への技術移転内容・状況、C/P の理解度、改善すべき事項の有無というような観点から見て、技術移転上の問題について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>技術移転上の問題</td> <td>ない</td> <td>ほとんどない</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>多少ある</td> <td>ある</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	技術移転上の問題	ない	ほとんどない	どちらとも いえない	多少ある	ある												
	5	4	3	2	1																					
技術移転上の問題	ない	ほとんどない	どちらとも いえない	多少ある	ある																					
761 供与された機材は適切に維持管理できるか。	5段階自己評価と外部評価から判定します	<p>質問状・ヒアリングにより機材の維持管理/修理・活用状況や機材の維持管理のための予算というような観点から見て、機材の適切な維持管理について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>機材の適切な維持管理の可能性</td> <td>高い</td> <td>まあ高いといえる</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>やや低い</td> <td>低い</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	機材の適切な維持管理の可能性	高い	まあ高いといえる	どちらとも いえない	やや低い	低い												
	5	4	3	2	1																					
機材の適切な維持管理の可能性	高い	まあ高いといえる	どちらとも いえない	やや低い	低い																					
771 事前評価時に指摘された問題・課題・リスク・外部条件等の変化や今後、留意していかなければならない事項等を確認する	5段階自己評価と外部評価から判定します	<p>投入、活動、アウトプットの内容、指標に関し軌道修正の必要性について下記の5段階評価の該当部分に丸をつけてください。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>軌道修正の必要性</td> <td>ない</td> <td>ほとんど無い</td> <td>どちらとも いえない</td> <td>多少ある</td> <td>ある</td> </tr> </table>		5	4	3	2	1	軌道修正の必要性	ない	ほとんど無い	どちらとも いえない	多少ある	ある												
	5	4	3	2	1																					
軌道修正の必要性	ない	ほとんど無い	どちらとも いえない	多少ある	ある																					

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

大項目	小項目設問	判断基準・方法	調査結果																																										
1 実績	11 投入実績	111 日本側からの投入は計画通りであったか。																																											
		人員 以下分野の JICA 専門家 (JET) : 道路維持管理/総括(1)、 道路施工管理(1)、 建設機械維持管理(1)、 その他必要な分野	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当職名</th> <th>当初の計画 MM</th> <th>変更計画投入 MM</th> <th>現時点迄の投入 MM</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路維持管理/総括(1)</td> <td>27.10</td> <td>27.20</td> <td>26.70</td> </tr> <tr> <td>道路施工管理(1)</td> <td>25.10</td> <td>17.80</td> <td>17.30</td> </tr> <tr> <td>建設機械維持管理(1)</td> <td>25.10</td> <td>22.00</td> <td>22.00</td> </tr> <tr> <td>他</td> <td>11.50</td> <td>24.07</td> <td>24.07</td> </tr> <tr> <td></td> <td>88.80</td> <td>91.07</td> <td>90.07</td> </tr> </tbody> </table>	担当職名	当初の計画 MM	変更計画投入 MM	現時点迄の投入 MM	道路維持管理/総括(1)	27.10	27.20	26.70	道路施工管理(1)	25.10	17.80	17.30	建設機械維持管理(1)	25.10	22.00	22.00	他	11.50	24.07	24.07		88.80	91.07	90.07																	
		担当職名	当初の計画 MM	変更計画投入 MM	現時点迄の投入 MM																																								
		道路維持管理/総括(1)	27.10	27.20	26.70																																								
		道路施工管理(1)	25.10	17.80	17.30																																								
	建設機械維持管理(1)	25.10	22.00	22.00																																									
	他	11.50	24.07	24.07																																									
		88.80	91.07	90.07																																									
	研修員受け入れ : 必要に応じた分野・人数	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名・目的</th> <th>年月</th> <th>期間</th> <th>研修の回数</th> <th>実際参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本国内研修</td> <td>別紙</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第三国研修</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	研修名・目的	年月	期間	研修の回数	実際参加人数	日本国内研修	別紙				第三国研修																															
	研修名・目的	年月	期間	研修の回数	実際参加人数																																								
日本国内研修	別紙																																												
第三国研修																																													
供与機材 : DRBFC-ディリ地方事務所への道路維持管理・ 補修用機材 (移動型簡易機材)	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機材名・目的</th> <th>仕様</th> <th>量</th> <th>納入年月</th> <th>コスト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="5">供与機材については 2011 年に案が作成されたが、その実施は 2013 年後半に延期されている</td> </tr> </tbody> </table>	機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト	供与機材については 2011 年に案が作成されたが、その実施は 2013 年後半に延期されている																																					
機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト																																									
供与機材については 2011 年に案が作成されたが、その実施は 2013 年後半に延期されている																																													
在外事業強化費 JICA 専門家活動の技術指導・研修経費	計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>経費名</th> <th>目的</th> <th>当初予定額 (千円)</th> <th>現在迄支払額</th> <th>問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1 年時</td> <td>9,606</td> <td>7,312</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>2 年時</td> <td>10,167</td> <td>8,271</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>3 年時</td> <td>12,061</td> <td>(12061)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	経費名	目的	当初予定額 (千円)	現在迄支払額	問題点		1 年時	9,606	7,312			2 年時	10,167	8,271			3 年時	12,061	(12061)																								
経費名	目的	当初予定額 (千円)	現在迄支払額	問題点																																									
	1 年時	9,606	7,312																																										
	2 年時	10,167	8,271																																										
	3 年時	12,061	(12061)																																										
112 受入国側からの投入は計画通りであったか																																													
カウンターパート配置 1-1 運営管理人材 : プロジェクトダイレクター、 プロジェクトダイレクター補佐、 プロジェクトマネージャー、 プロジェクトマネージャー補佐 1-2C/P 人材 : 道路橋梁治水局(DRBFC)職員(地方事務所職員を含む)、 資機材管理庁(IGE)職員 1-3 訓練生の配置 : 必要に応じた訓練生。	投入員数の計画実績比較	<table border="1"> <thead> <tr> <th>担当職名</th> <th>当初の計画 MM</th> <th>現時点迄の投入 MM</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクトダイレクター</td> <td>27.10</td> <td>26.70</td> <td>99%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトダイレクター補佐</td> <td>27.10</td> <td>26.70</td> <td>99%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトマネージャー</td> <td>27.10</td> <td>26.70</td> <td>99%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクトマネージャー補佐</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DRBFC 職員</td> <td></td> <td>390.00</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGE 職員</td> <td></td> <td>520.00</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>訓練生</td> <td></td> <td>465.00</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	担当職名	当初の計画 MM	現時点迄の投入 MM			プロジェクトダイレクター	27.10	26.70	99%		プロジェクトダイレクター補佐	27.10	26.70	99%		プロジェクトマネージャー	27.10	26.70	99%		プロジェクトマネージャー補佐					DRBFC 職員		390.00			IGE 職員		520.00			訓練生		465.00					
担当職名	当初の計画 MM	現時点迄の投入 MM																																											
プロジェクトダイレクター	27.10	26.70	99%																																										
プロジェクトダイレクター補佐	27.10	26.70	99%																																										
プロジェクトマネージャー	27.10	26.70	99%																																										
プロジェクトマネージャー補佐																																													
DRBFC 職員		390.00																																											
IGE 職員		520.00																																											
訓練生		465.00																																											
専門家執務室 プロジェクト事務室(DRBFC 及び IGE)、 JICA 専門家の執務室(DRBFC, IGE 内)、		<table border="1"> <thead> <tr> <th>提供された施設名</th> <th>提供された年月</th> <th>満足度</th> <th>問題点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクト事務室(DRBFC)</td> <td>05/2010</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プロジェクト事務室(IGE)</td> <td>05/2010</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>会議室</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>セミナー会場</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施設の満足度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>十分</td> <td>まあ良し</td> <td>どちらともいえない</td> <td>やや不満足</td> <td>不満足</td> </tr> </tbody> </table>	提供された施設名	提供された年月	満足度	問題点	プロジェクト事務室(DRBFC)	05/2010	4		プロジェクト事務室(IGE)	05/2010	4		会議室				セミナー会場				施設の満足度					5	4	3	2	1	満足度	十分	まあ良し	どちらともいえない	やや不満足	不満足							
提供された施設名	提供された年月	満足度	問題点																																										
プロジェクト事務室(DRBFC)	05/2010	4																																											
プロジェクト事務室(IGE)	05/2010	4																																											
会議室																																													
セミナー会場																																													
施設の満足度																																													
	5	4	3	2	1																																								
満足度	十分	まあ良し	どちらともいえない	やや不満足	不満足																																								

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

	<p>機材設備・資機材 DRBFC 及び IGE 所有の機材、 その他必要に応じた資機材。</p>	計画実績比較	<table border="1"> <tr> <th>機材名・目的</th> <th>仕様</th> <th>量</th> <th>納入年月</th> <th>コスト</th> </tr> <tr> <td>Laptop computer</td> <td>ソフト込み</td> <td>2</td> <td>09/2010</td> <td>\$2,000</td> </tr> <tr> <td>Printer: CDRW</td> <td>オールインワン</td> <td>1</td> <td>09/2010</td> <td>\$380</td> </tr> <tr> <td>Mobile Printer:</td> <td></td> <td>2</td> <td>09/2010</td> <td>\$900</td> </tr> <tr> <td>Scanner: Office</td> <td>フラットベッドカラー</td> <td>1</td> <td>09/2010</td> <td>\$165</td> </tr> </table>	機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト	Laptop computer	ソフト込み	2	09/2010	\$2,000	Printer: CDRW	オールインワン	1	09/2010	\$380	Mobile Printer:		2	09/2010	\$900	Scanner: Office	フラットベッドカラー	1	09/2010	\$165															
	機材名・目的	仕様	量	納入年月	コスト																																						
Laptop computer	ソフト込み	2	09/2010	\$2,000																																							
Printer: CDRW	オールインワン	1	09/2010	\$380																																							
Mobile Printer:		2	09/2010	\$900																																							
Scanner: Office	フラットベッドカラー	1	09/2010	\$165																																							
	<p>プロジェクト実施に必要な経常経費 機材維持管理経費、部品調達経費 C/P と訓練生の交通費、旅費 外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)、 ケーススタディ経費、 C/P 人件費・日当</p>	計画実績比較	<table border="1"> <tr> <th>経費名</th> <th>当初予定額:千円</th> <th>現在迄支払額</th> <th>問題点(あれば)</th> </tr> <tr> <td>C/P 人件費・日当</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="6">CDRW では C/P に対する費用は見込んでいない C/S の建設費は DRBFC の予算からしゅルされている 第1期 約35万ドル 第2期 約40万ドル</td> </tr> <tr> <td>C/P と訓練生の交通費、旅費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ケーススタディ経費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機材維持管理経費</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部品調達経費</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	経費名	当初予定額:千円	現在迄支払額	問題点(あれば)	C/P 人件費・日当			CDRW では C/P に対する費用は見込んでいない C/S の建設費は DRBFC の予算からしゅルされている 第1期 約35万ドル 第2期 約40万ドル	C/P と訓練生の交通費、旅費			ケーススタディ経費			外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)			機材維持管理経費			部品調達経費																			
経費名	当初予定額:千円	現在迄支払額	問題点(あれば)																																								
C/P 人件費・日当			CDRW では C/P に対する費用は見込んでいない C/S の建設費は DRBFC の予算からしゅルされている 第1期 約35万ドル 第2期 約40万ドル																																								
C/P と訓練生の交通費、旅費																																											
ケーススタディ経費																																											
外部委託調査費 (県道 km ポスト設置費含む)																																											
機材維持管理経費																																											
部品調達経費																																											
12 活動の進捗 状況	<p>活動 1-1: 前プロジェクトの成果をレビューし、「道 路維持管理計画書」を更新する 活動 1-2: 維持管理業務に係る年間作業計画を立 てる 活動 1-3: 平常時の「連絡マニュアル」を活用し、 県道(district roads)を含めた幹線道路の点検・評 価を行い、道路台帳を作成・更新する 活動 1-4: 上記点検・評価の結果に基づき道路維 持管理データベースを更新する 活動 1-5: 更新された道路維持管理データベー スに基づき維持・補修計画を作成する 活動 1-6: 災害時、緊急時において必要な緊急点 検・復旧工事を行う 活動 1-7: 適切な予算の立案・管理を行う</p>	活動報告書から達 成度を判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-1 前成果のレビュー</td> <td>project</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-1 道路維持管理計画書の更新</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-2 年間作業計画</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-3 幹線道路の点検評価</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-4 データベースの更新</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-5 維持・補修計画の作成</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-6 緊急点検・復旧工事の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1-7 予算の立案・管理</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	活動				1-1 前成果のレビュー	project	5		1-1 道路維持管理計画書の更新	project	4		1-2 年間作業計画	project	4		1-3 幹線道路の点検評価	project	4		1-4 データベースの更新	project	4		1-5 維持・補修計画の作成	project	4		1-6 緊急点検・復旧工事の実施	project	4		1-7 予算の立案・管理	project	4		平均			
	活動																																										
1-1 前成果のレビュー	project	5																																									
1-1 道路維持管理計画書の更新	project	4																																									
1-2 年間作業計画	project	4																																									
1-3 幹線道路の点検評価	project	4																																									
1-4 データベースの更新	project	4																																									
1-5 維持・補修計画の作成	project	4																																									
1-6 緊急点検・復旧工事の実施	project	4																																									
1-7 予算の立案・管理	project	4																																									
平均																																											
	<p>活動 2-1: DRBFC と IGE の密な協力の下に、ケ ーススタディ工事 (主要道路の改良・補修工事等) を特定する。 活動 2-2: DRBFC と IGE の密な協力の下に、対象 工事に係る設計・積算・予算措置を行う 活動 2-3: 施工計画を策定する。(IGE 所有機材の 調達を含む) 活動 2-4: 工事に係る要員を特定し、各人の責務 内容を明確にする 活動 2-5: 実際の工事現場において施工管理を行 う (IGE による直接施工も含む) 活動 2-6 完工検査を実施する 活動 2-7 工事に係る安全訓練を行う</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2-1 工事の特定</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-2 上記の設計・積算・予算措置</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-3 施工計画の策定</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-4 工事に係る要員の特定</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-4 各人の責務内容の明確化</td> <td>project</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-5 現場施工管理</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-6 完工検査の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-7 安全訓練の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	活動				2-1 工事の特定	project	4		2-2 上記の設計・積算・予算措置	project	4		2-3 施工計画の策定	project	4		2-4 工事に係る要員の特定	project	4		2-4 各人の責務内容の明確化	project	3		2-5 現場施工管理	project	4		2-6 完工検査の実施	project	4		2-7 安全訓練の実施	project	4		平均			
活動																																											
2-1 工事の特定	project	4																																									
2-2 上記の設計・積算・予算措置	project	4																																									
2-3 施工計画の策定	project	4																																									
2-4 工事に係る要員の特定	project	4																																									
2-4 各人の責務内容の明確化	project	3																																									
2-5 現場施工管理	project	4																																									
2-6 完工検査の実施	project	4																																									
2-7 安全訓練の実施	project	4																																									
平均																																											

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

13 成果の 達成度	活動 3-1：前プロジェクトの成果をレビューする 活動 3-2：電子化を含め機材台帳を更新する 活動 3-3 貸出後・貸出前の機材点検を行う 活動 3-4 機材台帳にもとづき機材点検を行う 活動 3-5 補充すべきスペアパーツの特定・発注・調達を行う 活動 3-6 メカニックを対象とした技術指導（点検・補習技術等）を実施し、習得度評価を行う 活動 3-7 （可能な限り）自立的な予算の立案・管理を行う		<table border="1"> <thead> <tr> <th>活動</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3-1 前成果のレビュー</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-2 機材台帳の更新</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-3 貸出前後の機材点検補修</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-4 台帳にもとづく機材点検</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-5 パーツの特定・発注・調達</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-6 技術指導の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-7 習得度評価の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-7 自立的な予算の立案・管理</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	活動				3-1 前成果のレビュー	project	4	■■■■■	3-2 機材台帳の更新	project	4	■■■■■	3-3 貸出前後の機材点検補修	project	4	■■■■■	3-4 台帳にもとづく機材点検	project	4	■■■■■	3-5 パーツの特定・発注・調達	project	4	■■■■■	3-6 技術指導の実施	project	4	■■■■■	3-7 習得度評価の実施	project	4	■■■■■	3-7 自立的な予算の立案・管理	project	4	■■■■■	平均			
	活動																																										
	3-1 前成果のレビュー	project	4	■■■■■																																							
	3-2 機材台帳の更新	project	4	■■■■■																																							
3-3 貸出前後の機材点検補修	project	4	■■■■■																																								
3-4 台帳にもとづく機材点検	project	4	■■■■■																																								
3-5 パーツの特定・発注・調達	project	4	■■■■■																																								
3-6 技術指導の実施	project	4	■■■■■																																								
3-7 習得度評価の実施	project	4	■■■■■																																								
3-7 自立的な予算の立案・管理	project	4	■■■■■																																								
平均																																											
131 成果 1：【道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようにする(道路橋梁治水局 DRBFC 職員対象)】 指標 1 1-1 道路維持管理データベースの更新状況（実績） 1-2 維持補修の実施状況（実績） 1-3 緊急時の対応状況 1-4 予算の立案・管理業務の定着度	指標 1 から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-1 DRBFC 職員によるデータベースの更新</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>1-2 維持補修の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>1-3 緊急時の対応</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>1-4 予算の立案・管理業務</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標				1-1 DRBFC 職員によるデータベースの更新	project	4	■■■■■	1-2 維持補修の実施	project	4	■■■■■	1-3 緊急時の対応	project	4	■■■■■	1-4 予算の立案・管理業務	project	4	■■■■■	平均																				
指標																																											
1-1 DRBFC 職員によるデータベースの更新	project	4	■■■■■																																								
1-2 維持補修の実施	project	4	■■■■■																																								
1-3 緊急時の対応	project	4	■■■■■																																								
1-4 予算の立案・管理業務	project	4	■■■■■																																								
平均																																											
132 成果 2：【MOI の施工に係るケーススタディの実施を通じ、小規模工事について質の高い工事ができるようにする（DRBFC 及び IGE 職員対象）】 指標 2： 2-1 施工計画の策定状況 2-2 施工管理（工程管理、品質管理、安全管理、原価管理）の実施状況 2-3 施工済み道路の品質	指標 2：から成果 2 の達成度を判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2-1 小規模工事について施工計画の策定</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>2-2 小規模工事について施工管理の実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>2-3 施工済み道路の品質</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標				2-1 小規模工事について施工計画の策定	project	4	■■■■■	2-2 小規模工事について施工管理の実施	project	4	■■■■■	2-3 施工済み道路の品質	project	4	■■■■■	平均																								
指標																																											
2-1 小規模工事について施工計画の策定	project	4	■■■■■																																								
2-2 小規模工事について施工管理の実施	project	4	■■■■■																																								
2-3 施工済み道路の品質	project	4	■■■■■																																								
平均																																											
133 成果 3：【IGE の保有機械が適切に維持管理されるようになる(資機材管理庁 IGE 職員対象)】 指標 3 3-1 機材台帳・機材管理記録簿の更新状況（実績） 3-2 機材メンテナンスの実施状況（実績） 3-3.スペアパーツの調達補充状況（実績） 3-4.所定機材メンテナンス技術を習得した職員数と技術習得度 3-5.機材維持管理に係る予算の立案・管理業務の定着度	指標 3 から成果 3 の達成度を判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3-1 IGE 軒材の台帳・記録簿の更新</td> <td>project</td> <td>5</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-2 メンテナンス実施</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-3 パーツの調達補充</td> <td>project</td> <td>5</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>3-5 予算の立案・管理</td> <td>project</td> <td>4</td> <td>■■■■■</td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>プロジェクト開始前の状況</th> <th>現時点での状況</th> <th>最終時の予測</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3-4 技術習得職員数</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>3-4 技術習得度</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標				3-1 IGE 軒材の台帳・記録簿の更新	project	5	■■■■■	3-2 メンテナンス実施	project	4	■■■■■	3-3 パーツの調達補充	project	5	■■■■■	3-5 予算の立案・管理	project	4	■■■■■	平均				項目	プロジェクト開始前の状況	現時点での状況	最終時の予測	3-4 技術習得職員数	21	21	21	3-4 技術習得度								
指標																																											
3-1 IGE 軒材の台帳・記録簿の更新	project	5	■■■■■																																								
3-2 メンテナンス実施	project	4	■■■■■																																								
3-3 パーツの調達補充	project	5	■■■■■																																								
3-5 予算の立案・管理	project	4	■■■■■																																								
平均																																											
項目	プロジェクト開始前の状況	現時点での状況	最終時の予測																																								
3-4 技術習得職員数	21	21	21																																								
3-4 技術習得度																																											

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

	54 成果の達成状況	544 投入・活動の達成状況から、成果の達成度は適切か	各成果の達成状況を%または比較グラフで判定する	記述 51：投入・活動の達成状況と成果達成状況との関連を示す比較グラフ																																
	14 プロジェクト目標の達成度達成予測	141 プロジェクト目標 【東ティモール人材(DRBFC, IGE)による道路の施工・維持管理に係る技術・マネジメント能力が向上する】 指標 1 道路台帳・維持管理データベースの活用状況 2 維持補修工事の実施状況 3 応急復旧工事の実施状況 4 道路維持管理関係予算の執行状況	指標から達成度を判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データベースの活用</td> <td>project</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>点検・評価</td> <td>project</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持補修工事</td> <td>project</td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>応急復旧工事</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理後の品質</td> <td>project</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機材の状況</td> <td>project</td> <td>4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				データベースの活用	project	5		点検・評価	project	5		維持補修工事	project	5		応急復旧工事	project	4		維持管理後の品質	project	3		機材の状況	project	4		平均			
	項目																																			
データベースの活用	project	5																																		
点検・評価	project	5																																		
維持補修工事	project	5																																		
応急復旧工事	project	4																																		
維持管理後の品質	project	3																																		
機材の状況	project	4																																		
平均																																				
	142 プロジェクト目標の達成の見込みはあるか。	過去のプロジェクト達成度推移グラフから5段階自己評価により判断する	記述 142：過去のプロジェクト達成度																																	
実施プロセス	21 プロジェクト関係者の役割の理解	211 適切なカウンターパートが配置されているか	5段階自己評価により現在の配置状況を当初計画と比較し判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C/Pの配置の適切性</td> <td>JE</td> <td>4.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P D</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P I</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				C/Pの配置の適切性	JE	4.7			C/P D	5.0			C/P I	4.0																	
		項目																																		
		C/Pの配置の適切性	JE	4.7																																
			C/P D	5.0																																
	C/P I	4.0																																		
212 C/Pのプロジェクトへの参加割合は高いか。	5段階自己評価から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C/Pの活動・参加状況</td> <td>JE</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P D</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P I</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				C/Pの活動・参加状況	JE	4.0			C/P D	5.0			C/P I	4.0																			
項目																																				
C/Pの活動・参加状況	JE	4.0																																		
	C/P D	5.0																																		
	C/P I	4.0																																		
213 関係者のプロジェクト目標に対する認識は高いか。	5段階自己評価により共通認識の有無を判断する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロジェクト目標に対する認識</td> <td>JE</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P D</td> <td>4.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P I</td> <td>3.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>上位目標に対する認識</td> <td>JE</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P D</td> <td>4.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P I</td> <td>3.8</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				プロジェクト目標に対する認識	JE	4.0			C/P D	4.3			C/P I	3.8		上位目標に対する認識	JE	4.0			C/P D	4.4			C/P I	3.8							
項目																																				
プロジェクト目標に対する認識	JE	4.0																																		
	C/P D	4.3																																		
	C/P I	3.8																																		
上位目標に対する認識	JE	4.0																																		
	C/P D	4.4																																		
	C/P I	3.8																																		
214 各々の役割は明確であったか、	5段階自己評価から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C/Pの役割の明確度</td> <td>JE</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P D</td> <td>4.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P I</td> <td>3.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>Project</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				C/Pの役割の明確度	JE	4.0			C/P D	4.4			C/P I	3.6			Project	3.0															
項目																																				
C/Pの役割の明確度	JE	4.0																																		
	C/P D	4.4																																		
	C/P I	3.6																																		
	Project	3.0																																		

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

	215 また役割は各々に理解されていたか。	5段階自己評価から理解度を判定する	<table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>各々の役割の理解度</td><td>JE</td><td>4.0</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> <tr><td></td><td>C/P D</td><td>4.9</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> <tr><td></td><td>C/P I</td><td>3.8</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table>	項目				各々の役割の理解度	JE	4.0	■■■■■■■■■■		C/P D	4.9	■■■■■■■■■■		C/P I	3.8	■■■■■■■■■■								
	項目																										
	各々の役割の理解度	JE	4.0	■■■■■■■■■■																							
	C/P D	4.9	■■■■■■■■■■																								
	C/P I	3.8	■■■■■■■■■■																								
22 主体性	221 プロジェクト開始時にはJET主導で行われていた活動が、C/P主導に切り替わっているか。	5段階自己評価により主導性・オーナーシップの移行状況を判定する	<table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>主導性の移管状況</td><td>Project</td><td>5.0</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th>活動名</th><th>問題点(あれば)</th></tr> <tr><td></td><td>なし</td></tr> </table>	項目				主導性の移管状況	Project	5.0	■■■■■■■■■■	活動名	問題点(あれば)		なし												
項目																											
主導性の移管状況	Project	5.0	■■■■■■■■■■																								
活動名	問題点(あれば)																										
	なし																										
23 モニタリング	231 定期的なモニタリングが行われて(いるか)いたか。またどのような方法で行われたか。 232 モニタリングの結果はどのようにプロジェクトの活動に反映されたか。 233 モニタリング結果によりPO、PDMに軌道修正が適切に行われたか。	モニタリングの頻度の5段階自己評価により判定する。 5段階自己評価により反映実績の有無で判定する 5段階自己評価によりPO、PDMに対する軌道修正の有無で判定する	<table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>定期的なモニタリングの実施状況</td><td>Project</td><td>2.0</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table> <p>記述 23: モニタリング体制、モニタリング実績(実施回数)について記述された報告書</p> <table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>活動への反映状況</td><td>Project</td><td>4.0</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>PO、PDMの軌道修正状況</td><td>Project</td><td>4.0</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table>	項目				定期的なモニタリングの実施状況	Project	2.0	■■■■■■■■■■	項目				活動への反映状況	Project	4.0	■■■■■■■■■■	項目				PO、PDMの軌道修正状況	Project	4.0	■■■■■■■■■■
項目																											
定期的なモニタリングの実施状況	Project	2.0	■■■■■■■■■■																								
項目																											
活動への反映状況	Project	4.0	■■■■■■■■■■																								
項目																											
PO、PDMの軌道修正状況	Project	4.0	■■■■■■■■■■																								
24 プロジェクトのマネジメント体制	241 プロジェクト内のコミュニケーションに問題はないか。情報は共有されたか。	5段階自己評価によりマネジメントに係る情報伝達の実態を判定する	<table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>マネジメントに係る情報伝達の実態</td><td>JE</td><td>4.7</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> <tr><td></td><td>C/P D</td><td>4.9</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> <tr><td></td><td>C/P I</td><td>4.6</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table>	項目				マネジメントに係る情報伝達の実態	JE	4.7	■■■■■■■■■■		C/P D	4.9	■■■■■■■■■■		C/P I	4.6	■■■■■■■■■■								
	項目																										
マネジメントに係る情報伝達の実態	JE	4.7	■■■■■■■■■■																								
	C/P D	4.9	■■■■■■■■■■																								
	C/P I	4.6	■■■■■■■■■■																								
242 JICA本部・在外事務所、の軌道修正への対応は迅速であったか	5段階自己評価により迅速性を判断する	<table border="1"> <tr><th colspan="4">項目</th></tr> <tr><td>軌道修正への対応の迅速性</td><td>JE</td><td>3.7</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> <tr><td></td><td>C/P D</td><td>5.0</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> <tr><td></td><td>C/P I</td><td>4.2</td><td>■■■■■■■■■■</td></tr> </table>	項目				軌道修正への対応の迅速性	JE	3.7	■■■■■■■■■■		C/P D	5.0	■■■■■■■■■■		C/P I	4.2	■■■■■■■■■■									
項目																											
軌道修正への対応の迅速性	JE	3.7	■■■■■■■■■■																								
	C/P D	5.0	■■■■■■■■■■																								
	C/P I	4.2	■■■■■■■■■■																								
25 意思決定過程	251 プロジェクトでの意思決定の過程における問題点	意思決定のためのJCC、その他のミーティングの開催回数とその問題点の有無で判定する	<table border="1"> <tr><th>意思決定に係る会議名</th><th>回数</th><th>参加者</th><th>問題点</th></tr> <tr><td>JCC</td><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>(その他のミーティング)</td><td>9</td><td></td><td></td></tr> </table>	意思決定に係る会議名	回数	参加者	問題点	JCC	4			(その他のミーティング)	9														
意思決定に係る会議名	回数	参加者	問題点																								
JCC	4																										
(その他のミーティング)	9																										

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

	26 活動実施のための前提条件の変化	261 前提条件に変化があったか。 262 変化による影響はあったか。 263 また、それに対する対応は適切であったか。	前提条件の状況から判定する 1:プロジェクト活動で用いるDRBFC及びIGEの機材が使えるようになっている  2:DRBFC及びIGEが負担する本プロジェクト活動経費が政府より承認されている	記述 261 : 前提条件 2 DRBFC 及び IGE が負担する本プロジェクト活動経費の変化-なし  記述 262 : 前提条件 2 の変化があれば その変化内容・その影響・対応内容—なし  記述 263 : 変化に対する対応が適切であったかの考え-----なし			
	27 活動進捗上の問題点	271 プロジェクトの実施過程で生じている問題はあるか その原因はなにか	実施過程での問題点の有無で判定する	問題点 例えば認められている予算でも\$500-以上の支出には財務省の許可がいる	その原因		
		272 活動の進捗に影響を与えた正・負の要因はあるか。	活動の進捗に影響を与えた要因の有無で判定する	要因	負の要因の場合とられた対応	結果	
273 問題発生時（負の要因含）にどんな対応がとられたか。		問題発生時の対応の有無で判定する	問題	とられた対応 プロジェクト費用から仮払いを行った	結果		
28 初期	31 対象地域・社会のニーズと合致しているか	311 上位目標及びプロジェクト目標は受入国社会開発経済政策に合致しているか。	5段階外部評価で社会開発経済政策との整合性から判定する	項目			
		312 プロジェクト目標は関係機関のニーズに合致しているか。	5段階外部評価で関係機関のニーズから判定する	開発計画との関連	Project	5.0	
	32 対象Gの選定は妥当であったか	321 対象Gの選定は適切であったか。	5段階外部評価で関係者分析結果の内容から判定する	関係法令との関連	Project	5.0	
					EVT	3.0	
33 対象地域	331 対象地域は適切に選択されたか。	5段階外部評価から判定する	項目				
			対象地域選択の適切性	EVT	3.0		

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

	34 日本の援助政策との整合性はあるか。	341 援助重点政策との関連は？ 国別事業実施計画との関連性は？	5段階外部評価により日本の援助重点政策との関連から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>我が国の援助計画との関連性</td> <td>EVT</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				我が国の援助計画との関連性	EVT	5.0																																								
	項目																																																		
	我が国の援助計画との関連性	EVT	5.0																																																
	35 日本の技術の優位性	351 JICA は同様の支援を他で実施したことがあるか。	5段階外部評価により他国での同様の支援の有無から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>年月期間</th> <th>国名</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	年月期間	国名	内容																																											
名称		年月期間	国名	内容																																															
352 十分な知見・経験が日本に蓄積されているか。	プロジェクトの経験の蓄積の有無を5段階外部評価により判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>年月</th> <th>国名</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	年月	国名	内容																																													
名称	年月	国名	内容																																																
353 過去のプロジェクト（あれば）の経験やリソースは有効に使われたか。	5段階自己評価から本プロジェクトにおける過去の類似プロジェクトの経験やリソースの活用実績の有無を判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>結果</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過去のプロジェクトの経験やリソースの活用</td> <td>JE</td> <td>4.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P D</td> <td>4.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>C/P I</td> <td>4.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	結果			過去のプロジェクトの経験やリソースの活用	JE	4.3			C/P D	4.7			C/P I	4.6																																		
項目	結果																																																		
過去のプロジェクトの経験やリソースの活用	JE	4.3																																																	
	C/P D	4.7																																																	
	C/P I	4.6																																																	
有効性	41 プロジェクト目標と成果の関係	411 成果 1～3 はプロジェクト目標を達成するのに十分か 成果 1:【道路維持管理業務を適切にマネジメントできるようになる(道路橋梁治水局 DRBFC 職員対象)】 成果 2:【維持修繕を含む道路建設では質の高い工事ができるようになる (DRBFC 職員対象) 】 成果 3:【IGE の保有機械が適切に維持管理されるようになる (資機材局 IGE 職員対象) 】	5段階自己評価と外部評価から各成果のP目標との関係の深さを判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>成果は十分かどうか</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適切な道路の維持管理</td> <td>Project</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>質の高い工事の実施能力</td> <td>Project</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>適切な機材維持管理能力</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	成果は十分かどうか				適切な道路の維持管理	Project	3.0			EVT	4.0		質の高い工事の実施能力	Project	3.0			EVT	3.0		適切な機材維持管理能力	Project	4.0			EVT	3.0		平均																		
	成果は十分かどうか																																																		
適切な道路の維持管理	Project	3.0																																																	
	EVT	4.0																																																	
質の高い工事の実施能力	Project	3.0																																																	
	EVT	3.0																																																	
適切な機材維持管理能力	Project	4.0																																																	
	EVT	3.0																																																	
平均																																																			
42 プロジェクト目標達成のための外部条件	421 プロジェクト目標を達成するための外部条件は現時点においても正しいか 外部条件 1.指導を受けたDRBFC及びIGE職員が勤務を続ける 2.予測不可能な自然災害が発生しない。 3.IIGEの大幅な組織変更もしくは解体等 4.IGE所有機材の借方が使用後に契約どおりにIGEに返却する。 5.IGE 所有機材の借方が借入機材を適切・安全に使用する。	5段階自己評価と外部評価から外部条件の妥当性を判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>外部条件の妥当性</th> <th></th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGE の機能組織変更</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGE 機材の返却時の問題</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平均</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	外部条件の妥当性				職員の継続的な勤務	Project	5.0			EVT	4.0		大きな自然災害の発生	Project	5.0			EVT	4.0		IGE の機能組織変更	Project	5.0			EVT	4.0		IGE 機材の返却時の問題	Project	5.0			EVT	5.0		機材借用者の使用方法	Project	4.0			EVT	4.0		平均			
外部条件の妥当性																																																			
職員の継続的な勤務	Project	5.0																																																	
	EVT	4.0																																																	
大きな自然災害の発生	Project	5.0																																																	
	EVT	4.0																																																	
IGE の機能組織変更	Project	5.0																																																	
	EVT	4.0																																																	
IGE 機材の返却時の問題	Project	5.0																																																	
	EVT	5.0																																																	
機材借用者の使用方法	Project	4.0																																																	
	EVT	4.0																																																	
平均																																																			

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

	422 外部条件によるプロジェクト目標達成への影響はあるか	5段階自己評価と外部評価の双方から影響の有無を判定する	外部条件による影響			
			職員の継続的な勤務	Project	5.0	
			EVT		4.0	
	43 阻害要因	431 その他プロジェクト目標達成の遅れを招いている阻害要因はあるか	項目			
			遅れに対する阻害要因の有無・量	JE	4.0	
				C/P D	4.6	
	44 プロジェクト環境の変化	441 プロジェクト環境（ドナーの援助傾向も含む）に変化はあったか。	項目			
			プロジェクト環境の変化状況	JE	4.0	
				C/P D	4.6	
初率性	52 投入、活動、成果の相関関係	521 活動は成果算出のため十分であったか 投入の量・質は十分であったか。 またタイミングはよかったか	量・質は十分かどうか			
			日本人専門家	Project	4	
			供与資機材	Project		
	53 費用の効率性	531 投入に見合ったアウトプットやプロジェクト目標の達成が見込めるか	タイミングの適否			
			日本人専門家			
			供与資機材			
	53 他ドナーやスキームとの調整・協力	531 プロジェクト効果を高めるために他ドナー・スキームとの援助協調・協力はあったか。	協力状況			
				Project	4.0	

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

54 外部条件 (PDMに規定されていないため削除)	541 成果達成のための外部条件は現時点においても正しいか 【Officers (counterparts) of DRBFC and IGE trained in the Project continue their services at their own agencies (they do not quit in the middle of the project)  Unforeseen natural calamities which destroy the case-study roads area in the middle of activities do not happen.  Current function and role of IGE are maintained.  Borrowers (user client) return the machines / equipment / tools to IGE after use as contracted.  Borrowers (user client) properly and safely operate the machines /equipment /tools of IGE so that unrepeatable breakage or damage do not often happen by wrong use  】【活動の進捗を妨げるような、社会不安・治安の悪化が起こらない】	5段階自己評価と外部評価から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">外部条件の現況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>Project</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGEの機能組織変更</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGE機材の返却時の問題</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会不安・治安の悪化</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>平均</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	外部条件の現況				職員の継続的な勤務	Project				EVT	4.0		大きな自然災害の発生	Project	5.0			EVT	4.0		IGEの機能組織変更	Project	5.0			EVT	5.0		IGE機材の返却時の問題	Project	4.0			EVT	4.0		機材借用者の使用方法	Project	5.0			EVT	4.0		社会不安・治安の悪化	Project	4.0			EVT	4.0			平均		
	外部条件の現況																																																										
	職員の継続的な勤務	Project																																																									
		EVT	4.0																																																								
大きな自然災害の発生	Project	5.0																																																									
	EVT	4.0																																																									
IGEの機能組織変更	Project	5.0																																																									
	EVT	5.0																																																									
IGE機材の返却時の問題	Project	4.0																																																									
	EVT	4.0																																																									
機材借用者の使用方法	Project	5.0																																																									
	EVT	4.0																																																									
社会不安・治安の悪化	Project	4.0																																																									
	EVT	4.0																																																									
	平均																																																										
542 外部条件による影響はないか。	5段階自己評価から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">外部条件による影響の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員の継続的な勤務</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大きな自然災害の発生</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGEの機能組織変更</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IGE機材の返却時の問題</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機材借用者の使用方法</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会不安・治安の悪化</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>平均</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	外部条件による影響の有無				職員の継続的な勤務	Project	5.0		大きな自然災害の発生	Project	5.0		IGEの機能組織変更	Project	5.0		IGE機材の返却時の問題	Project	5.0		機材借用者の使用方法	Project	4.0		社会不安・治安の悪化	Project	4.0			平均																											
外部条件による影響の有無																																																											
職員の継続的な勤務	Project	5.0																																																									
大きな自然災害の発生	Project	5.0																																																									
IGEの機能組織変更	Project	5.0																																																									
IGE機材の返却時の問題	Project	5.0																																																									
機材借用者の使用方法	Project	4.0																																																									
社会不安・治安の悪化	Project	4.0																																																									
	平均																																																										
55 関係する要素	551 成果の達成状況に対する貢献要因はあるか。	5段階自己評価と外部評価から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成果達成に対する貢献要因の有無</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				成果達成に対する貢献要因の有無	Project	4.0			EVT	3.0																																													
	項目																																																										
成果達成に対する貢献要因の有無	Project	4.0																																																									
	EVT	3.0																																																									
552 成果の達成状況に対する阻害要因はあるか。	5段階自己評価と外部評価から判定する	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成果達成に対する阻害要因の有無</td> <td>Project</td> <td>4.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>EVT</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目				成果達成に対する阻害要因の有無	Project	4.0			EVT	3.0																																														
項目																																																											
成果達成に対する阻害要因の有無	Project	4.0																																																									
	EVT	3.0																																																									
インパクト	61 上位目標の達成度	5段階自己評価と外部評価から判定する 指標:1 道路不通箇所 の減少度 2 道路不通期間の 短縮度 3 道路の品質(劣化 箇所数の減少)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">指標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">不通箇所の減少度</td> <td>Project</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>EVT</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">不通期間の短縮度</td> <td>Project</td> <td>1.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>EVT</td> <td>2.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">劣化箇所数</td> <td>Project</td> <td>5.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>EVT</td> <td>3.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標				不通箇所の減少度	Project	3.0		EVT	2.0		不通期間の短縮度	Project	1.0		EVT	2.0		劣化箇所数	Project	5.0		EVT	3.0																																
指標																																																											
不通箇所の減少度	Project	3.0																																																									
	EVT	2.0																																																									
不通期間の短縮度	Project	1.0																																																									
	EVT	2.0																																																									
劣化箇所数	Project	5.0																																																									
	EVT	3.0																																																									

調査結果総括

プロジェクト(終了時評価)

62 上位目標達成の可能性	621 プロジェクト終了後、3年後に上位目標が達成される可能性があるか。	5段階外部評価から判定する	項目				
			上位目標達成の可能性	EVT	3.0		
	622 上位目標達成の阻害要因はあるか。	5段階自己評価と外部評価から判定する	項目				
			上位目標達成に対する阻害要因の有無	Project	4.0		
				EVT	3.0		
63 プロジェクト目標と上位目標の相関関係	623 C/Pは上位目標を理解しているか。	5段階自己評価から判定する	項目				
			上位目標の理解度	Project	4.0		
				EVT	3.0		
	631 プロジェクト目標と上位目標は乖離していないか。	5段階自己評価と外部評価から判定する	項目				
			上位目標とプロジェクト目標間の乖離	Project	4.0		
			EVT	4.0			
64 波及効果	632 上位目標達成のための外部条件は現時点でも正しいか。 外部条件： 1.道路施工・維持管理に係る政府財源が安定して確保される 2.車両交通量が予測を超える程に激増しない	5段階自己評価と外部評価から判定する	外部条件				
			政府財源の安定確保	Project	5.0		
				EVT	4.0		
				車両交通量の大幅増加	Project	3.0	
					EVT	3.0	
71 政策・制度面	641 上位目標以外の効果・影響が想定されるか？	5段階自己評価から判定する	上位目標以外の効果				
			プラス効果	Project	4.0		
				Project	2.0		
			マイナス効果軽減のためにとった対策	結果			
持続性	711 日本の支援終了後に、受入国政府がプロジェクトの実施を支援するか。	5段階自己評価から判定する	項目				
			政府の持続的支援の可能性	JE	3.7		
				C/P D	4.5		
				C/P I	3.6		
	72 財政面	721 プロジェクト活動を継続するために、今後受入国政府より予算が確保できるか。	5段階自己評価から判定する	項目			
				予算確保の可能性	JE	4.0	
				C/P D	4.0		
				C/P I	4.0		
	73 組織面	731 プロジェクト実施体制は、プロジェクト終了後も活動を実施・普及する組織的能力があるか。	5段階自己評価から判定する	項目			
				組織的能力	JE	4.0	
				C/P D	4.9		
				C/P I	4.2		
74 能力・技術面	741 C/Pは、効果的に活動を実施する能力を携えているか。モチベーションを有しているか。	5段階自己評価から判定する	項目				
			C/Pの活動実施能力	JE	3.7		
			C/P D	5.0			
			C/P I	4.6			



